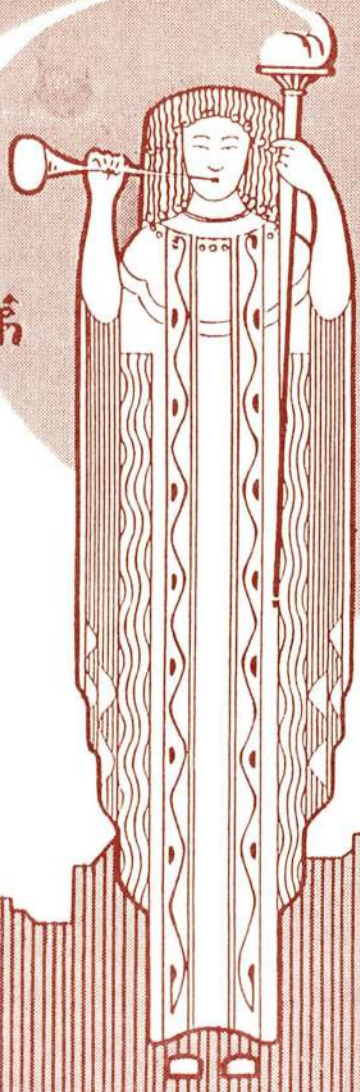
日本建築協會雜誌

大正六年八月十四日（第三種郵便物認可）
大正八年七月廿一日發行（毎月一回廿一日發行）



第二輯　第七號

大正八年七月二十五日

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ眞實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ賛成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ諮決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ諮決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利益ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ニ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノ會則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリ、又ハ會費ヲ滯納シ尚ホ督促ヲ受ケタル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ除名シ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求ノ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會務ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年ト

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　計　一　一名

三　編　輯　三　名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ク各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タル人承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金壹圓ヲ本會ニ前納スヘシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

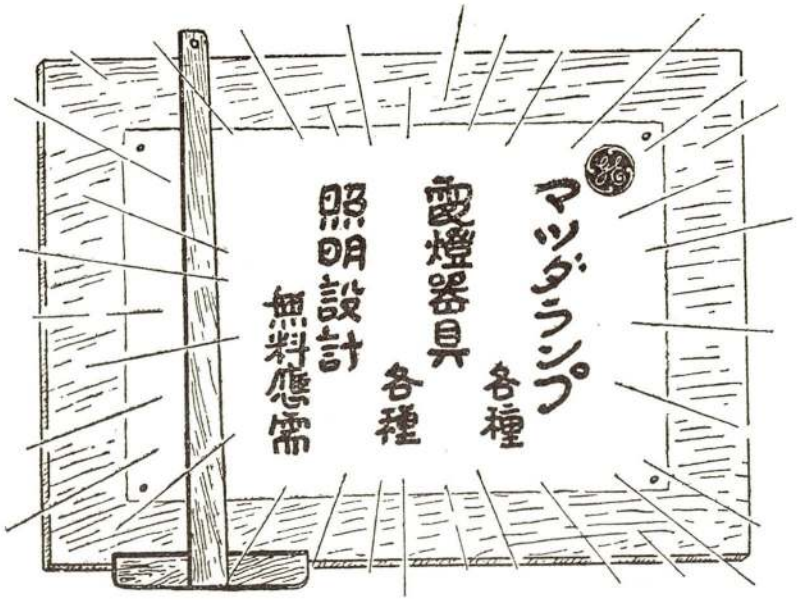
本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立積金ハ每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產積立積金及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



製圖と定規

建築と燈火とは製圖と定規に於けるが如し。

完全なる建築とは正確なる燈火を設計したるの謂なり。

大阪出張所

西區阿波堀通一丁目

電話新町（長）六三〇
八九八

東京電氣株式會社

神奈川縣川崎町

D-192

日本建築協會雜誌 第貳輯第七號

目次

□ 繪 ｛在大阪木村鎌之助氏邸宅（三色版）
　　｛公會堂の屋上より俯瞰大阪市全景（自一至八）

△我國の建築界漸く重大ならんとす……會　員　片岡安……一

△大連市の建築規則に就て……會　員　片岡安……二
　＝建築技師に對する壓迫＝

△軍備と文化（中）……法學博士　渡邊鐵藏……一〇

△都市研究の必要（上）……都市研究會副會頭　内田嘉吉……一四

△都市計畫に就て（一）……内務事務官　吉村哲……二〇

△住宅問題と田園都市（A）……都市事情研究會員　三宅勘一……二七

△市民劇場の設立を望む（下）……會　員　葛野壯一郎……三三

△本邦現代住宅改良の施工法（一）……會　員　小笠原鈅……三七

△女流の住宅觀……大江壽美子談……四六

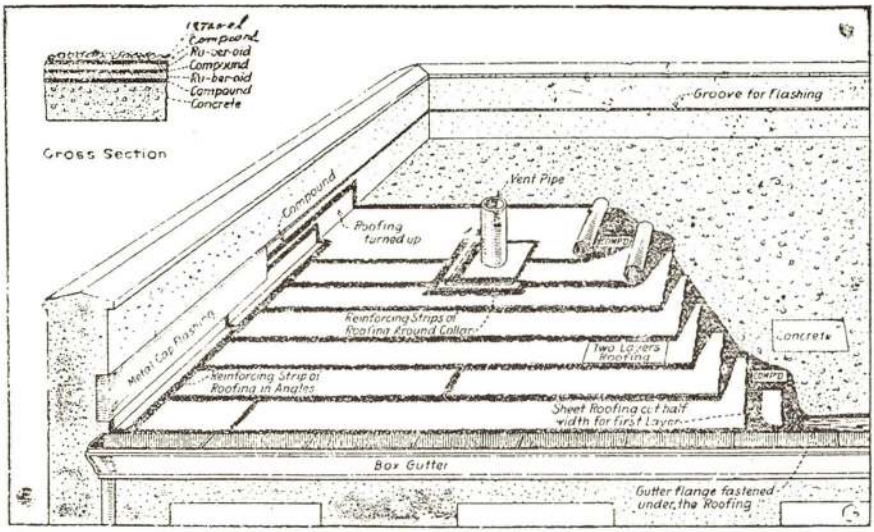
□住宅觀念の缺乏した人

□掃除の手數を省く新工夫……前外國語學校教授 淺田榮次郎氏未亡人 淺田みか子 談……五〇
□凡てを自由に興味の動く儘動作に便利な家……增田信一氏夫人 增田きく子 談……五四
□便利な家としての三つの要素……山本久榮子 談……五八
△街道樹論(一)……特別賛助員 農學士 大屋靈城……六一
△樣式の上にあれ！(下)……會員 村野藤吉……六五
△都市と住宅……
□都市住宅問題に就て……大阪税關長 松本脩 談……七三
△京都古建築觀(十一)……特別賛助員 伊藤清造……七六
△本邦森材の伐材寸法概要……會員 谷民藏……八一
△調査……
□横濱市大火罹災家屋に關する調査(A)……九二
□大阪市接續町村下水道調査綱要(一)……一〇一
△時報……一〇五
△會報……一〇八
△編輯たより……一一一

附錄

△巴里市衛生規則……(十頁)

S.P.C.式ラバロイド葺
陸屋根工事



●健全なる肉體は健全なる精神に宿り!!

上圖は鐵筋コンクリート造陸屋根構成法の一例を示せるものにして（木造の際も畧同樣なり）本施工法が如何に信用厚きかは百聞は一見に如かず左の實例に就て見られよ

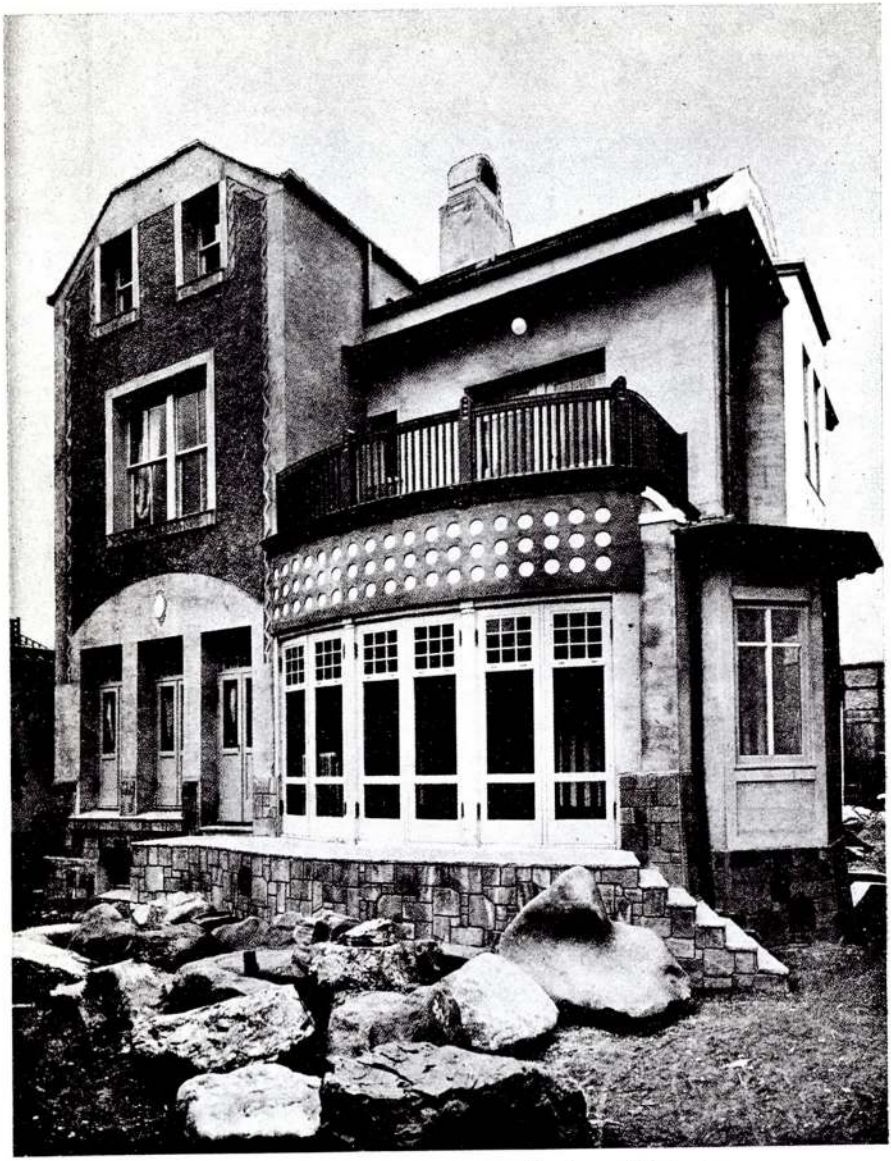
S.P.C.式陸屋根防水工事の主なる施工先

キリンビール會社神崎工場（曾彌中條建築事務所御設計）
三越吳服店大阪支店（横河工務所御設計）
日本グリセリン會社工場（茂野村建築事務所御設計）
北陸電化株式會社工場（渡邊建築事務所御設計）
神戸川崎銀行（片岡建築事務所御設計）
三井物産會社玉造船所（渡邊建築事務所御設計）
東京海上保險會社（曾彌中條建築事務所御設計）
東京電氣會社工場（同社營繕課御設計）
日本工業俱樂部會館（横河工務所御設計）
神戸郵便局（遞信省御設計）
神戸正金銀行（長野建築事務所御設計）
大阪電球株式會社（宗建築事務所御設計）

（御用の節は御一報次第社員參上細詳は說明申上可候）

●完全なる建築にラバロイド使用さる!!

株式會社 明正社建築材料部
大阪市西南區南通三丁目 電話土佐堀 三三〇一番
本社 東京支店 司門出張所 神戸育紐



在大阪　木村鎌之助氏邸宅

（大阪栗田製版印刷）

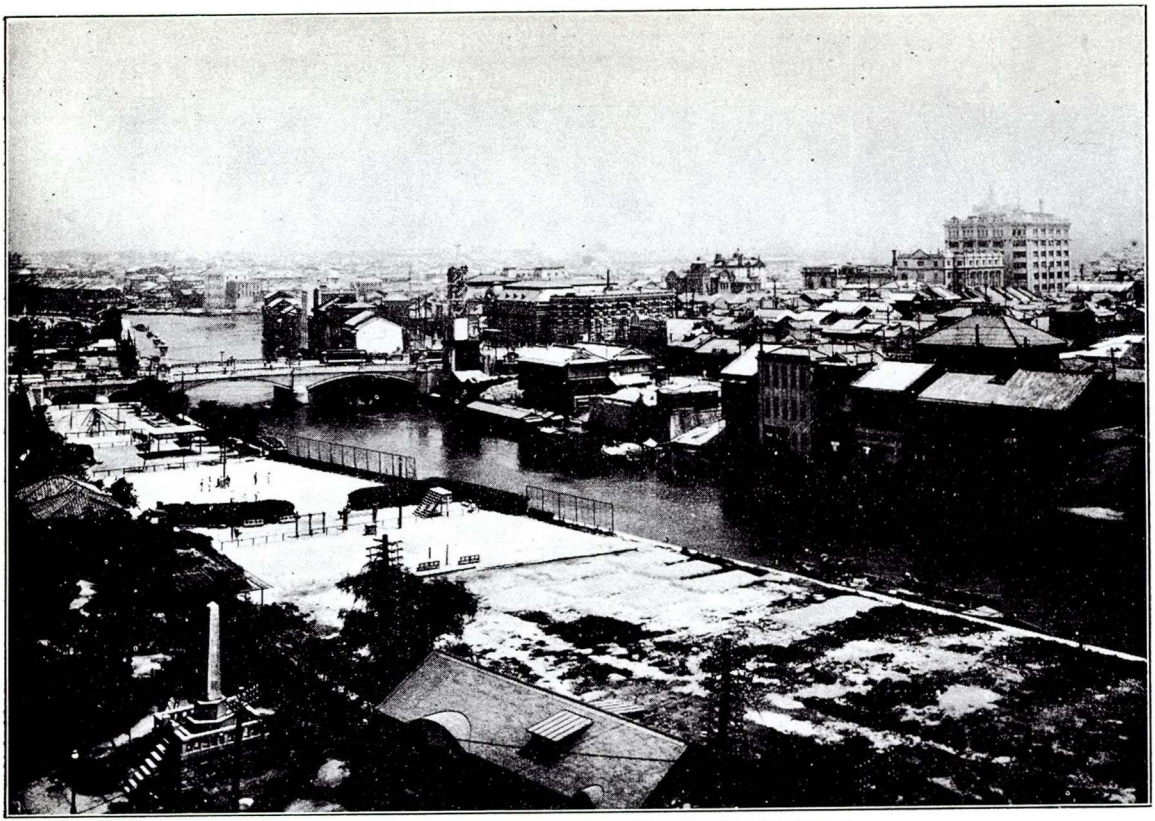


大阪市中央公會堂屋上より俯瞰　大阪市全景（其一）

大阪市南部　（土佐堀川を隔てゝ北濱を望む）

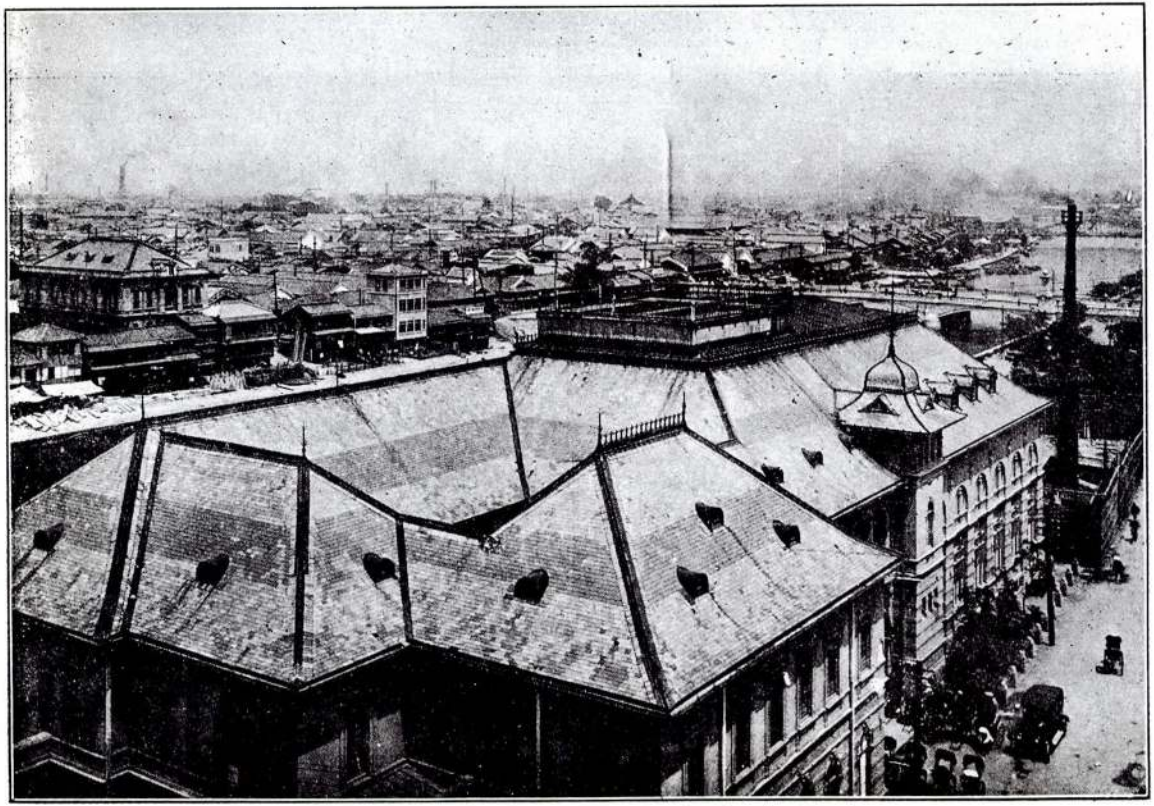
右端に見ゆるは日本生命保險會社及三菱銀行大阪支店にして中央遠く黒みたるは新築中の芝川商店なり

大阪市中央公會堂屋上より俯瞰　大阪市全景（其二）



大阪市南東部（土佐堀川を隔てゝ北濱を望む）

右端に見ゆるは三越呉服店及三井銀行大阪支店にして中央部には愛國生命保險・帝國生命保險大阪株式取引所の諸建築あり



大阪市中央公會堂屋上より俯瞰　大阪市全景（其二）

大阪市南北部　（堂島川を隔てゝ天滿一圓を望む）

眼下に在るは大阪「ホテル」其東隣は銀行集會所燒跡右方には難波・天神及天滿の三大橋横たはり

大阪市中央公會堂屋上より俯瞰

大阪市全景（其四）



大阪市北部（堂島川を隔てゝ望む）

眞向に在るは大阪控訴院の大建築にして左端に見ゆるは大阪中央北部電話交換局なり
右方煙突の林立せるは大阪北部の工業地帶也

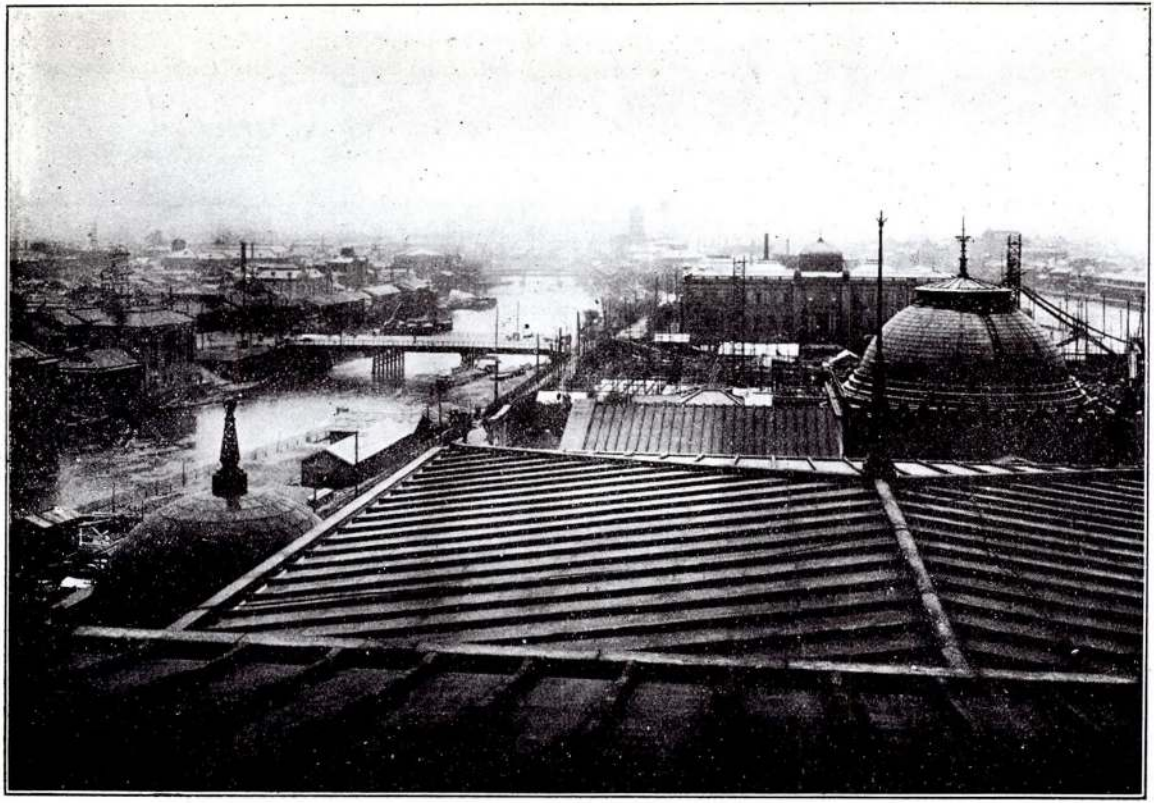


大阪市中央公會堂屋上より俯瞰

大阪市全景（其五）

大阪市南西部（堂島川を隔てゝ望む）

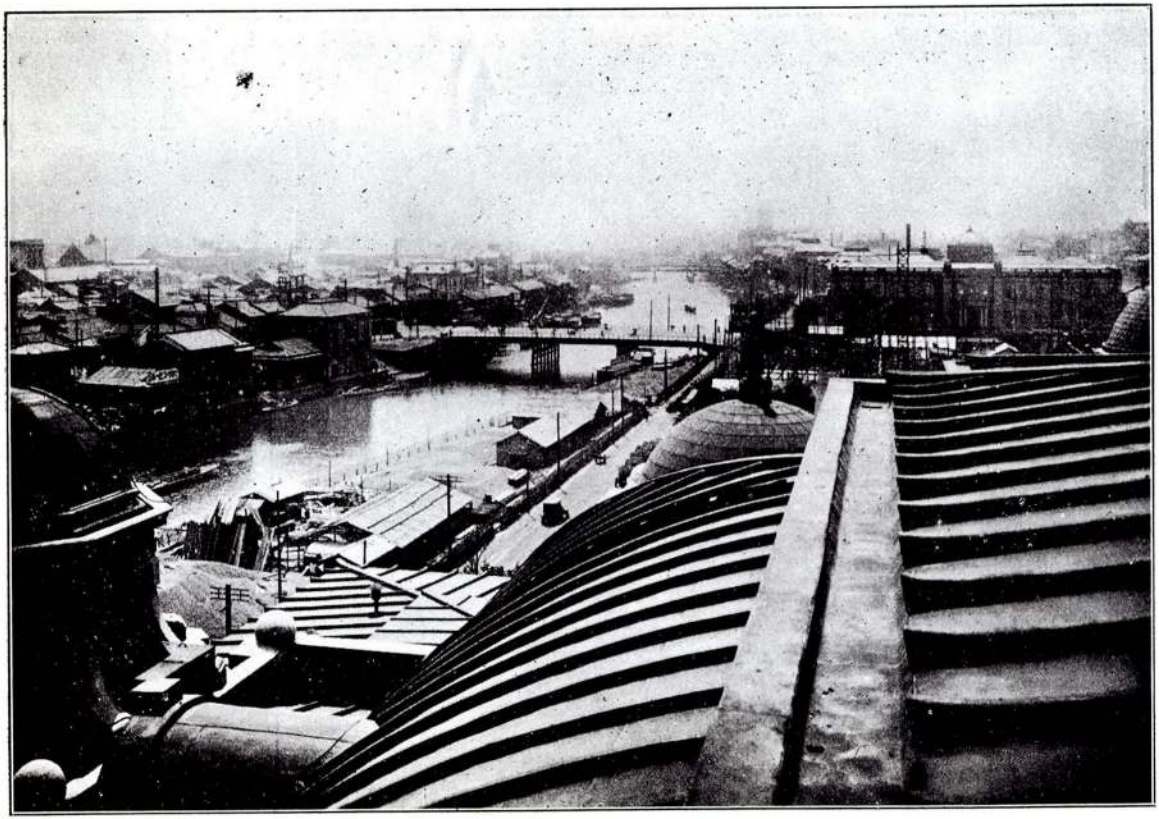
右方に在るは回生病院左方大江橋北詰には新築中の福徳生命保険會社にして左端に在るは米穀取引所なり



大阪市中央公會堂屋上より俯瞰　大阪市全景（其六）

大阪市西部（中の島の遠望）

前方近く大阪市圖書館及日本銀行支店より遠く黒みたるは大阪朝日新聞社の高塔なり左方土佐堀川を隔てゝ山口銀行大阪毎日新聞社・十八銀行・住友銀行等の諸建築を望む



大阪市中央公會堂屋上より俯瞰

大阪市全景（其七）

土佐堀川沿岸

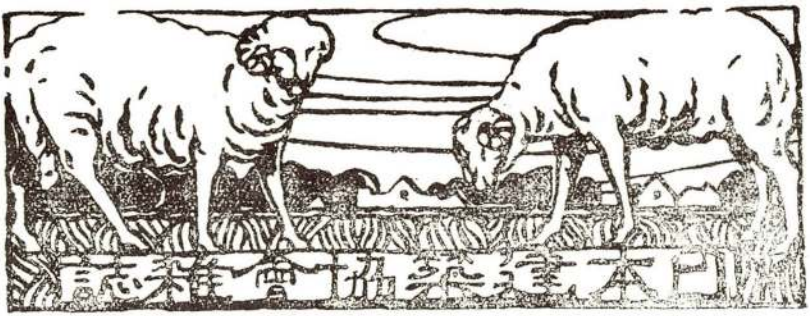
淀屋橋右端には工事中の大阪市廳舍建築場あり左方に遠く見ゆるは朝鮮銀行及大阪倶樂部元北濱帝國の諸建築なり



大阪市中央公會堂屋上より俯瞰　大阪市全景（其八）

大阪市西南部

淀屋橋南詰一帶の遠望にして將來の重要地域なり左端に見ゆるは日本生命保險會社にして遠く黒みたるは新築中の日本興業銀行大阪支店なり



我國の建築界漸く重大なるとす

古來我國にては家屋の修築を道樂の一に數へ、住居の不完全、店舖の狹隘及び官省の修飾なき建築振りを以て風俗の美善となし社會の堅實なる狀態と考へたり而して其時代の藝術を集め、技巧の蘊蓄を盡し、以て我國建築術の命脈を維持し來りしは僅に宗教上の建築に限られたるの觀あり。明治維新以來庶政の革新と共に建築の改善は各方面に勃興し、大に其面目を改めたりと雖も、其大勢は依然として姑息を極め、災害に對する防備に欠け、衛生其他の設備亦不充分なるを常とし、活動の敏捷を援け生活及經濟の安定を確保する能はざるの憾多かりき。然るに最近世界大戰亂の影響は遂に我國社會一般の生活觀を向上せしめ、此處に實質堅牢なる事務室と好適低廉なる住居の要求を叫ばしむるに至れり。都市建築の大改造と新式住宅の經營は今や單に都市の問題にあらずして實に國民經濟の中心事項たらんとす。業に建築に從ふものは固より經世濟民の志あるものは須らく我國今後の建築に對して其善導を怠るべからず。



大連市の建築規則に就て

═建築技師に對する壓迫═

會員　片岡安

一

關東廳令第十七號は大正八年六月九日附を以て大連市建築規則を發布し、公布の日より之を施行することを告示したのである。其内容は大体に於て都市建築改善の旨意を以て編成されたるものなれば、吾人は其施行の急速に斷行されたるを慶賀し、同行政廳の勇氣を稱賛するを惜まぬものであるが、其内容の細目に亘りて詳しく之を調査するとき其中に見逃すべからざる二三の欠陷の存在するを憾とする。

建築の構造及設備に關する問題は暫く之を保留し、其建築技術者に對する制裁に就きて之を見るに本文第六十三條に

主任技術者ハ工事ノ設計並施行上技術ニ關スル一切ノ責ニ任スベシ

圖面仕樣書及構造強度計算書ニハ主任技術者之ニ署名スベシ

主任技術者自ラ工事ヲ監督スルコト能ハザルトキハ工事監督者ヲ定メ届出ヅベシ

とあり又其第六十八條に於て

工事監督者ニシテ不適任ト認ムルトキハ關東長官ハ其ノ改任ヲ命ズルコトアルベシ

とあり、即ち如何なる建築にても主任技術者を定め其工事の技術上の責任者となすべきを命令するは、大体に於て之を善しとするも、關東長官が工事中の建築に對してその監督者の退去を命じ得るは果して適法の行爲なるや否や甚だ疑はしいのである。而して同法附屬の主任技術者檢定規則第八條に

學校、病院、劇場、會堂、相當規模ノ工場、其ノ他公共建物ハ第一級技術者ニ非サレバ其ノ工事ヲ擔任スルコトヲ得ズ

と規定し、其第一條に

左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ檢定委員ノ銓衡ヲ經テ無試驗ニテ第一級主任技術者タルコトヲ得

一　帝國大學工學部建築學科ヲ卒業シタル者

二　高等程度ノ工業學校建築科ヲ卒業シ二年以上實務ニ從事シタル者

三　建築ニ關シ前號同等以上ノ學識經驗アリト認ムル者

とあるを見れば、相當重要なる建築は第一級主任技術家に之を委任せしむるを原則とし、其他の建築は第二級主任技術家にても其責任の位地に立つを得る規定である。同檢定規則第二條に

左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ檢定委員ノ銓衡ヲ經テ無試驗ニテ第二級主任技術者タルコトヲ得

一　高等程度ノ工業學校建築科ヲ卒業シタル者

二　中等程度ノ工業學校建築科ヲ卒業シ三年以上實務ニ從事シタル者

とあり、又其第三條に

三年以上建築技術ノ實務ニ從事シ且檢定試驗ニ合格シタル者ハ第二級主任技術者タルコトヲ得

前項ノ檢定試驗ハ中等程度ノ工業學校卒業程度ニ依ル

と規定し、尙一般受檢者の爲めには、毎年一回檢定試驗を行ひて其免許を與ふるの組織である。即ち電氣事業取締の爲めに遞信省令は其取扱主任技術者資格の甲乙を檢定試驗又は銓衡によりて區別して居るのと大体その趣意を同ふするものである。一体建築の如き社會一般に普偏的に貫流する事業を或る指定の技術者にのみ其設計監督を委任せしむることは、果して合法的のものなるや否やは可なり大きな問題であるけれども、少くとも或る程度を定めて社會的に又經濟的に重要なる建物をば、相當理解ある技術者にのみその處理をなさしめることは、絶對に必要のことゝ言はねばならぬのである、乍併上記大連市の建築規則に於て命令するが如き極端に單純なる規定は或は適法なるや否や大に疑はしいのである。

又其無試驗の資格として數へらるゝ項目の中に甚だ不條理の點少からず、殊に帝國大學建築學科の卒業生なればとて全く無經驗のものに直ちに第一級主任技術者の免許を與へたり、又高等工業學校建築學科の卒業生に對しては卒業したばかりの無經驗のものには第二級主任技術者の資格を與へて、二三年以上の經驗あるものには第一級の資格を與ふる點などは不條理も甚しいと言はねばならぬ。又檢定試驗に餘り重きを置くときは實際上技術家に對し容易からぬ壓迫を加ふる傾向なきにあ

らず、それ等の事情は大に研究の價値ある問題である。

二

更に同規則の主任技術者檢定規則第十條に於て規定せる技術者に對する最高報酬率の命令を見る時は、吾人は如何にもその無法不條理を感ぜざるを得ないのである。其第十條に曰く

主任技術者ハ建築人（注文者？）ニ對シ別表標準以外ノ報酬ヲ要求スルコトヲ得ズ

又其第十一條に於ては

主任技術者建築人ニ對シ不當ノ報酬ヲ要求シ若ハ大連市建築規則ニ違反シ又ハ第五條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ檢定ヲ取消スコトアルベシ

と規定してある。而して其別表の報酬標準の低率なるは實に驚くべきものである。

第一號……住宅、商店、別莊、旅館、料理店、寄席、倶樂部、劇場、社寺ノ類

第二號……學校、官衙、病院、博物館、圖書館、銀行、會社ノ類

第三號……倉庫、工場、臨時的建物ノ類

報酬率（工費ニ對スル百分率）

工費	第一號	第二號	第三號
五千圓	五・六九	五・一二	二・八四
一萬圓	四・八〇	四・三二	二・四〇

二萬圓	四・〇九	三・七〇	二・〇五
三萬圓	三・七六	三・三七	一・八八
四萬圓	三・五四	三・一九	一・七六
五萬圓	三・三七	三・〇四	一・六九
拾萬圓	二・九八	二・六八	一・四八
二十萬圓	二・六四	二・三八	一・三二
三十萬圓	二・四七	二・二三	一・二四
四十萬圓	二・三九	二・五一	一・一九
五十萬圓	二・三二	二・〇八	一・一六
百萬圓	二・一一	一・九一	一・〇五
二百萬圓	一・九七	一・七八	〇・九八
三百萬圓	一・八九	一・七〇	〇・九五
五百萬圓	一・八一	一・六三	〇・九一
一千萬圓	一・七三	一・五五	〇・八六

而して其の報酬内譯を略設計、本設計、豫算及監督の四項に分ちそれ〳〵に對する報酬の率を各號に付き細別せるところは可なり精密であるが、その根本の合計率の低きは恐らく世界を通じての最も珍現象の一であるかと思はれる。今より約十年前我建築學會は建築工事の設計及監督の報酬率

を作製して之を發表したことがある。其の率は大体に於て低率のものであつて、今日は其の適用を以て正當とするものは殆んどないようであるが、之を大連市建築規則が制定する上記の率に比較すれば尚多少の高率のものであつた、吾人は歐米各國の實例を尊重する意味以外に工費の多少により常に其報酬率を加減することの實際的不便と其不合理を感ずるものであるが、今茲には其問題を評論することを他日に譲り、唯單に我日本建築士會に於て規定せる建築工事の設計監督報酬率を示すに止める。

建築物ノ略圖案、設計及監督ノ業務ニ對シ建築士ノ受クル報酬定率ハ工費總額ノ百分ノ五ヲ最低トス

一　略圖案トハ依頼者トノ相談ヲ經テ大略ノ考案ヲ提供スルモノヲ云フ

二　設計トハ建築ヲ實施スルニ要スル設計圖及詳細圖、仕様書及工費豫算書ノ作成ヲ云フ

三　監督トハ工事ノ指導監督、請負契約事務、工費仕拂調査及承認ヲ云フ

左記ノ場合ニハ報酬定率ヲ增加スルモノトス

一　工費總額參萬圓以内ノ建築

二　住宅、住宅附屬建造物、紀念建築物、家具、庭園建築、裝飾物等

三　各種建造物ノ修繕及變更

左記ノ場合ニハ報酬定率ヲ減少スルモノトス

一　同一ノ設計ヲ以テ同時ニ貳箇以上ノ建築ヲ實施スルトキ

二　工場、倉庫其他建築ノ性質簡單ニシテ建坪ノ大ナルモノ

（以上ハ大正六年十月日本建築士會總會ニテ決定セル建築士ノ業務及報酬規定ノ一部抄錄）

三

建築技術者がその報酬を請求する場合に何等の標準なく依頼者の態度によりて其率を變更するが如きは社會的に見て確かに一の罪惡であるけれども、或る一定の率を官憲に於て定め其以上の報酬を請求するを得ずと規定するが如きことは、專門職業に對する一種の侮辱である。醫師の診察料及辯護士の報酬を一定率に定めて其れ以上の請求を禁遏したならば社會は果して之を見逃すであろふか、幸にして如何なる壓制者も未だ嘗て斯かる專門職業壓迫を敢てしなかつたから、斯かる忌まゝしき事件は起らなかつたのであろふ。建築技術家が建築士として社會に於て其業務を行ふ時は醫師又は辯護士と同じく其專門的技能に依り其報酬を受くる權利を有するのであつて、其報酬率に於ても各自其權威を發揮する程度に之を定める權利を有する筈である。故に同職業者の團體にては一般的の權威として其最低率を定め、各箇人は其最低率を底面としたる相當の箇人的率を規定し之を公表して社會に臨むを至當とする。現に吾人の屬する日本建築士會に於ては其規定を發表し、又其所屬建築士もそれ〳〵右規程より低からざる程度に其率を定めて業務を取扱ひつゝあり、又そうせねばならぬのである。然るに何事ぞ大連市は如何に支那領土なればとて我官憲の政令によつて活動しつゝある處なるに、其地に於ける我々同職業者が上述の如き壓迫と侮辱を受けんとするが如き、寔

に昭代の一不祥事と言はねばならぬのである。

由來殖民地に於ては壓制の政令多きものではあるが、其効果に於て見るべきものあるに於ては、或る程度までは其壓制も我慢してよろしいけれども、無意味に專門的職業を壓迫し、紳士道に反する侮辱を加ふるは正さに現代の政令とは覺へぬのである。關東廳の有司大に反省すべき事柄にあらずや。現今にても田舍の小都會に到れば警察署の干渉にて哩程に應じて車夫の賃金を規定しそれ以上請求するを禁じてあるのは事實である。大連市は先づ田舍格と見て官憲よりの御達は建築士の報酬金額を規定しそれ以上請求するを禁じてあるのであろふと冷評するものもあるが、建築士と車夫と同一程度の人格に取扱はんとするは實際上餘りに殘酷な態度である。商業の原則としては薄利多賣は必ずしも不都合のことではない、むしろトラストの弊害を打破るには屈竟の方策とせられて居る。乍併專門的職業の報酬を益々低下せしめんとするが如きことは社會道德の破壞を誘致し、科學や藝術を尊重するの氣風を挫くと言はれても一言もない筈である。古來專門的職業の報酬の最高を官憲の力にて定められた例は餘り之を耳にしたことはない、又事實不合理にして不可能のことである。否不可能にはあらざるも其職業の頽荒を誘致するの虞がある。事は建築士の職業問題に過ぎざる如きも其内實に於ては社會上重大なる意味を有するが故に其大樣を紹介して、識者の批判を求めるのである。



軍備と文化（中）

法學博士　渡邊鐵藏

＝七＝

軍備が國家自衛上必要なる點に於ては、恐らく何人も異論なかるべし、而して其負擔の寧ろ過重なることも亦多數人の了知し在る處なるべし、獨り日本のみならず各國共軍費の負擔は實に重しとす。斯の意味に於て、吾人は具体的の問題として、我陸海軍の兵數減少及徵兵年限短縮なる意見を有す、されど、這は他日の機會に讓り、今此處には、軍費負擔の重き一二の事例を述ぶるとゝせん。吾人は、戰爭の影響を受けざる戰前に於て、獨、英、佛、米及我邦等主なる交戰國に於ける軍事費を調査せり、斯の結果に據れば、大正二年に於て、獨逸は五億一千四百萬圓餘、英吉利は七億七千百萬圓餘、佛蘭西は七億二千五百萬圓餘、合衆國は五億七千四百萬圓餘、日本は一億九千五百萬圓餘なりき。之を國庫の總豫算支出に對して千分比例に見ん歟獨逸は四百九十四、英國は三百九十、佛國は三百四十七、合衆國は二百九十八、日本は三百二十九となれり。斯の數字に據らば、各國共國庫支出の大部分を軍費に投じ、國民は非常な負擔を蒙り之が爲に苦みつゝあるなり。されど、斯の費額のみを以て、直ちに、就れの國が其財政の割合に應じて多くの軍費を支出しあるやの判斷とはならざるなり。蓋し、獨逸も亞米利加も聯邦より成立しあるが故に、軍事費以外の行政

教育、其他の費用は國庫の豫算内に現れざるもの多く、寧ろ獨逸帝國或は全合衆國の所要豫算以外のもの多し。斯の點より云ふも、必ずしも獨逸其他の國に於ける軍事費は割合に多しと謂ふべからず。日本に於ても、地方財政を調査せざれば、軍事費に對する他の總ての支出割合を知る能はざるなり。此處に擧げたる件の數字は唯世界中何れの邦も其軍備に對して多大なる負擔を爲しつゝある事實を示すにあるのみ。

═ 八 ═

併し乍ら、日本のみに就て、等しく大正二年度に於ける國庫豫算を覽るに、陸海軍費の實に莫大なるものあるを識る。即ち、豫算の千分中、陸海軍は百六十以上にして、兩者併せて實に三百三十を占む。之を他省の費額に比せん歟、內務省は僅に總豫算の五十七、文部省は十七、農商務省は二十八の割合に過ぎざるなり。日本に於ては、軍備は他の國家制度に比較して非常に整頓しあり。而して、日淸及日露の戰役に於て、我陸海軍は、國家存立の爲に偉大なる功績を示し、國家を防護せる事實は、素より吾人等國民の一日も忘る能はざる處なり。されど、吾人等は、之と同時に、時代の變遷なるものを念はざるべからず、又、刻下の狀態に於て、世界の狀態に適應すべき方針を執らざるべからざることをも考慮するを要す。一時は軍人政治を以て我國家は導かたれり、されど、現代に於ては、軍人政治若くは軍人總督政治は以つて臨まんか、或場合に於て種々なる困難に遭遇するのみならず、竟には、不知不識の間に種々忘むべき現象を胚胎するの虞なきを保せざるなり。軍人は幼より粗暴に育成され、其素質は、不知不識政治の上に發現し、斯くして政治は威壓的となるべし。這は、單り本國に於てのみならず、植民地に於ても亦等しく斯る傾向を有するに到らん。從つて、吾人等は、政治方面に於ても、軍人政治なるものに就て考へざるべからず。軍人に神聖なる若くは徹底したる文化的の政治を望むことは、餘程困難なるを意はざるべからざる也。

九

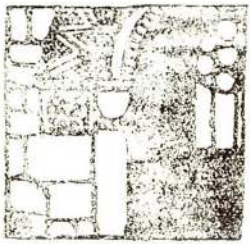
最近の例として、自分は、恒に陸軍の馬を借受けて之に騎乘しつゝあるが、自分は、陸軍々人方に對し、屢々日本の陸軍兵數減少及徵兵短縮論を持出せり。然るに、彼の人々は必ず之を反駁し、軍人精神の養成なることを以て其理由とせり。即ち、多數の人々を軍隊的訓練の下に置き、而も相當なる年限之を訓練せざれば、軍隊的精神は竟に養成し能はずと云ふに在り。謂ふが如く軍隊的精神とは果して奈何、吾人乍遺憾其說明を聽き得ざりしも、略推知するに難からざるなり。抑は、畢竟、形式的の訓練に藉りて服從的觀念を養ひ、自覺の域に達せざる程度に於て、其自覺すると否とに拘はらず忠君愛國の精神を注入せんとするに在るならん。斯くの如き訓練の方法を執るの結果として、不必要に人權を蹂躙し、自由を束縛し、而も激越なる虐待を加ふるの事實を傳聞するなり。極めて最近の實例としては、彼の布川氏の令息一件の如き將に瀕死の病人を强ひて軍隊に拉し皈り、竟に死亡せるが如きは、實に、平時に於て爲さゞるも可なる事を爲して人命を損ふを意とせず、吾人は、斯くの如き軍隊的訓練の方法に於て到底成功し能はざるを信ずるなり。斯くの如くして作り上げられたる軍隊的精神が若し特別のものとして成り立つとも、多數國民は斯くの如き不自然なる制肘を受けざるなり。自由なる敎育を受け、自由なる生活を爲して進歩しつゝある國民と、而して、壓迫的形式的の軍隊內の空氣とは竟に永き時期間には調和し能はざるに到るべし。又、維新以來自由を語る日本國民が、壓制の行はれある軍隊內に入りたるときの感、又其二年間若くは三年間の兵營生活に於て受けし感は、一方に於て軍隊敎育に依り何ものかの効果あるとも、他方に於て夫れに對する反感なるものを大に窺ひ得べしと信ずるなり。吾人は、斯の陸軍々隊精神の涵養を受くるより、軍隊に對する反感を昂むべきを大に憂慮する者なり。極めて簡單に頗る適切なる事例なるが、吾人は、

往年西洋より皈朝して徴兵檢査を受くることゝなり、檢査場に入つて試驗をされるとき、視力を檢するに方りて、第一第二の物は見へしも、第三の物を示さるゝや見へざりし故に爾く答へしに、檢査官曰く『貴樣は嘘を吐くな！』と。既に貴樣と云ふ斯の激しき一語に依つて吾人は大なる侮辱を感じたり。第一第二の物を判別し得たりとても第三の物を判別し能はざる筈なしとの論理は斷じて承服し能はざる處なり。要するに、吾人は、日本の軍隊に在る兵士の人格を尊重せんことを欲するとの、簡單なる要求を有する者也。（續く）

歐洲近世都市制度の特徴

歐洲諸國の都市が近世に至りて再興の運を啓きたるもの其結局の皈趣に至ては、各國概ね其撰を一にすと雖も、都市制度の進化に就ては各國社會狀態の奈何に由りて凡三種の別あり。第一は、中古以來都市が承繼的に其自治權を保持し夙に中央君權と親和の關係を有したるが爲、其保護に於て最速に行政上の特權を獲得したるもの是なり。第二は、中古以來中央君權と對峙の關係に立ち、中央專制に對する反動に由りて竟に漸く其自治を獲得したるもの是なり。第三は、中古に於て一たび封建制度の風靡に依て都市の自治は壞滅したるも、中央君權が再び自ら進んで之を復興したるもの是なり。吾人は、學究的に之を類別し、第一種を以て、「國家保護主義の都市制度」として第二種を以て「國家對抗主義の都市制度」とし、第三種を以て「國家欽定主義の都市制度」と謂はんとす。

——「都市行政及法制」より——



都市研究の必要（上）

都市研究會副會頭　内田嘉吉

本編は、曩日大阪市に於ける同氏の講演に基けるものにして、其筆記に據り便宜の爲編中小見出を附したり、行文措字若し誤謬あらば、乃は乗より記者の責任也＝一記者

＝驚くべき人口增加の現狀＝

都市の問題は、近來我邦に於ても朝野の間に研究さるゝことゝなつた。亞米利加に於ても又歐羅巴に於ても、戰後の經營として斯の問題に注意を拂ふことは一通りでない。蓋し、時勢の然らしむる處であることは云ふ迄もないことである。是を我邦に於ける大体の形勢より觀ても都會の人口は日に月に增加の傾向を示してゐる東京の如きも、最近一箇年に七萬乃至八萬の人口が增加してゐる。又、大阪市に於ても、年々六萬人乃至七萬人の增殖を來し、殊に、大阪市接續町村に於ける其增殖を加へると、實に一箇年貳十萬人以上の增加だといふことである。斯くの如く都市に於ける人口增加の激甚なることは、寔に驚くに堪へた次第である。斯の趨勢は單り日本許でなく、歐米に於ても同樣な現象を呈してゐる。歐羅巴は、最近四箇年以上に亘る大戰爭の行はれし爲、都市の繁榮發達等に就ては多く之を知ることが出來得なかつたのであるが、私は最近二回許も亞米利加の各地を歩いて見た結果、何れの方面に於ても其人口の增殖しある狀態は、寔に驚くべきものあるを識つた。

我東京や大阪の如きも、前に述べたように、人口增加の勢は可成り激いものであるが、之を亞米利加の狀態に較ぶれば、聊か一籌を輸せざるを得ないような次第になつてゐる。隨つて、都市の問題は、是より增加し行く市民の數に對して立派なる施設を行ふことを要するので、目下既に研究を遂げられつゝあるの問題である。

＝既に研究されつゝある都市計畫事業＝

吾々は、亞米利加や歐羅巴に於ては、以前より都市計畫に就き、又都市の設備に就て種々なる事を行ひつゝあるが故に、今日に於て新に研究すべきものがないように考へてゐたが、實際は却つて旺に研究を遂げゐるのである。或は私的の會合、又は個人の團體に於て研究を爲しつゝある處もあり、若くは、市の一部の機關として都市研究調査を遂げてゐる處もある。大きな處で云はゞ、紐育であるとか、フイラデルフイヤであるとか、或はシカゴとかシンシナッイとか、列擧するに遑ない位澤山な都會に於て都市の研究を重ねつゝあるのである。而して、其都市に於ける實際上の調査のみならず、弘く亞米利加に於ける他の都市に亘りて研究を爲し、又自國內のみならず、遠く日本の事までも調査し又、歐羅巴に於ける都市の情勢に就ての調査までも周密に遣り、而して其市の改善を圖るといふ風で、寔に感心すべきものであると吾々は認めたのである。

然らば、什ういふ事を調査するかと云ふに、先づ、市の爲すべき事業、即ち、市に於て何を爲すべきかといふこと、次には、奈何なる組織を以て斯の事業を遂行すべきかといふこと、第三には、之を執行する機關は奈何にするか即ち執行機關に關すること、第四には、市の計畫即ち都市計畫の如き市の計畫に就て之を執行する人、其次には、市民が斯の事業に對して奈何に興味を有つか、即ち、市民が都市計畫に關して夫れに對する智識を有つて貰ふといふことに就て、種々なる調査を實行してゐる。以上各部の問題に亘りて詳細に述ぶることは餘程時間を要するが故に、先づ、市の爲すべき事業奈何とい

ふ事に就て述べ、他は大体を話すことゝしよう

＝都市計畫としての家屋の供給＝

市の爲すべき事業に就て最も重要なる事は、實に都市計畫其ものである。都市計畫が定まると、之に向つて必要なのは即ち家屋である。家屋に就ては、最近に問題が起つて、一つは、市街地建築物法等に據り奈何に家屋を建築するかといふこと、第二には、都市に對して家屋を供給する必要がある。奈何に家屋を建築するかといふ主として技術方面即ち家屋の堅牢或は衞生といふような事に就ては市街地建築物法の制定あるが、奈何に家屋を供給するかといふ問題は件の法律に規定がない。併し乍ら、最近東京や大阪に於ても家屋即ち貸屋が不足であるといふ聲は頻りに昂まつてゐる。先きに人口の增加に就て述べた通り、東京は年々七八萬の人口が增殖し、現在の家屋が現在の市民に對して十分であるとしても、年々に增加する斯の七八萬の人口に對して家屋を增加せねばならぬ。即ち、一戸平均五人の家族としても、一箇年に一萬五六千の家屋を特に供給するの必要を生じて來る。又、大阪に於ても、矢張年々一萬二千乃至一萬五千の家屋を供給せなければならぬ。從來は、營利事業として貸家の供給は澤山なものであつたが、近年生產費の著しく昂騰した關係上引合はぬ爲、又、甚しく家賃を引上ぐれば借る者が少くなるといふような關係で貸家を建築する者は少い、故に、市の如き公益團體が斯の供給の任に膺らなければならぬことゝ思ふ。斯る事情は獨り日本許でなく、英吉利抔でも近頃斯の問題に就き議論を生じてゐる。先頃も、市町村が家屋を建設してやらねばならぬ責任があるといふような法律を拵へた。又、倫敦や其他の都會に於ては、貯蓄及家屋銀行と云ふような銀行を建て、而して、低利資金を貸して市民に家屋建築の便利を與へてやる方法を設けてゐる處もある。兎に角、倫敦其他に於ては、近頃急に幾十萬の家を建てねばならぬ、或人の計算では、將來數年間に百萬戸の建築を要すと主張してゐる什うしても大々的の計畫を立てゝ家屋の供給を

講じなければならぬことを研究してゐる次第である。

＝都市計畫としての道路の建設＝

次に、家屋が先づ出來るとすれば、都市計畫の上から道幅其他も定まるが故に、其定まつた道路の幅員に依りて道路を造らねばならぬ。日本の道路といふものは實に不完全で、外國人杯も、日本には道路が無いといふことを申してゐる。成る程路は出來てゐても、道路に就ての何等の手が加へてない。故に、時には砂塵を揚げ又時には泥濘膝を沒するといふような狀態である。西洋に行くと、斯の點に就ては寔によく整つてゐる。斯の道路の改築なることは目下の急務である。道路の改築を爲さば、其改築されたる道路より生ずる利益は、計算上相當に多いものであつて、專門家の調に據ると、舖裝しない道路に於て、一噸一哩の運送費が仮りに十錢とすれば、之に相當なる施設を加へて立派な道路にすると、其半額の五錢で濟む。即ち、一噸一哩に付て五錢づゝの利益があるといふことである。東京で調べた概算によると、一箇年に約七百萬噸の荷物が運搬されるそうである。其荷物が東京市内幾十哩を運搬される勘定になるであらうが、仮りに七百萬噸の荷物が一哩づゝ運送されると計算しても、實に少からざる利益がある。然るに、此の荷物が平均十哩づゝ運搬されるとせば、七千萬噸に對し實に三百九十萬圓といふ利益がある。又、自動車のタイヤであるとか、其他の車等に於ても、道路の惡い處から生ずる損失は少からぬものである。されば、道路が良くなるといふことは、即ち、運輸機關に便利を與へ、又、市民が是に藉りて衛生上の改善を圖ることが出來る。されば、都市の改築といふことは一日も惚せにすべからざるものと考へるのである。

＝都市計畫としての交通機關＝

斯くて、道路が出來れば、其次は交通機關の問題である。即ち、電車を設くるといふことは今日一般の要求である。東京に於ては、百五十哩程の電軌があるけれども、今日市民の側より

哩數の增加に對する要求が非常に喧い。又、東京市は車輛に於ても約一千一百臺程あるが、是だけでは到底完全に輸送し切れない狀況で、大阪市に於ても同樣であらうと想ふ。要するに、交通機關の改良のみに就ても要求が決して少くないのである。其他、斯の種類の事に就き併せて述ぶれば、電力の供給も其一問題である。現在に於ては左程に不足を感じてゐないかも知れぬが、年々電力に對する需用の著しく增加する點より稽へてみれば、到底今日の狀態で滿足することは出來得ないのは當然で、是も焦眉の急といふ位まで差迫つた問題である。之に對して火力發電にしても一年やそこらは設備に要し、而も石炭の高價なる點よりして甚だ不經濟であるから、相當な施設を爲して水力發電にしなければならぬ。然るに、水力發電とせば尙一層餘計な年月を要する、之等も實に研究すべき問題であらうと想ふ。次に、瓦斯に就ても同樣な問題がある。瓦斯は從前程の需要なきも、電氣と共に市民の需用に應すべきで、斯の問題も亦大に研究すべき必要がある。

＝更に上下水道並に食料問題＝

都市計畫として次に起る問題は、衛生の關係である。是に就ては、第一に上水及下水の問題がある。大阪市に於ては、上水の供給は既に解決されたるもの、如きであるが、下水の問題に就ては大に研究を要するのである。大阪に於ては多數の河流があつて、此の河流には下水を放流するが故に、下水に就ては何の苦情もなく衛生的であるかのように考へてゐる。併し乍ら、河川の水が夫れだけによく變つて行つて、汚水の無いようになつて行くかといふに、是は殊更述ぶる迄もない、日常河川に接近してゐる者のよく承知の事と想ふ。大阪を健全な都市とするに就ては、斯る方面に關しての注意も必要であらう。

次には、食料の問題であるが、供給する問題としては、公設市場の施設である。大阪市には率先して斯る施設があるも、是は極めて端緒に過ぎないようであるが、斯の問題も、衛生上の

設備、並に物價騰貴を抑制する上に於て公設市場なるものは最も必要なるが故に、速に擴張されんことを希望する次第である。

更に、簡易食堂も我邦としては亦大阪市に於て既に先鞭を付してゐるが、歐米に於ては、個人の經營で、隨分清潔に且つ低廉なる價格を以て食物を供給する方法が幾多講ぜられてゐるけれども、日本には未だ餘り斯る設備がない、幸ひ大阪市に於ては將來一層擴張するとのことで寔に結構な事と思ふ。

＝次いで敎育と警察の問題＝

次いで考ふべき事は敎育の問題である。是は日本に於ても、各自相當に注意を拂ふてゐるが要は、敎育の方法奈何である。學校設備は、各府縣共其必要に應じて夫れ夫れ計畫され、今日餘り不足を感せぬようであるが、我人口の增殖今日の如く激しきに於ては、之に對して相當の施設ありや否や、又、此の敎育の方法が、新しき今日の文明的趨勢に對し、果して適當なるや否やといふことは、更に研究を要すべき問題であらうと考へる。

其次には、都市警察の問題であるが、是は、市直接な關係はない。東京に於ては、警視廳なるものが別に設けられてあり、又、大阪に於ては、警察事故は府の管轄に屬してゐるが故に、警察に關し市の施設と併せて論ずることの、日本に於ては適當でないかも知れぬが、唯、私は市と警察ともつと密接に聯結する必要はないかと思ふ。換言すれば、警察事故の或部分を市の管轄に屬せしむるといふことは、決して無益ではないと思ふ。殊に、交通警察とか、衛生警察とかいふ問題は、市の直接の仕事に關聯してゐるが故に、或は斯くの如き仕事を市の所管に移して、同一監督者の下に之を執行せしめた方が目的を達するに完全ではないかと考へるのである。（續く）

山一つあなた丹波や雲の峰　百池



都市計畫に就て（一）

內務事務官　吉村哲三

□兩法案の議會通過の狀況□

本年の議會に於て、都市計畫法、市街地建築物法は、政黨の異同を問はず、總ての議員の贊同を得て、立法上殆ど奇蹟ともいふべき有樣で通過し、直ちに公布され又近く施行されんとしてゐる。斯の法案の衆議院に提出されたのは、本年三月八日であつた。而して衆議院に於ては十日より十三日迄と十五日とに引續き委員會を開いた、斯くの如く、其提出された法案に就て連日委員會を開いて熱心に討議されたといふとは、他の法案に就て其例を聞かないのである、又、其委員會に於ても、凡ての委員は、斯の兩法案に對して最も同情ある意見を述べられたのである。夫れ故に、連日而も議會の閉會間際になりて種々なる議案の堆積しゐるに拘はらず熱心に討議され、委員會は、斯の兩法案を原案通是認し、超へて十五日の本會議に於ても、亦原案通り通過したのである。次いで、十七日貴族院に本案が提出され、十九日二十日二十四日の三日間熱心に之を討議し、是亦一人の反對もなく、殊に、本案の如きは各般の方面に個人の權利又は其他の事に就て深廣且つ密接な關係あるに拘はらず、殆ど反對の論旨を聞くことなくして原案通り可決され、次いで本會議に於ては、只一議會の審議を以て直ちに協讃し、斯くて、裁可公布されたる次第である。惟ふに、從來、

種々な法律は、二十年又は三十年といふが如き長年月を要して其成立を看ることも尠くない、然るに、斯くの如き大法律が彼樣に迅速而も好意を以て兩院を通過した事は、蓋し、立法上の一奇蹟と謂つて可からうと思ふ。

斯くの如く、兩法律が本年の議會を無事に通過したのは、抑も何故であるかといふに、是は畢竟、今日の都市は凡ゆる點に於て行詰りを生じてゐる、奈何にか爲して斯の都市を改造しなければならぬといふ觀念が凡ての國民の腦裡に在るを以て斯く容易く通過したことゝ想ふ。併し乍ら、單に是許でなく今一つ其原因があるであらうと想ふ。蓋し、我都市計畫に關しては、這回の『都市計畫法』及『市街地建築物法』なるものが突然に提案された譯ではない。都市計畫に關しては、明治二十一年以來、『東京市區改正條例』といふ一つの法律があつた、斯の法律に依つて奈何にせば都市計畫事業を遂行するかといふことに就き、我邦に於て採るべき方針が大体に定まりゐたので、今回の都市計畫法も、實は、斯の市區改正條例の精神を受繼ぎ、而も、其中に漏れて居つた處の、今日の都市計畫實行上に缺ぐべからざる條項を追加して、茲に、這回の兩法案が成り立つたのである。東京市に於ては、斯の市區改正條例の規定せる原則に據つて、市區改正の事業を爲し來つたのであるが、其原則は依然其儘に都市計畫法に認められてゐる譯である。斯の市區改正條例は、客年より大阪市にも準用され在るが、市民の多數は、其市區改正條例の奈何なる精神であるかといふことを或は了知されてゐないと想ふが故に、其精神なり又這回の都市計畫法に等しく採用された精神に就て一應說明し、更に、今回の都市計畫法に追加された事項に就て述べたい。

□「市區改正條例」の精神□

元來、件の市區改正條例は、明治二十一年に發布された處の古い法律である。今日の都市計畫法は、頗る容易に兩院を通過せるが、斯の市區改正條例を發布した經過と其記錄に據れば今

日都市計畫法の通過せるが如く左樣に樂々と通過しなかつたのである。斯くの如く市區改正條例が困難なる徑路を經て通過した所以は、當時の內務次官にして東京府知事を兼ねてゐた芳川顯正伯の先見と、當時の內務大臣山縣公の果斷に依つて、斷然發布されたのであつた。當時斯の條例を元老院に附議されたのであつたが、同院に於ては、種々なる議論が出で、其結果否決となつたのである。併し乍ら、當時東京市の狀況から鑑ると斯の改正條例は是非とも必要な法律である、速に制定する必要ありとして、斯く元老院にて否決されたにも拘はらず時の內務大臣山縣公は之を閣議に提出し、結局閣議の容るゝ處となりて、遂に法律となつたのである。斯の明治二十一年に發布された市區改正條例は今に現存し、之に據りて東京市の市區改正事業を行はれたのであるが、其間に多少の變更はありしと雖も、其精神に到りては今に渝らないのである。單り渝らない許でなく、其精神に據つて都市計畫法を制定され、而して今回の都市計畫法が無事に通過したのは、斯くの如き法律が二十一年以來存在して、市區改正の爲には斯くの如き法律を必要とするといふ信念を國民の腦裡に誘發した故に外ならぬ。

□「市區改正條例」に含まれたる五箇の要點□

然らば、斯の市區改正條例に含まれてゐる精神は奈何なる點に在るかといふに、私は、先づ其主なる點が五つあらうと思ふ。第一、

▲市區改正事業は國の事業 なりといふ精神である。市區改正事業の其執行される地域は、東京とか大阪とか又は神戸や京都といふが如き都市であるが、決して都市其のものゝ仕事でなく實に國の仕事であるといふのが、第一の根本精神である。第二は、

▲市區改正の決議機關 即ち市區改正の仕事を議決する爲には特別なる國家機關を置き、其機關に藉つて事業を議決せしむる、即ち市區改正委員會なる國家の機關を設け、是に依りて市區

改正の仕事を決めて行くといふのが第二の點である。勿論、斯の事業を國の仕事と認める以上其事業を議決するには、單に、其都市の議會の意思に許り任ずることは出來ない、其爲に特別の國家機關を設くることは勿論當然な事であるされば、其利害關係は其執行さるゝ都市に最も密接であるが故に、斯の國家の機關たる市區改正委員會の組織は、其地方の利益を代表さるものを十分に含めなければならぬ、斯る故、當時の市區改正委員會なるものも、斯く地方自治的要素を大分含めてゐるのである。其他、斯の仕事は、陸海軍抔との關係も餘程深い上、遞信省文部省抔凡ゆる官廳の關係してゐる事業に密接な關聯を有しゐるが故に、其委員會の組織に就ては、今述べた地方的の分子と之に加ふるに各關係官廳の代表者を以て組織したのである。

次に、第三は、

▲執行機關　である。即ち、其決議した事業は誰が執行するかといふ問題であるが、是は、地方廳例へば東京市ならば東京市長、大阪ならば大阪市長が之を執行するのが第三の精神である而して第四には、

▲其經費は奈何にして支出するか　の點である是に就ては二箇の攻究點がある。一つは、其事業の性質が地方の仕事なるが故に、原則として地方の自治體が之を負擔すべしといふのと、今一とつは、元來斯の仕事は國家も決して之を忽せにすることが出來ない故に、事業執行に要する費用は、國家が出來得るだけ補助助成の途を圖るべしといふのである。夫れ故に、當時東京市の市區改正事業部は、第一回の委員會に於て四千萬圓の費額の下に市區改正の計畫を立てたのであつたが、之に對して、國は東京市內の官有河岸地を無償で東京市に下附したのである。

終りに、其第五は、

▲事業執行に要する土地の獲得　である。即ち事業を執行すべき土地を獲るには奈何にしたらば可いか、此爲に政府は特別なる法規を作つたのである。即ち、市區改正事業に對しては一般の土地收用法に據らずして、特別の法規を設け

たのが第五の精神である。其爲には、東京市區改正土地建物處分規則といふ一の法律が制定され、土地收用法に據らずして斯の規則に據つて其事業に要する土地を收用し得る、即ち、土地收用法は非常の制限あるが故に件の規則に據りて事業執行を容易ならしめたのである。其最も著しい點は、土地收用審査會の意見を聽かない其土地の獲得に就て爭あつたときは、內務大臣が直接に之を裁定するといふ規定である。或意味に於ては甚だ專制的な規定であるが、事業執行の爲には便宜な規定である。從來之等の規定に據りて東京市區改正條例が補足され、東京の市區改正事業は斯の二大法律に據りて着々執行されたのである。

□新に附屬せしめたる主要規定□

以上五つの點は、從來市區改正條例によつて採り來つた處の主義にして、都市計畫法に於ても等しく認められてゐる處の趣旨である。併し乍ら、斯の精神のみでは、今日の都市計畫を完成して行く上に甚だ不備であることを從來當局者も考へ、又有識者も之を絶叫し來つたものであつて、今回都市計畫法を制定する際にも、其點の研究を積み、之に聊か附屬の規定を加へた次第である。而して、其附屬せしめた主なる點は、第一に、

▲都市計畫の區域　である。從來の規定は、例へば東京市ならば東京市といふ行政區域によつて市區改正事業が行はれてゐたのである。尤も斯の點は昨年改正されて、東京市の區域外に亘ることゝなつたが、制定當時は東京市の區域內に限られてゐた。是は最も不便な點で、都市計畫上第一に定めて掛らなければならぬのは、斯の區域を定むるといふ事である。何故之が必要であるかといふに、今日の都市は人口が年々非常な勢を以て增加してゐる、斯の年々增加し來る人口を收容する爲には、果して幾何程の區域が必要であるかといふ事を先づ第一に確定して掛らねば、奈何なる計畫も樹たないのである。即ち、都市には人口が密聚し得る大約の限度が

あると思ふ、夫れによつて、何方哩の區域には約何人の人口を收容することが出來得るか是は豫測することが出來得よう。而して、其都市の人口が三十年五十年先には幾何程の人口になるといふことも、是亦都市人口の趨勢より割出し得る數字である。其將來を豫定して都市計畫の區域を一定するといふことは、都市計畫を確定する第一の前提となるべき事項と想ふので、是は從來の條例には無かつた點である。第二は

▲地域を確定する　といふことである。即ち、都市計畫區域の中で、斯の部分は將來住宅區域となる處であらう。又、斯の部分は將來商業區域となる處であらう。乃至、斯の部分は將來工業區域となるべき處であらうといふ大約の地域の決定を爲さねば、都市の構造に於て甚だ不秩序な處が出來るのである。今日は斯の地域の決定なき爲に種々な不便を感じるものである。最も甚しいのは、工場が處々に建設されるといふ點である。大阪の如きは、到る處に煙突が立つて、其れから吹き出す煙や、工場の下水より流る汚水、音響、其他工場の爲に、其周圍が蒙る種々な被害の事實は數へ切れないのである。斯くの如き工場は、區場地域として一定の處に纏めるのは必要ではあるまいか。又、工場を一定の處に纏めるといふことは、一方では一の制限であるが、他方には、工場地域に夫れに適應する設備、例へば運河であるとか、道路であるとか種々設備すべき點がある故に、工場地域を定めて夫れに必要なる設備を施して行かば、將來工場を建てる場合に夫れだけ便利を得る譯である。其他、住宅は何れの方面が可なるか、商業の中心は何處であるかといふことは先づ都市計畫の區域を決定して、第二に決せなければならぬ點である。即ち、斯の地域の決定に依りて或は住宅區域と商業中心とを結び付ける交通の系統が正されるといふ事が問題となるのである又、工場地域に於て奈何なる設備を有すべきか又商業地域は奈何なる建築が可なるかといふ種々な關係が生じ來り、斯の地域によつて其建築物の使用の目的を制限し行くことが、都市の生

活をして安寧ならしむる處の途であらうと信ずる。今一とつは、

▲土地の區劃整理　といふことである。區劃整理といふことは現に建物の建つてある處でも、其區劃が非常に錯綜して、其地へ入れば殆ど迷宮に入つた如く何れに出てよいか判らないような處もあれば、又、道は明であるが、一向其道路に沿ふてゐる宅地の整理が出來てゐない處もある。又、現在家屋が建つてゐないでも、將來住宅なり商家なり又工場が建設される地域であつて、之を放任して置いたならば妄りに家を建てゝ、其利用上非常に困る狀況を呈するようになる。故に、斯る建築物のある地域の整理及未だ家屋の建設されない郊外の地域に於て、恰も耕地整理法に據りて適當な徑路や道路を附け排水工事を施すと同く、斯る方面の土地區劃の整理を爲すことは、是亦今日の狀況より推して甚だ重要な事項であらうと信ずる。是がやはり今回の都市計畫法に規定されて居り、從來の市區改正條例には無つた點である。（續く）

中世紀の次に來れるは、都市衰微時代なりとす。羅馬以來發達せし都市が何故に一時衰運に向ひしやは、大概れ次の諸因によりて解決せらるゝなるべし。即ち、（一）當時フランス西班牙、英國に於て鞏固なる中央集權の政府樹立し、都市の自治權に嚴格なる制限を與へたること、（二）製造工業に關して「ギルト、システム」より『ドメスティックシステーム」に變遷したることは、同時に工業者を地方に公布せしめしこと（三）當時歐洲一般に戰亂間斷なかりしが故に、國內の通商は大に妨害られしこと是也　都市經營論より



住宅問題と田園都市 (A)

都市事情研究會員 三宅勘一

住宅問題

東京の人口増加の趨勢

水は低きに流れ、蟲は光を求めて飛ぶ。其ように、人は都市を望むで移動しつゝある。元來、工業革新以來、或は農家が家庭工業を奪はれたるが爲に、或は都市に於ける勞働賃銀が高率なるが爲に、或はまた教育及び誤樂機關の完備せるが爲に、農村の疲憊と相俟ち、人口が續々として都市に集中する結果、都市が異常の膨脹と混亂とを來しつゝあるのは、世界各國との共通の現象ではあるが、東京市の如きは、それがまた異常に激しいのである。試に最近數年間の人口及び戸數の増加率を見ると左の如くである。

年度	戸數	人口	前年に比し戸數増加率	前年に比し人口増加率
大正元年	五二一、八八戸	二、〇〇九、九八〇人		
二年	五二九、七三五	二、〇三三、三三〇	一・六七	一・一六
三年	五四〇、九九五	二、一〇〇、三三七	四・〇九	三・二九
四年	五六四、七〇七	二、二四四、七九六	八・〇八	六・八八
五年	六〇一、七二一	二、二八一、四二二	二・九二	一・六二
六年	六三〇、〇六六	二、三四九、八三〇	三・〇四	三・〇三

即ち、戸數に於ては一分乃至八分、人口に於ては一分乃至六分づゝ年々増加しつゝあるのみならず、是を明治十一年の戸數二三五、九四三と人口八一三、四〇〇に比すれば、實に、三倍弱の大増加である。

斯の過密な人口密度に觀よ

斯くの如く人口の増加する結果。人家稠密して、竟に、尺

土をも剩さゞるに到るは自然の結果で、茲に、都市の住民は所謂過住生活を營まざるを得なくなる。殊に、東京市の人口は、其面積に比して特に多い。今、左に、大正六年度に於ける我國六大都市の密度を掲げてみると、

市名	戸數	人口	面積	一萬坪の平均人口	一人當の坪數
東京	六三〇、〇七六戸	二、三四九、八三〇人	三三、四六八、一〇八坪	一〇〇一・九人	九・九坪
大阪	三六八、四一五	一、五五六、三七七	一七、六七二、六四四	八八〇・六	一三・三
京都	九七、九七八	五六二、八四七	一〇、六七七、五六八	五二九・一	一八・八
神戸	一二七、一五九	五五八、三一九	一一、一八八、一〇九	四九九・〇二	二〇・〇
横濱	九四、四〇二	四六〇、三一〇	一一、一〇四、一二九	四一四・五二	二四・一
名古屋	九六、三二〇	四一九、七四九	一三、三二二、五一八	三四〇・九一	二九・三

といふ有樣である。則ち、東京市に於ては、十坪足らずの地に一人の住民がゐることになる。更に、之を外國の大都市に比較して見ると、

市名	人口	一英反の平均人口
巴里	二、八四八千人	一八四人
伯林	二、〇八二	一三三
東京	二、三四九	一二四
大阪	一、五五七	一一四
倫敦	四、五二一	六〇
京都	五六三	五六
紐育	五、三三三	二八
市俄古	二、三九三	一九

則ち、東京市に於ける人口の密度は世界第三位に在るのである。シー・ビンデヤメン・リチアドソンの如きは、一英反（我國の約四段二十四歩）に付二十五人以上は既に過集狀態で不衛生的だなどといつてゐるが、斯の標準に據ると、一英反に付百二十四人の居住者を有する東京市の如きは、過住も過住、大過住と謂はなければならぬ。

住宅地面積及棟數と人口の比例　以上は、東京市の總面積と、更に、大正六年度に於ける人口を住宅地の面積及び住宅棟數と比較して見ると、左の如くである

人口	住宅棟數	住宅一棟の平均人口	坪數	一人當の住宅坪數
二、三四九、八三〇	二九七、一五七棟	七・九人	六、五〇六、三七七坪	二・七坪

（註）右表の住宅坪數は二階以上の坪數を加算せるも、道路、庭園、空地、地下室等を除く

是に依つて見ると、東京市の住民は、平均住宅一棟に八人弱宛住居してゐる事になる。又、其

面積から云へば、二坪半強、約り、四疊半の部屋に一人宛住つてゐる譯である。併し、此の四疊半には、厨房、便所、廊下、土間なども含まれてゐるのみならず、富豪階級の邸宅では、一人當りの坪數極めて宏大なものとなつてゐるので、實際上の一人當りの坪數は、恐らく一坪内外のものと見て、大差はあるまいかと想ふ。

過群生活に起る不德と犯罪

斯くの如く人口が都市に密集する結果、都市は茲に諸々の罪惡と慘害の樞府となる。ローンッリーは『過住生活は、市民の體力を毀損し、國民道德と共同觀念を破壞し、更に公民の觀念を毀つのみならず、陰鬱なる憤怨の情を養成する』といつてゐるが、輕薄粗惡にして且複雜、加ふるに競爭の激甚なる都市生活が市民の共同觀念及び愛國心を破壞し、道德的標準を低下せしめるのは爭はれない事實で、都市の犯罪が田園よりも多く自殺者私生兒の數が田舍よりも遙に高率を保てるが如き、結婚率が田園よりも遙に低くして、離婚率の高きが如き、何れも這般の消息を物語るものに外ならない。現に、東京市の犯罪件數は年々歲々增加し、大正元年には一九、四五四であつたものが、五年度になると、二九、五六九に增加してゐるのみならず、詐欺恐喝の如き陰險なる犯罪が年々增加の傾向あるは、寒心に禁へない。又、自殺者の如きも、田舍に比較すれば遙に多く、私生兒に到つては殆むど都會の特產物といつても可い位で、東京市には、大正六年度に於て、實に、四、四七二の私生兒が生れてゐるのである。更に離婚數に到つては、大正六年度に於て、二五六・六を結婚數の一、七九一に比較すれば、六人の結婚に對し一人の離婚がある割合となるのである。又、結婚率に就ても、大正五年度に於て、東京府の郡部は、百人に付一・一六の率を保つてゐるに拘はらず、東京市は僅に〇・九〇に過ぎない。是などは、生活難の當然な結果であらうが、眞に寒心すべく、又、憂慮すべき現象ではあるまいか。

過住生活の及ぼす衞生上の影響

然るに、都市の弊害は、唯單に是のみに止まらず、市

民の健康に禍し、其死亡率を著しく高めると同時に、其出産率をいたく低下せしめる。試に大正元年以降東京市に於ける死亡率を調べて見ると、

年別	男死亡數	女死亡數	千に付死亡數
	人	人	人
大正元年	一九、一四八	一八、三五八	一八・六六
二年	二〇、〇二三	一八、八八〇	一九・二三
三年	二〇、〇五四	二〇、六四三	一八・四二
四年	二一、四二三	二〇、一五九	一八・五二
五年	二一、三五二	一九、六五二	一七・九七
六年	二三、一九九	二一、四三八	一九・〇〇

といふ有様で、遂年増加の傾向がある。醫術は進歩し、保險衛生の途は遺憾なく完備せる筈の都會に於て、尚且つ然りとすれば、茲に何等か都市其ものに基く禍因がなくてはならぬのは、何人も氣付く處であらう。殊に、過住生活が小兒の上に及ぼす影響は、非常なもので、タイム氏がマンチエスタアに就て調べた處に據ると、人口の密集と小兒の死亡率との關係は、實に、左の如くである。

過集せる同區の全人口數に對する百分比	千人中一歳以下の小兒死亡數
一〇—一五	一八〇
一五—二〇	一九六
二〇—二五	一九三
二五—三〇	二一〇
三〇—三五	二一二
三五	二一三

斯の趨勢は、我東京市に於ても恐らく同樣で、現に大正五年度に於ける東京市の十五歳以下の小兒死亡數は、一萬六千九百五十一名の多きに上り、總死亡數の半を占めてゐるのみならず、一歳未滿の死亡小兒が五千二百五十名を數ふといふに到りては、蓋し、評すべき言葉なきに苦まざるを得ない。

より以上の悲慘と殘酷　又、英國の土地調査委員會の報告に據れば、或は肺病患者の三分二乃至四分三は四室以下の居住者であると云ひ、或は千二百十名の肺病患者中、百六十七名は一室の家屋に住居し、而も其大半は一室に三人乃至五人同居してゐると報告し、或は又千二百十名の患者中四百七十九名は二室の家屋に住

居し、而も、其大半は四人乃至七人の他家族と同居してゐるといつてゐるが、過住狀態に於て遙に倫敦の上に在る東京市に於ては、より以上の悲慘と殘酷事を演じつゝあるは想像に難くないのである。若し夫れ、東京市の出産率に到つては、極めて低率で、大正五年度に於て東京府の郡部は、三十二人弱に付一人の出産割合であるに拘はらず、東京市は四十一人強に對して一人の割合に過ぎない、而も、年々歲々減少しつゝある。即ち、

年別	男出産數	女出産數	千に付出産數
大正元年	二九、〇七〇人	二八、〇一八人	二八。四人
二年	二六、八九六	二五、一九七	二五。六
三年	二八、二〇七	二六、五一〇	二六。〇
四年	三一、八三九	三〇、五三四	二七。九
五年	三〇、四四九	二八、四七八	二五。八
六年	三〇、四四三	二九、〇二三	二五。四

といふ風に、全く恐ろしい加速度を以て低下しつゝあるのである。其他、密集生活の住民に及ぼす有形無形の惡影響は枚擧に遑なき有樣であるが、單に敘上の數字のみに據つて見るも、ルンプの所謂『都市は人生の墳墓である、數世紀後には、市民は總て墮落し滅亡するの外はあるまい』といふ言葉が、眞に我等を欺かざるを知ると同時に、斯る慘害が悉く密集生活の賜であるのを懷ふて、思はず戰慄せざるを得ないではないか。

人口增加に反比する棟數の減少

然るに、我東京市に於ては事態を更に惡くする特殊の事情がある。即ち、住宅の增加率は人口の增加率と相伴はないのみならず、却つて減少の傾向すらある。既述の如く、明治四十二年末に於ては、僅に百六十二萬三千七十七名であつた東京市の人口は、大正六年度に於ては、二百三十四萬七千八百三十名に增加してゐる。即ち、此の八年間に四割五分の增加をなした譯である。然るに、是と略ぼ相伴ふべき筈の家屋の棟數及び坪數の增加率は、遙に是よりも低いのである。今、同じ八年間に於ける其增加率を見ると、

年別	棟數	建坪數(下坪)
明治四十二年	三〇八、六〇〇	五、〇八一、四〇〇

大正六年	三四六、八四三		六、四九〇、九九八	
増加率	一割二分		二割八分	

といふ有様である。即ち、棟數に於て僅に一割二分、建坪に於ては僅に二割八分の増加に過ぎないのである。是を人口増加率の四割五分に比すれば、寔に、宵壌も雲ならぬではないか。右は一般の家屋に就てゞあるが、更に悪い事には住宅に就ていふと、其棟數は、最近に到つて、ともすれば減少せむとする傾向がある。試みに大正五六兩年度に於ける住宅の棟數を見よ。

年別	棟數	建坪數（坪）	人口（人）
大正五年	二九八、三二五（棟）	六、四九八、九四二	二、二八一、四三二
六年	二九七、二五七	六、五〇六、三三七	二、三四九、八三〇
増減	減 一、〇六八	増 一〇七、三九五	増 六八、四〇九

數字は雄辯なる證人である。建坪の數こそ此の一箇年間に可成りの増加を示してゐるけれども住宅の棟數は減少してゐるではないか。惟ふに、是は、建築費騰貴の爲に建築手控の傾向かあるのと、一つは、小家屋を破壊して宏大な邸宅を建築する富豪が漸次増加した結果であらうが、さらでだに密集せる市民は、是が爲に、更に更に密集の度を加へ、遂に現今の如く、住むに家なきの狀態を現出せざるを得ないのである。元來、學理から云へば、空屋の數が全戸數の百分三を保つのを以て理想的な家屋數とせられてゐるのであるが、東京市の如きは、百分三はおろか、現今に於ては、空家は殆ど皆無な姿である是れ果して、東京市が健全なる發達を遂げつゝあると云い得ようか。（續く）

□自己に對する理論的觀念

自己の何物たるかを知らば、其何物となるべきやを悟るに至るなり、請ふ人をして、先づ自己に對する理論的觀念を抱かしめよ、左れば實際的觀念次で起るべければなり ——シエルリング——



市民劇場の建設を望む（下）

會員　葛野壯一郎

五

市民劇場の形式として私の望むところは、古代希臘式の野外劇場で有ります。古代希臘の劇場は全然獨創的のもので、非常に多數を收容し得る屋根無しの、全く開放的のもので有ります古代の希臘人は地上に圓形に細い石で以て、踊る場所即ちオーケストラを仕切り、酒と青物の神ディオニシウスを祭らんため其處に犧牲を奉り晝夜の別なく數日間、歌ひつゞけ踊りつゞけて市民的觀樂の有らん限りを盡したので有ります。此祭例は年々施行せられたので全市爲めに業を休み、獄屋に於ける囚徒までも此共通の觀樂に洩れざらしめんために、特に其祭例の期間は開放されたといふ事で有ります。合唱隊の導者をコリフィウスと唱へ、曲は次から次へと朝から夕まで祭壇を圍つて間斷なく續けられたので有ります。當初は祭壇がオーケストラの中心に有つたのが、次第に位置をかへて終に舞臺床の基礎と成り、純祭例的から轉じて一般の娛樂的となるにつれ、其開演の度數をも增し一定の脚本をも生みて劇の紀元を劃する迄に進んで來たので有ります。

六

コリフイウスに換るにテスピアンと呼ぶ專問の職業的役者が生ずるに及びで、樂座を前にし

たる廣い舞臺が出來、不完全ながらも役者の化粧室に當つ可き室が其背面に設けられ、位置の如きも構造上の便利の爲め、小山を利用してスリ鉢型に觀覽席を設けたる、今日吾々が希臘式と呼ぶ野外劇場の体裁を略具備するものと進んだので有ります。勿論未だ其頃は座席の如きも全部木造の簡單なもので有つたのが、保存上不便で有つた爲め竟に石造と成り種々の模様彫刻等を施したる完全なものを造る樣になつたので斯種石造の最初のものとしては紀元四世紀に建設のアゼンスに於けるデイオニウス劇場で有ります。仍でエシラスだのソフオクルスだのユリピデスだのゝ劇が演ぜられ、其廢墟は現今でも歷史的に最趣味有るものゝ一ツとして世に傳へられて居るところで有ります。

斯樣な劇場で宗教的演劇を公演するには非常に多額の費用を要した事勿論で、それが爲めに特に莫大なる州費を支出したといふ事で有ります。即ち特に注意す可きは開演の方法が全然公營で有つたといふ事で、其財源としては現今に於ける所得稅といつた樣な形式で特に當時の富豪から徵發の方法を取つたといふ事で有ります非常に多額の費用を要したといふ一例を擧ぐるならば、プルタークの說によるとアゼンに於けるソホクルスの一曲を演ずるためには現在の米價五十萬弗に相當する費用を支出したといふ事で、此一事から推しても古代希臘の都市が演劇公營のために年々如何に多くの公費を支出したかは實に意想外のもので有つたらうと想像せらるゝので有ります。

七

現代に於ける古代希臘式劇場の復活は決して珍らしい事では無く、現代世界の劇界に於ける一新傾向として特筆す可きもので有ります。米國加州バークレイに於ける希臘式野外劇場の如きは最其範となる可きもの一ツで、最多數の藝術に興味を有する人々を一團として、高尙なる友愛心のもとに一致せしむる上に於て、殊に便利な構造物で有る事が認められて居るので有

ります。其形式は全然デモクラチックで純營利的劇場とは異なり、各階級を通ずる有力なる社交的機關として識者の認むるところで有ります其配置は半圓形で左右は相對に各向に出入口を有し、坐席は是を階段席として各列手摺を以て仕切り廣い階段を以て昇降しオーケストラは半圓として全体東向が最良いといふ事で有ります

舞臺面は直線とし其背面を連續柱のあるスクリーンを以て仕切り、柱間を通して樹木や噴水等の觀ゐる樣な風に造つたり、或は是を壁として背後に樂屋を設けると云つた樣な事も出來るので有ります。材料としては石材、コンクリート煉瓦の類で形式としては最素朴簡單を尊むのが斯種劇場形式の特長で有ります。また全体とし非常に大仕掛けで有る事も其特徴の一ッで有るところから、其舞臺上に於ける音樂や劇舞踊の類にしても、今日一般室内にて行はれて居るものに比しては全然趣を異にしなければならぬ事勿論で有ります。

▓ 八 ▓

私が市民劇場の建設を望み其形式を古代希臘式とする所以のものは、以上くだ〳〵しく記述した希臘式劇場の説明によつて大体讀者の了解せられた事と信ずるので有ります。其形式を通じて最デモクラチックな古代希臘に於ける觀樂の日を想像する時は、是を現代に寫して市民的公樂慰安の場所とし、漸く濁化せんとする頽廢的市民生活淨化の機關に活用する事が頗る機宜の方法で有る事は、何人にも容易に認めらるゝ事では無いかと信ずるので有ります。

屋根を架せないといふ事は其構造を非常に簡單にし、普通の興行的建築物にて到底計畫し得ざる多數を安全に收容し得るのみならず、觀る上に於ても聞く點からしても非常に便利で、且つ多數集合よりする何等衛生的危害の無い事等斯の構造の市民劇場として最都合のよい諸點で有ります。

雨の日だとか極寒極暑の如き是が利用上に對

する種々の障害を擧ぐれば、隨分と擧げ得る事では有らうが是を種々なる利便と相殺すれば、私は寧ろ利益の方が遙かに優れたるものゝ存する事を認むるもので、現代に於ける斯種の施設に對して最格好な形式で有る事は、何人にも異論のない事と深く信ずるので有ります。

九

殊に其公營方法に於て古代希臘に行はれた方法の如き、單に建築の形式のみならず其公營方法をも寫して以て、現代に應用し得るもので、市の有力者富豪が進んで斯くの如き事業に理解を有し實施に努むるならば、其實現寔に容易で直接間接市民の其恩に浴する事實に非常なものゝ有る事を信ずるので有ります。不具や病者や老人孤兒に對する慈善的事業は素より尊重す可きもので有る事は勿論で有るが、更らに現代は其以上健全なる都市の發達を促進するため、一層積極的に市民の品格を淨化し、精神的不具者病者の大々的救濟に着目する事が最も必要で有ります。殊に我都市の現狀に觀て斯の必要の歳と共に層一層切實なるものが感ぜらる次第で有ります。

斯の目的に對して其實行の最容易で且つ其効果の最著きものとして、市民劇場の建設並に其公營を切望し唱導するのは、物質以上或は各種の宗教的道德的施設以上、如何に實際的薫育の効果の著大なるものゝ有るかを想像するからで有ります。劇音樂舞踊を以て是を單なる無用の娯樂視する亞流は素より問ふところでは無い、凡ての人類殊に都市居住者の强烈なる娯樂慾の存ずる所以をよく理解し、衣食住と相並んでよく適當なる慰樂の方法を講じ、是を善導し向上する事に努むるは向後の都市政策の一緊要の事として、切に識者の了解を望む次第で有ります。（完）

木の暗の夕闇なるに郭公
何處を家と鳴き渡るらむ



我邦現代住宅改良の施工法 (一)

會員 小笠原鈔

私は、本誌前々號及前號に於て『我邦現代の住宅を奈何にすべき乎』といふ題目の下に卑見を揚げて、先づ略ぼ總論ともいふべき部分を了つて積であります。次いで起る問題は、然らば其改良上の施工法は奈何にすべきかといふ順序になりますが、本稿は、前號所載の續稿でありまして、前號と同一題目の下に取扱ふても可いのでありますけれども、前號までは、稍抽象的な概論なるに次いで、本編は具体的な說明となるのであります故に、便宜の爲彼樣に題目を更めた次第であります。是より、其施工法に就て左に順次述ぶることゝ致しましよう。先づ第一に考へなければならぬ事は、

☒軸組構造の改良

であります。軸組の構造を少しく改良致しますれば、家屋全體に狂ひを生ぜない許でなく、十分に耐震的の構造となすことが出來得ます。其方法は、

(A) 柱は在來通り成る可く一間々々に建込み、仮令椽側と雖も九尺以上のオープニングスパンを造らざること、且つ、二階建の場合は要所々々の柱を建登即ち一本の通り物となすべきであります。何故ならば、通り柱を用ひずして胴指上に二階柱を建てる時は、仮令金物にて締合せ又は筋違にて繋束するとしても、胴指其ものは

可成りセイ高き材料でありますから、建築後漸次に乾燥收縮致しまして、其高さに變化を生ずる許でなく、往々其斷面に歪みを生じて、夫れが㊀、二階造に大なる狂ひを生ずる原因となるからであります。故に、少くとも、胴指を繼合す位置にある柱は必ず通り柱にすることが必要であります。

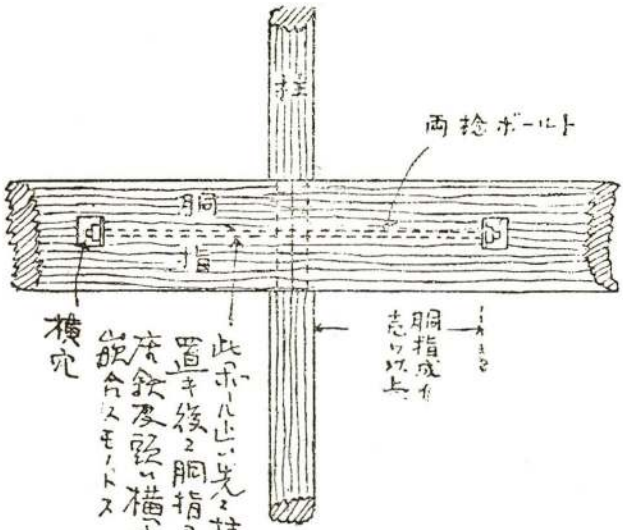
併し乍ら、在來は此建登柱に胴指を指合す爲大なる平枘を貫きまして、柱の斷面を非常にいたむることゝなりますから、斯る方法を嫌ふようになりましたけれども、其枘穴は、此處に挿入せる圖面のように改良致しましたならば、柱を脆弱ならしむる處はありませぬ。

(B) 在來日本家屋の土臺は各相當の基礎の上に玉石を置くか、又は布石を用ひて之を地盤面に据付くるを普通の方法と致して居ります。仍て土臺は地上の水分と降雨の飛沫とによりまして常に多くは濕潤するを免れませぬ。之が爲、軸組中一番早く腐朽することゝなります。是は專ら改良を要する點ではありますまいか。玄關臺所等の入口關係を少しく斟酌すれば、西洋館の如く之を腰積の上に置くことが容易でありまして、其腐朽を防ぐ處の良法であり、且又全體に柱長を縮少することが出來得ます。でありますから、土臺は地盤より少くとも一尺以上結局在來の床足固材の位置に据付くることにしたらばと存じます。併し乍ら、斯の方法を採りますとき、基礎は總て布地形を要し、隨つて石、煉瓦等の腰積に多大の費用を要するようでありますけれども、是は必ずしも全部同樣の布地形とし又同樣の腰積を爲さずとも、荷受柱の下だけ十分なる基礎を行ひ、石又は煉瓦積を爲し、其中間は腰積の形を表す爲、地下一尺位の處に簡單なる基礎を置き、煉瓦の平ら建又は鐵網コンクリート、或はアイヨン・ラスをモルタル塗にして建ち上り、此處に挿入せる圖の如くに外面を一樣に塗上ぐれば、簡單に施行し得られるのであります。

斯の腰積法は無論建家外側周圍土臺下のみに施すものでありまして、間內は單に荷受柱下に

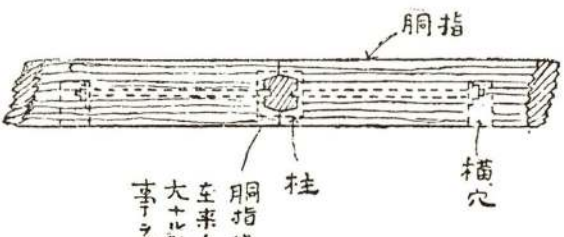
胴指を柱へ指合す方法

本圖は最も簡單なる方法を示すものなれば材料の大さ又は「ストレッス」の工合に從ひ此「ボールト」を一方胴指上ばより一方胴指下ばへ筋違に指合すか又は兩面より帶鐵を當て之に角穴を彫り胴指の穴と喰違になし鐵楔にて締合す等適宜方法あるべし

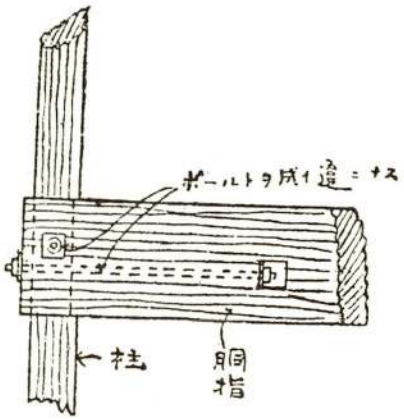


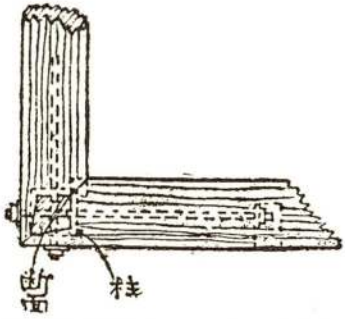


此兩捻ボールト二代ヘテボックススパナーニテ締合ヲ得尚ホ如何ニモ胴廻ヘ横刺ヲ付ケ置キ又ハ「クサビ」ヲ以テ打合セ後締合スコト容易ナリ

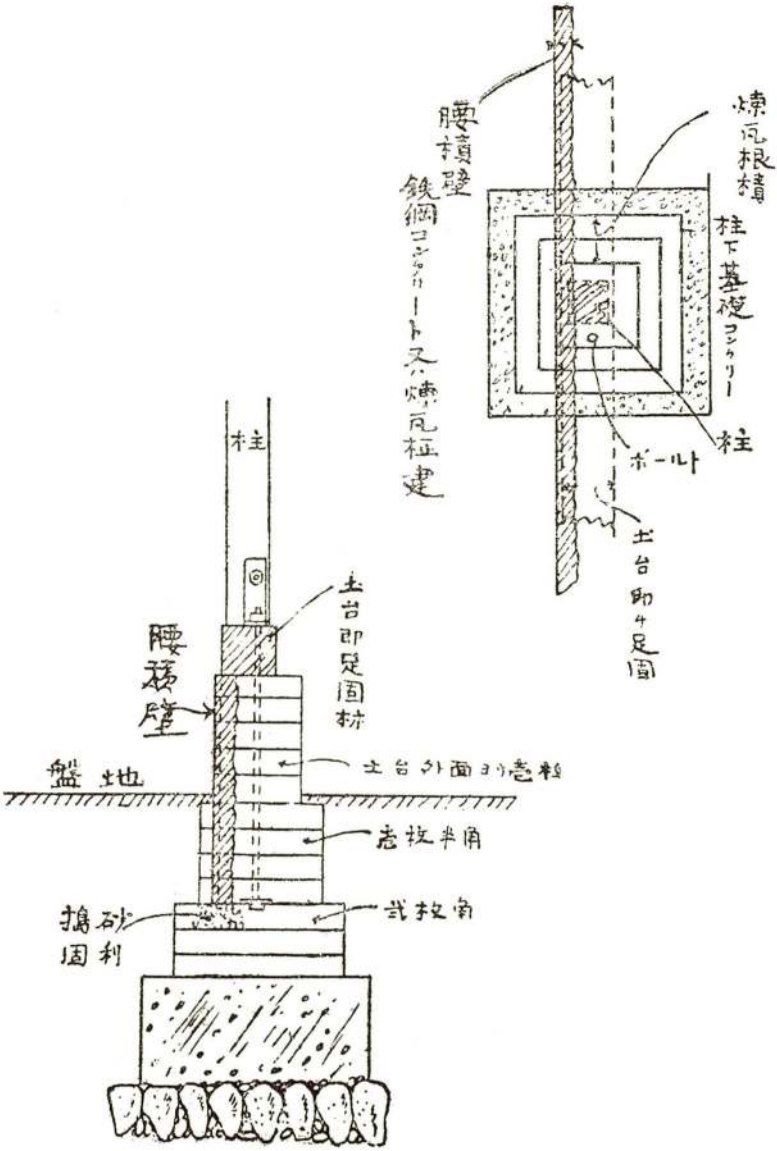


同上隅指合方法

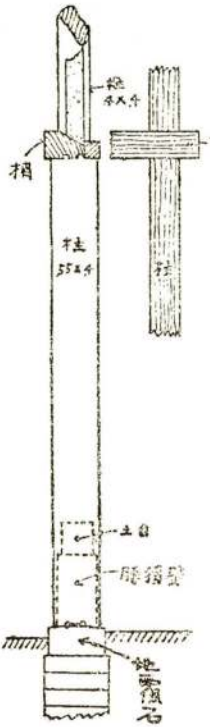




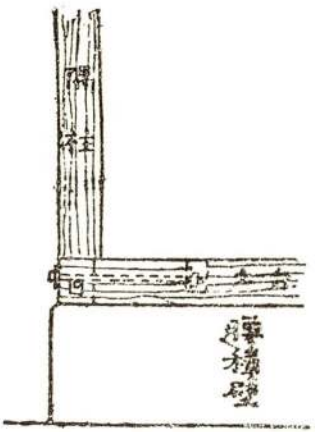
腰積壁


腰積壁
鉄網コンクリート又煉瓦柾建
煉瓦根積
柱下基礎コンクリー
柱
ボールト
土台即ち足固
柱
土台即足固枘
腰積壁
盤地
土台外面まで煉瓦
煉瓦半角
捨砂利
煉瓦半角

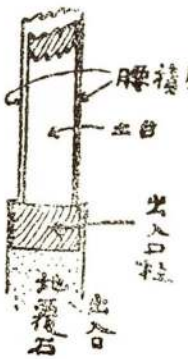
腰積壁と入口柱との取合



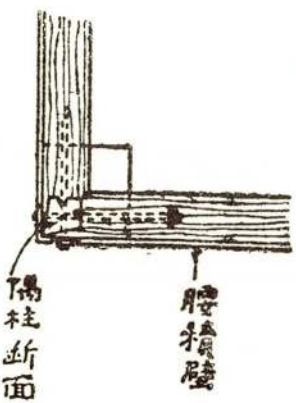
隅柱と土臺取付法



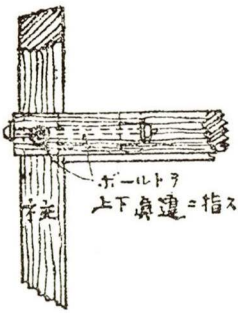
同上平面

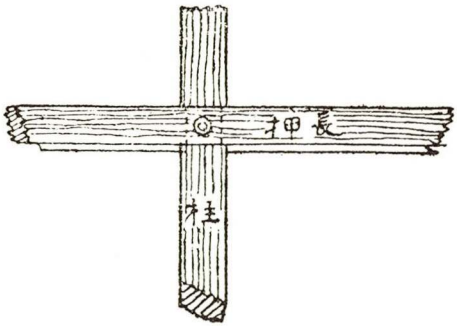


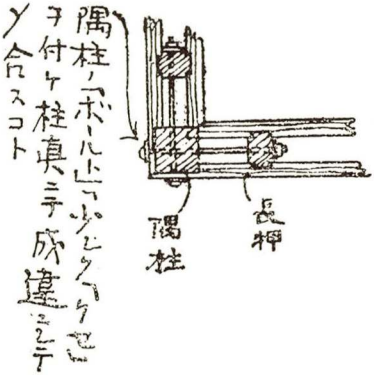
同上平面

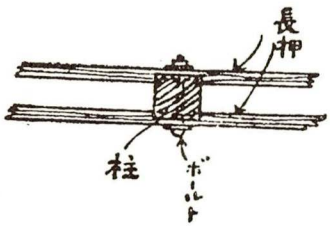


長押取付法

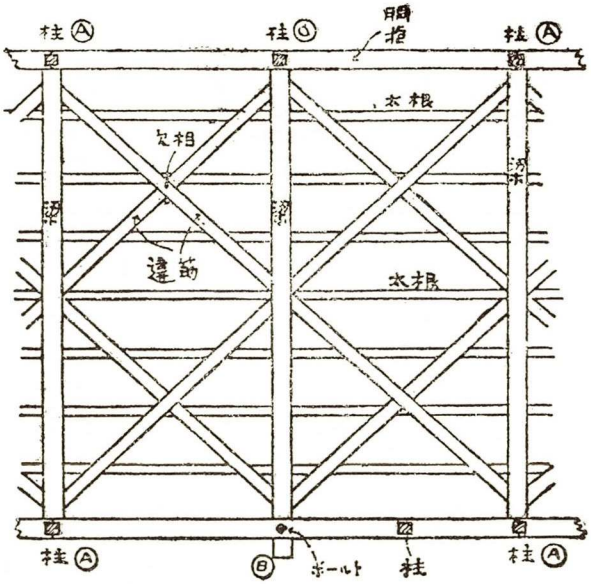

ボールトヲ
上下真違ニ指ス
柱

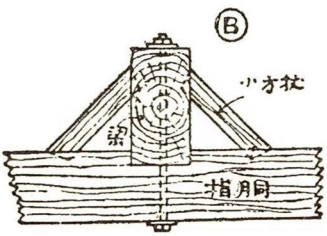

長押
柱

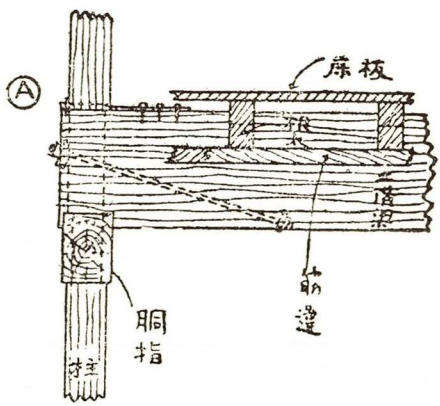

間柱ノ「ボールト」ノ少シクラヰヲ付ケ柱真ニテ成違ニテ
ノ合スコト
間柱
長押


長押
柱
ボールト

二階梁と柱の取付及び根太下筋違







煉瓦の束を積立てゝ此上に土臺を渡すのであります。

玄關臺所其他直接外部より出入口なる部分は柱の見込を特別に大く致し、腰積壁を其面内に修め、上部に楣材をピンタ柄に指合せ、其上より柱の見込を落し、他柱と同じに爲して建込むのであります。

土臺据の隅々を組合又は「止め」にしまして此上に柱建を致しますことは、構造を脆弱ならしむる處の一つの缺點であります。仍つて此隅々は必ず柱の小口をヂカに腰積尙土臺の隅々へは燧貫を必ず仕合すことを要します。

(C) 内法の高さは在來一定し居りますけれ共、椅子式の室としては、少しく高くする方が可いと思ひます。故に、椅子式の室にては六尺三寸疊の室にては五尺八寸とし、椅子式の床よりも疊式の床を五寸高くし、鴨居は見廻し床を段違に致すのであります。

而して、内法鴨居には、必ず長押を取り付ることを要します。是は、床足固材即ち土臺に對して、構造上柱の强力を助くる意味に於て全體に取付けます。

室内に顯れざる部分並に建家外廻りと雖も、此處に挿入せる圖の如く兩面抱合に締合すことを要します。但し、床前等は其裏側に片面付とし、又室内に於て强力上必要なき部分は見得掛りだけ片面付と致します。

(D) 胴指は、前記「通り柱」の項に記したる通り柱に指合せ、二階梁は胴指へ成る可く中心荷重にならざるよう配置し、渡り腮に乘せたる分は金物にて緊結し、尙、圖面の如く、其左右に小方杖のネコを仕合せ、柱へ向ひたる分は凡て胴指同樣の方法にて柱に抱き付け、尙又、二階梁間は根太の下端に圖面の如く必ず筋違を取付け且つ、胴指隅々にも燧貫を仕込が宜しいのであります。

(E) 軒桁は、其繼手を土臺及胴指の仕口同樣柱に仕合せ、金物締めに爲して、隅々は燧貫を締合すことを要します。

小屋梁下の敷桁は、其繼手を柱上に臺持繼に置渡し、柱頂と羽子板ボールト指貫き締合すのであります。(續く)



住宅と生活

□住宅觀念の缺亡した婦人

東京女子高等師範學校教授　大江壽美子女史　談

私は新しく家を建てる人にも、古い家に住んで居る人にも、共に申したいのは、住宅といふ觀念を確實になされたいと思ひます。勿論、どなたにしても、自分の住む場所に對して特別な注意を拂はない者はありますまいが動もすると住宅に對して、食物や衣服程に注意深く考へない人があります。殊に婦人にそれが多いものです。妙なことに男子は割合に住宅には氣をつけますが、婦人はその衣服を氣にする半分も氣にしないのであります。西洋の女はさうでありませんが、日本の女は昔からの習慣と見ねまして家のことに頓着するのは、まことに少いのであります。學校の家事科などでも、例へは衣服の造り方、種類、織物、染色などは、興味を以て覺え込みますが、住宅のことゝなると、どうも餘り興味を持ちません。それは、建築に關することは割合に複雜で、且つ專門的なことが多いからでもありませう。けれども、私共から考へると、家屋については、衣服以上に注意すべきものと思ひます。衣服は永久的のものではないけれど、住宅は場合によつては一生同じ場所に居なくてはなりませんから、新しく建てるに當つても、住んでからも、よくこれを心得て置かなくてはいけません、然るに相當に敎育のある主婦でも、家屋の構造を知り、その各部の名稱を知つて居る人は、甚だ少なからうと存じます現に自分の朝から晩まで居る室の天井の板が何の木であつて、壁の塗り方は何、又床の柱や落

しかけには何が用ひてあるといふやうなことを一々知つてゐる主婦が幾人ありませうか。日本建築か西洋建築かの區別位は、袷と單衣との區別同樣に御存じでせうが、銘仙とお召と縮緬との見別けがつく程度に、自分の室の一々の見別けが果してつくでせうか。まして、衛生上や便利上やから、一々批評を加へるやうな婦人は滅多にあるまいと思はれます。吾々も極めて下等な生活を仕て、南洋土人やアイヌ人の樣に、原始的の生活に滿足してゐるのなら、竹の柱に草の屋根でも充分でせうが、相當な文明生活を營む者には、相當な住宅は必要です。玄關も要れば、應接室も要る、客室も要れば、主人の書齋子供の室、女中の室とそれ〳〵に複雜した室も設備しなくてはなりません。その場合、一家の主婦たる者が少しも住宅の觀念智識がなかつたら何うでせう。玄關は何うして置くものか、應接室は如何なるものかを知らなかつたら、人の嗤はれ者であるばかりでなく、それから招く不便不利も多いのでありませう。その上、凡て物を本當に愛するには、本當に理解して居なくてはなりません、即ち自分の住宅を愛するにはそれを充分に理解して居るのが必要であります。全く知らない所へ旅行して居るやうな心持では家を愛する心も出ず、隨つて整理をしたり、掃除をしたりしても、それは無自覺な、不用意なものに過ぎないのであります。これは餘程注意しなくてはなりません。

そこへ行くと、英國あたりの婦人は違つたもので、日本なら一人前の建築家と同じ位に、住宅のことについてはちやんと心得て居るのです鐵筋コンクリートの家と煉瓦造の家との利害得失とか、天井の高さと光線の射入の程度とかいふやうな、極めて專門的な智識を女學校でちやんと敎へられて居るのであります。私共が、よく英國で茶の會に招かれて、主婦達の會話を耳にして驚くのは、如何にもその常識の優れた、根抵のしつかりして居る點でありました。別に住宅や建築の事と限らず、何事にでも常識の發達して居るのは羨ましい次第ですが、扉一枚、

卓子脚（テーブル）についてさへ、それ〳〵専門の意見を持ち出して、いや斯う取りつけたがよいの、斯う工夫した方が面白いのと、それは〳〵細かい注意深い話が交はされるのであります。机かけの一つでも、西洋の婦人は無理解ではありません「三越へさう言つてね。何か頃合な椅子と卓子とを持つて來さして下さいな」と、小間使ひに命令して置いて、持ち來つたものが時代後れであらうと、その室に調和すまいと、そんなことは一向解らないやうな主婦は一人もありません如何に小さい道具が必要な場合にでも、自分でその形なり大さなり、價格なりをちやんと見積りをして、自分で家具屋へ行つて、それを買つて戻つて、自分の手でそれを置くに最も適當な場所へきちんと置かなければ氣のすまないのが西洋婦人であります。それは實に感心なものであります。斯うして一々に自分で理解があつて自分で整へて行きますからこそ、眞實にその家なり室なり、調度なりを愛する念も生ずるのであります。卓子の脚にほんの僅の疵をつけても我子が負傷したやうに勞（いた）はる心持になるのは當然であります。然るに自分には少しも理解も智識もなくして、主人が建築家と相談して建てゝ下すつて、それに住ませて貰つてゐる程度の無智な多くの日本の婦人は情けない話ではありませんか。一体、日本の主人その人も、西洋に比較するとまだ建築に對する智識や興味が餘程乏しいのであります。一部の茶人とか、或は建築道樂の人は別として、大多數は自分で住む家を自分で設計し又は監督し得る人が幾人ありませうか。一つ〳〵建築家や大工に聞いて「さうかな〳〵」と言つて居るに過ぎないのであります何と何とが如何に出來てゐるので、坪三百圓の建築費を要するとか、或は何故にこゝへ明り窓を設けねばならぬとか、又は何うして此の床は寺院床にしなくてはならないとかいふことをちやんと合點して居る人は少ないのでありませうたゞ、成金式に、立派なもの、贅澤なもの、豪奢なものを注文するとか、さうでなくば、實質や便利などは何うでもよいから、成る可く少い

費用で、なるべく金のかゝつたやうに見ゆる家を造つて呉れと注文する位なものでせう。主人でさへそれですから、主婦に住宅の理解とか、愛とかのないのは勿論な次第でありませう。

然し吾々は何時迄もそれではいけません。西洋では charming house といふ言葉がありますが、つまり「なつかしい、住み心地のよい家」といふことであります。それは何も金殿玉楼の意味ではありません。九尺二間の棟割り長屋でもかまいません。如何にも落つきのある、何から何まで、自分に取つてなつかしい、愛着に満ちた家といふことであります。昔は鴨長明などのやうに、方丈の草の庵でも、それを自分で設計をして、自分で装飾を加へ、自分に最もふさはしい住居とすれば、王侯にも知る能はざる楽しみその中に在りとした者が多うございます。今の世に草の庵や棟割り長屋をお勧めする譯では決してありませんが、智識も理解もなくて住んで居る大厦高楼が何になりませう。

要するに、住宅は我が身の一部と思はなくてはいけません。多くの婦人方には、衣服を我身の一部どころではなく、大部分と思つて居られるのは多いでせう。しかし。衣服よりも一層眞正の意味で、住宅は我身の一部分なのであります。その中で住み、又主婦として働く上、殊に掃除をしたり、調度を整理したりするに當つてこの心懸けがなくては十分に出來るものでありますまい。そしてそれは矢張り若い中からこれに考へ及んで居なくては駄目であります。小學校なり女學校なりで、既に住宅に關する觀念を養ひ、興味と理解とを持たなくてはなりません殊に女學校の家事科では可なり詳しく教へるのですから、注意深く教はつて居ますれば、後日主婦として自分がその住宅と直接交渉の生じた場合に非常に得るところがあらうと存じます。

梅の音を爪にすなる海人少女
沖つ藻刈りに舟出すらしも

□掃除の手數を省く新工夫

前外國語學校教授
淺田榮次氏未亡人
淺田みか子女史談

私の家は現に建坪だけで百坪以上もありまして、それに庭園も可なり廣く取つてあります。家族は餘り多勢ではありませんが、それでも夫の歿しましてから、遺された六人の子供と、私との七人の家族で暮して居ます。尤も一番末の子も、今歳はもう十歳になりまして、小學校へ通つてゐますが、家の掃除だけでも、外樣から見ましたなら、女中の三人や四人は要るやうに思はれませうが、實際はたゞ一人の女中を使つて、私が共に働けばそれで充分でございます。

といふのは、口廣つたい申分でありますれど私は豫ねて住宅の經濟については注意を拂つてゐますので、家庭の整理とか、その仕事の割當方とかいふものは、家屋の造り方、又はその土地の選び方によつて餘程手を除くことが出來ると信じて居ります。そこで主婦や女中の一日の仕事の大半を割かれます家の始末に手を省く工夫に心懸けて居るからなのです。元來日本の家屋は、何處から何處までも不經濟的に出來てゐまして、手がかゝるのが當然の樣であります。西洋風の家はそれに比べますと、すつと樂に仕事が運べる樣に思はれますので、何も贅澤やハイカラをする譯ではなしに、私は此の西洋風の建築の長所を採用するように致しましたのです

先づ、土地が市街を離れた郊外にありまして四隣には樹木が多く、原は一面の芝生になつて居ますので、第一、私の家へは埃が餘り立ち込みません。その上、高臺にありますから、空氣の流通もよろしく、人家が密接してゐませんので、光線の工合も申し分なく行き渡つてゐますそれに肝腎の住宅は、建築を最初にしつかりさせて置きましたから、例へば外側は全部硝子障

子にしまして、その隙間から風や埃が無闇に侵入しないやうに出來てゐます。又襖といふものは一枚も用ひませず、これは全部板戸としてあります。それから各室には、入用なだけの押入が十分に取りつけてありますから、室内に物を出して置くことは少いので、その爲めに掃除の手が餘程省けます。一体、掃除の手數の大部分は、座敷の物を運んで動かしたり、又は吊したり外したり、はたきをかけて拂つたり、或は拭いたりするのに費されるものですから、埃も餘り侵入せず、紙の障子や襖もなく、その上に物を室内へ餘り出して置きませんから、掃除が非常に樂なのであります。

掃除は、臺所と食堂とは女中の受持で、その他の場所は全部私の受持にしてあります。そしてその順序は、先づ日本室と西洋室の各室とは一週に二回、水曜土曜をその掃除日と決めて致します。それから日本室の客間の方は。純粋の日本座敷にしてありますから、それ相當の美を保たねばならぬ必要上、その室にだけ紙の障子を用ひてありますけれど、その格子も、縦を多くして、横の桟は僅か二本よりありませんからはたきもそれだけに掛ければ、先づよろしいのです、それは、客室はお客様のあつた場合の外家族は一切出入しないことに致してありますから、障子の破れる心配も少く、襖の修理なども滅多に致したことはございません。

前にも申した通り、各室に、要るだけの押入が設けてありまして、例へば寢室には、夜具やその他の用品を入れるに充分な深い押入があり子供達の部屋には、それを淺くして澤山の段々を設け、一目で物品を取り出すことの出來るやうにしてありますから、品物を捜したり、或は除けたり始末をしたりする必要もなくしてあります。又子供室などの戸棚は上を硝子戸としまして、下を板戸としてありますので、埃も立ちませんし、また可なり亂暴に騒ぎ廻つても、破損する氣づかひはございません。

私は可なり澤山の場所のお掃除を受持つてゐますけれど。朝の御飯を食べてから二時間以内

で、すつかり始末をして了ひます。私の居間も寢室二つも、子供の室も洗面所も、それに廊下もきれいに致します。尤も、可なり大きくなつてゐる娘や、高等學校に通つてゐる男の子達には、自分の室は各自に掃除をさせることにしてありますし、化粧室、浴室等は別に掃除をする程の必要もございません。化粧室や納戸の押入などは、六尺五寸の幅になつて、そこへ簞笥を二竿づゝ入れられます、そしてその簞笥の上の二尺位には、小さな戸棚としまして、組立した手道具を一切入れられるやうに出來て居ますから、お掃除の手は全くはぶけるのであります。

次に女中の受持になつてゐる食堂とお臺所と湯殿でございますが、一体、臺所は不潔だとかよごれ易いとか、皆さんで仰やいますけれど、私はそれは設備が不完全だからと思ひます。私から申すと、流しが三和土になつて居て、水がざあ〳〵四邊に飛び散つたり、また七輪やお竈の附近の灰がとんだり、その上にお煮附の汁がこぼれたりして汚れるのは、一つは女中の不注意にも依りませうが、又止むを得ない次第でありますから、そんな風に汚れても差支ない様な設備にして置いたがよからうと存じます。そこで私は、臺所の下を全部板張としまして、流しは室の一隅の窓に面した所へ高く、立つて仕事が出來るやうに取りつけまして、使用した汚れ水は、そこから亞鉛の樋に導いて、羽目の外にある土管から流し出すやうに致しました。それから、瓦斯の臺も、巾二尺に高さ三尺位、長さも一間に致しまして、これを亞鉛張りとしました。そして下には戸棚を取りつけてあります。又瓦斯臺の向ふに敷居をつけまして、これに硝子障子をはめてありますから、この障子を開けますと、七輪の灰や塵やは、直に裏の戸外へ掃き出せるのであります。最もお臺所を汚し易い瓦斯臺の塵は、板の間へ掃き落しませんから、そこだけの掃除で間に合ひます。それだけでも臺所の清潔を保つことは大へんなものであります。

次にこの臺所と隣室の食堂との間には、共通

の戸棚を設けまして、双方から戸が明やうにし食器は臺所から洗つたのをそれに入れて置きますと、食事時間が來ると食堂に行つて戸棚をあけて取り出せば、すぐお膳立が出來るやうにしてあります。これと同樣に、共通臺も傍に設けてありますので、食べた後の食器をその臺の上に出して置きますと、直に臺所の流して洗はれるやうになつてゐますから、まことに手早く臺所の取り片つけか出來るのであります。

私は又、井戸と湯殿の位置にも注意を致しました。即ち井戸は東南に面して掘りまして、寒中でも、北風が當らず、朝から太陽が照りつけるやうに工夫を致しましたので、氷が張つてお洗濯がつらいといふやうな心配は少しもありません、勿論、井戸は掘抜きにしてありまして、吸上ポンプで汲めるのです、又風呂場も、井戸の南の方に別に建てゝありまして、水は桶で送るやうになつてゐます。普通なら一坪の三和土にして、そこへ桶を据ゑるのですが、從來のように、入浴してゐる際に、下女が火を焚きに入つて來るといふことは、寔に不快ないやなものですから、私はこれを廢しまして、火は戸外で焚くやうに致ました。又三和土の上へは、普通のやうに簀子にしますと、女中が洗つて乾かすのも面倒だし、從つて不潔になり易いと思ひまして、五六寸の幅で、厚さ一寸位の板を長さ三尺としまして、下の三和土から三寸位の高さの受けを造りその上に板を敷いて置きます。斯うしてありますと、女中が最後にお湯を棄てる時に、たわしでざあ〳〵洗つて板をはづして立て掛けておけばよろしいのです。すると三和土も全部同時に洗ひ流されることになります。それを翌日になつて南の戸を開いて置きますと、朝日が一ぱいに差し込んで、湯殿をすつかり乾かして、まことに氣持ちよくなります。ですから湯殿はお湯の棄て際に一度掃除をすれば、別に手數のかゝることは少しもございません。餘り長話を致すとお自慢らしく聞えますから止しますが、皆さんでも住宅については色々御工夫がありませうから、それをお伺ひして、參考に致したいものであります。

□凡てを自由に興味の動く儘動作に便利な家

増田信一氏夫人　増田きく子談

私共の生活の上に於て最も大切なものは、住宅でございます。自分の好きな家に住んで居るといふ事は、どんなに其氣分を、安らかに樂しくする事でありませう。着物や食物でありましたら、嫌なものなら直ぐ他の品と代へるといふことも出來ますが、住宅ばかりは、さう手輕には參りません。又それだけ重大なものでございませう。私は家といふものに就いては、趣味も感じて居りますし、理想も持つて居りますが、其理想的な家には、なかなか住めさうもないやうです。私共が家庭を持ちまして、いつも感じることは『よい家に住み度い』といふ事であります。よい家と申しましても贅澤な家といふ意味ではありません。兎に角自分の理想に近い、氣持ちのよい家といふことでございます。此よい家に住み度いといふ思ひから、濱寺に家を建てました。新築にとりかゝる迄は、何でもよい家を作り度いと存じまして、判らぬながらも建築の本などを讀んだり、他さまのお邸を拜見したりして、大した意氣込みでございました。やつと出來上つて嬉しやと早速住んで見ますと、最初のうちは珍し半分で、格別小言もなく住んで居りましたが、二年三年と住んで居りますうちに、此處は斯うし度い、彼處は彼うといふやうにいろ〳〵な缺點が出て參りました。そんな譯で、後には、少しばかり空地があつたのを幸小さい洋館を建て增しをいたしました。洋館が出來上りますと、今度は、古い方の家は空にして皆洋館の方に轉居するといふ調子でございます。私共は、疊の上に生れ、疊の上で育ちました爲めに、兎角疊をなつかしがる癖がありますが、疊の部室といふものは、不便なものでござ

います。一寸物を出しても疊の上に置きますと如何にも部室が亂雜に見ゑます。それが嫌さに部室を、いつもきちんと片付けて置かうと思へば、仕事が出來ないといふ事になります。假りに疊敷きの、六疊室の主婦の部室があるとしますると、後は何も置く事も仕事を出すことも出來ません。縫ひ物でもする時には、別な部室に行く本を讀む時には書齋に行かなければならぬといふ事になりますと、其間に、時間も無駄になりますし、興味もなくなつて、『まア止さう』といふことになります。此處は讀書室、此處は音樂室、此處は裁縫室といふやうに、凡ての部室が別れて居りますと、表面には如何にも便利がよさゝうに見ゑますが、實際は無駄な時間と勞力とを要する割合に、不便な場合が多いやうでございます。人間の生活といふものは、規律づくめ、時間づくめでは面白くないと存じます。凡てを自由に興味の湧くまゝに、氣分の動くまゝに身體も動かし度いものであります。そうしまするには、さういふ家屋を作ることが必要でございます。それには、凡て事が手輕に運べるやうにするのであります。縫ひ物に飽いて本を讀み度いと思つたなら、一寸手を伸べれば屆くとかピアノでも彈いて見度い氣分になつたなら、其興味の薄らがないうちに、直ちにピアノに手をかけられるやうに、勞れたから一寸休み度いと思ふ時には、直ぐ休息の出來るやうな設備をして置き度いものです。さういふ設備を仕度いと思へば、どうしても西洋間でなければなりません。疊敷きの部室にピアノも置かれませずと云つて三味線といふのも變なものでありませう。頭を休め度いと思つても、女が横になつて休むといふのも餘り見よいものではありません。西洋間でありますと、少し場處を廣くとりさへすれば、一室のうちに、ピアノも置けますし、一寸した本棚も置けます。安樂椅子や姿見、書き物の道具、縫ひ物の道具も卓子の下にでも置けます。そして、此部室で、縫ひ物を仕樣と思へば卓子の上でも出來ますし、氣の向くまゝに、

讀書も出來、書き物も出來、勞れを休めるには安樂椅子に休むことも出來ます。疊の上に横になるのと違つて、椅子の上ですと、召使ひに見られても不体裁でもありません。お客樣でも有つた場合には、其處の姿見で身繕ひをして應接室に出て行つて。無駄な時間を過さずに濟みます。心安い方でしたら、直ぐ其部室にお通しすることも出來ます。疊敷きの部室に、一方には仕事を廣げ、其傍で子供が晝寢をして居りますと、とてもお客樣をお通しすることなどは出來ません。又靜に考へ事をし度いと思ふ時でも、日本坐敷では出入が自由ですから、人の出入の爲めに妨げられます。西洋間ですと、周圍の音も聞えませず、入口の締も嚴重ですから、人の出入の爲めに妨げられるの道具などを置いてもそんなに体裁の惡いものでもありません。縫ひ物を仕樣と思へば、卓子の上でも出來ます、直ぐ其場で讀書も出來、書物も出來、勞れを休めるには安樂椅子に休む事も出來ます。疊の上に横になるのと違つて、椅子の上ですと不体裁でもありません。お客樣でもあつた場合には、其處の姿見でみづくろいをして應接室に出て行つても、無駄な時間を過さずに濟みます。心安いお客樣でしたら直ぐ其部室にも通うして頂けるといふ調子で、非常に不便利でといふとはありません。衛生といふ方面から考へましても、用心といふことから申しましても、日本家屋よりは、洋風の作り方が勝れて居ることは確でございます。そんなら全然洋風にして日本風を廢したらよいと申しても、それは實行は六ケしうございます。そこで私共の望みますのは、兩方の長處を旨く調和して、和洋折衷式のものでございます。只今のやうに衣類も、食事も、仕事も誤樂も、凡て二重の生活をして居る以上は、住宅もやはり二重でなければなりません。さうして凡てを二重生活としますと、私共の生活は、餘りに復雜に過ぎはしないでせうか、さうして生活が復雜になつた結果は、其爲めの疲勞といふことも考へなければなりません。生活が、此上復雜になるといふことは堪へられないことだ

と存じます。私共は、なるべく生活を簡易にすることの必要は痛切に感じて居りますが、復雑にし度いとは望んで居らないのでございます。どうぞ、模範的な和洋折衷の家屋の産れることを希望いたします。

京橋の同邸をお訪ねしたのは、或る日曜の朝早くでした。暑くならないうちにといふ我がまゝな考へから、久し振りでよく晴れた夏の朝を、堂島川から來る冷たい風に吹かれながら食後の散歩でもするやうな、輕い氣持ちでお訪れ申しました。大阪風の、小さい、そしてよく磨き脫いた格子を開けて門内にはいりますと敷き石から、大きく茂つた八つ手の葉まで、夕立の後のやうに濡れて、如何にも夏の朝らしい心快さを思はせるのでした。玄關の處から入口が二手に別れて、一方は地下室とも申しませうか、道路よりは一段低くなつて、丁度川の面と同じ位の地處に、お風呂場お勝手などがあるのださうです。滑らかな廊下を傳つて二階に上りますと、一方は純日本風のお坐敷、一方は西洋間で、其西洋間の北向きに、面白い場處があるのでございます。それは、巾一間長さ四五間位の廊下で、周圍には純白塗の棚が有つて、溫室風に天上は硝子張りにして日除けを張り、壁は美術的な更紗の切地で張つてあります。四方に棚と同じ白塗りの小さい棚が澤山あつて、そこには大小の美事な植木や草花などが、澤山置いてあります。其中央に、此部室と其植木とにふさはしい、清らかな椅子卓子が据ゑてありまして、主客は下から通り川風に吹かれながら、其柔かな椅子に寄つて語り合ふのでございます。こゝは、ベランダーと溫室と應接室とをかねて居るのですが、趣味のある思付きだと思ひました。かうしたところで靜に語り明すなどは、夏の味でありませう。

先づ勞して后に休息せよ
――ラシース――

□便利な家としての三つの要素

美顔術師　山本久榮子談

私は、女としては非常に忙しい暮しをして居ります。毎日お髪上げや美顔術にお出でになる何十人といふお客様に、間接ではありますが、それ〳〵注意を拂つたり、外の用事、店の用事や、旅行など、朝起きますと、夜休むまでは、頭と身体とを休める暇もなく働いて居ります。斯うして年中ばた〳〵働いて居りますと、時にはゆつくりと、少しの氣兼もなく休息をし度いと思ひます。家に居りましても、休み度い時には勝手に休める譯ではありますが、忙しい中に居りましては、いくら勞れて居ても、心からのんびりとくつろぐことは出來ません。身も心も低の低から休めるには、靜な場所でなくてはいけません。それが自分の好きな場所に自分の好みに應じた家でもあれば、此上の慾はございません。さういふ處で、思ふさま手足を伸して休息をして、新しい元氣とよい頭とを得て、更に仕事にかゝるといふことは、人間にとつては最も大切なことでありませう。斯ういふ意味から申しますと、別莊といふことも、一概に排斥も出來ないと思ひます。只それを常識的にするのと、只もう、人を愕かしてやらう、贅澤にしてやらうといふやうなやり方をするのとの相違で後者のやり方が多い爲めに、別莊と云へば、直ちに贅澤視されるのではないかと思ひます。私はいつも考へて居ることでありますが、別莊といふものは立派なものを或る處に一ケ處持つよりは、山間にも、濱邊にも、景色のよい、靜な處に、小さいのを澤山作る方がよいと思ひます一定の場所に一つ丈ですと、今度は變つたところに行き度いと思つても、馴染みのない土地に行つた時の不安と不便とを思ひ煩つてやはり行きつけた處に行くことになります。どうせ別莊行きといふことは、旅行に出たといふ落ち着か

ない氣分は免れないのですから、あちこちと變つた土地に行つて、變つた氣分を味うのがよいと思ひます。斯ういふ考へから、私は、隨處に小さい、ほんの雨露を凌ぐ丈の家を幾つも欲しいと思つて居ります。旅行をした度毎に、氣に入つた土地があれば、直ぐ其處に小さい家を探します。適當な家がなければ、自分で設計をして建てます。つい此間も紀州の高野山の麓に大變景色のよい處がありまして、其土地に小さい家を一軒建てました。坪數から申しましても、建築其物に就いても、それはもうお話にならない程貧弱なものであります。自分の好きな處に好きな家を持つといふ事以外には何の取柄もありません。此家は、平家建ての四間程の家でありますが、私の最も意を注いだ所は、便所と、お風呂場と臺所でございます。三つが完全に出來て居れば、其家は家として立派なものであるといふ私の持論であります。臺所は、便利といふことを第一番に考へまして、それから衛生的にいたします。臺所はいつか、大阪朝日新聞で一等に當選した設計圖案が、大變によく出來てありましたので其通りにいたしました。廣さは二坪足らずですが、まん中に料理臺と瓦斯水道が有つて、物を洗つてから煮て器物に盛つて配膳棚に持つて行く迄の順序が、非常に工合がよく出來て居ります。料理臺は四方から手が屆くやうになつて居ります。流しも四方から洗へるやうになつて居て、一時に四五人一緒に洗ひ物をしても少しも不便を感じません。窓を澤山つけて、日光と風とが隅から隅迄通るやうにしてあります。此臺所では、二十人前丈は、大した不便を感せずに用意が出來るのでございます。

此家のうちで、一番よい位地にあるのは、お風呂場です。景色と云ひ日當りと云ひ申分のない位地に作りました。お風呂にはいるといふことは、一日のうちで最も樂しくなければならない時であります。朝起きてこれから一日の勞苦に就かうとする時とか、一日の勞働が濟んで、これから凡てを忘れて休息を仕樣といふ時にお風呂にはいるのですから、美しい自然に接して

腹の低からよい空氣を吸ひ、肉体が清潔になるやうに、天然の音樂で耳を洗ひ、自然の光で目を清め、表面の垢ばかりでなく、耳の垢も目の垢も洗ひ落すやうにと、よい位地を選みました風呂場は清潔を旨として、水の流れ口、風通しなども可成よく出來て居ります。三方の窓を付けて、遠く高野山の頂きから、谷合の流れまで手にとるやうに見わます。月のよい晩などは、地所の高低で田が段々になつて居る處に月が出ますと、丁度田毎の月のやうで、時間の經つのも何も知らずに入浴をして居ります。何しろ彼の深い大きい高野山を控へて居るのですから、四季折々の花の絶へることはありません。小鳥の聲、前の小川のせゝらぎなど、此世のものとは思へぬ清淨さを感じます。

便所は、臭氣を發散させないやうにと苦心をいたしました。それと掃除の仕よいやうに注意をしました。便所の中から屋根にかけて細い長い煙突を通じて其煙突が半程で風呂の煙突と繼ぎ合せますと、風呂を炊いた時に、風呂の煙と一緒に臭氣を持つて行きますから、臭氣がすつかり無くなります。此家は、私共が參りません時には開放して村の公會堂のやうなことに使つて居ります。垣も結ばず塀も立てない野中の一軒家でございます。

學者の重みと尊敬

學者が學問上の主張を立てる、時には反對者が現はれて是非の論爭ともなるが、何しろ問題が高尚で俚耳に入り易からぬと同時に聞けば何方にも一通りの理屈がある。其處で、世間は解らぬながらに面白がつて賑はしく囃し立てる、それに彈みを得ては尚更雙方論題の花が咲く、若くは能い加減に雙方の深みを見せて交綏する、無理解に感心した連中が只もう雙方ともに偉いものだと賞めて呉れる後から親切な批評家が現はれて、雙方の論點を丁寧に取纏めて斯る議論が爭はれたと後世にまで殘して呉る。善かれ惡かれ、其處に學者の學者らしき重みと尊敬が永く兩者に向つて捧げらるゝ。

——「技術生活」より——



街道樹論(一)

特別賛助員 農學士 大屋靈城

一、總　說
二、樹種の選擇
三、並木の管理
四、並木の保護
五、大阪市の並木

一、總　說

都市裝飾の上から見ても都市衛生の立場から論じても都市に缺くべからざるものは街道樹と公園である。私は此等の問題に就て少しく卑見を述べようと思ふ。我國には今日澤山の都會があるが一つとして系統立てゝ造られたものはない。從て道路も狹く不規則で並木の如きも植ゑたいと思つても植ゑられない都市が多い。並木は別としても市内に樹木の點在して居るところさへも稀である。九州の熊本市の如きは私の知つて居る範圍では木の多い町であらう。あの京町臺から瞰下した町は全面青桐の杜の中に包まれて見ゑる。高麗橋の三越の露臺から眺めた大阪市は丸で屋根の群がりであつて道もなければ樹木も無い。蒸し暑い地獄を見てる感じがする裸にされた粗剛な町の景色が如何に殺風景であ

ろかを立證するには此所に登るに限ると思ふ位である。市内を歩いて見ても樹のある町と樹の無い町は全く感じが違ふ。北米のワシントンの街は世界でも有名な樹の多い町であるが全市がまるで公園の様な觀があるそうだ。

勿論工業區や商業區にあつては色々な事情から樹を植ゑられぬ場合があるであらうがせめて住宅區には樹は成るべく植ゑたいものである一般の人が都市を開く場合には大低樹木を惜し氣なく切り拂つて建物や道路を造るが殘されるものは出來る丈け生かして置きたいものであるそうして其の周りに小空地でも作つて置けば將來小供の遊び場として又通行人の休憩所として利用される。

又車道と人道との境界線に沿うて立派な並木があると云ふ事は第一建築のhard lineを軟げると云ふ効あるのみならず、下を通る人に氣持のいゝ感じを與ゆる。と同時に都市其自身にも落ち付きを與ゆる。銀座の夜の街はボンヤリした瓦斯燈の光に新緑の柳の葉が濡れて輝いて居る此頃の眺めが第一であらう。この夜の並木道を暖かくほてる顔を無遠慮に突き出し乍ら逍遙する氣分は、何人も思ひ浮べずに居れる程好いものである。街の安靜と愉快と年中變つて行く絶えまない興味とは全くこの並木から湧いてくるのである。それで初めて其の都市に這入つて來る旅人は並木のよしあしを見て其の町の住み心持を判斷するのが常である。

又同じ幅の直線道が眞直に何處迄となく續いて居る市内の主要道路は兩側の並木の同じ格構に刈り込まれて立ち並ぶ透視畫的のvistaによつて一入の美觀を添へ得るものである。彼の東京驛前の並木道の計畫はこの意味のものである次に衛生上の見地から見ても樹木は其の土地の氣候を緩和し空氣を清潔にするに偉大な力を持つて居る。

炎熱鐵をも熔かすような夏の日の日光は屋根の瓦や道の舗石にふち當つて遠慮なく熱線を反射して居る。これが爲に道路は勿論家の中までも火宅の様に暑い。夏期に小兒の死亡率が著し

く增ねると云ふのも大部分はこれに原因して居るそうである。樹木はまん丸く繁茂した幾萬の葉に、これ等の强光を受けて路面や室内に侵入する火氣を遮つてくれるのみならず、常に澤山の水分を蒸發して空氣の乾燥を防いで居る。從て樹蔭は砂漠中のオーシスの樣に人に喜ばれる又吾々の呼出して居る CO_2 ガスを絶えず吸收して O_2 ガスを出してくれる爲に、都市の空氣は衛生に適つたものに幾分でも近づく事が出來る。昔から「都市には三代と續かぬ」と云ひ傳へて居るが都會の非衛生的である事は長命者の少い事や出產率の少い事や壯年の健康狀態等によつても明かに知られる。少し舊いが獨逸の統計を見るとプロイセンでは男女の死亡年齡は平均（一九〇一—一九〇五）

男　四三、七二（才）
女　四七、三三（才）

であるがこれを都會と田舍に分けると

都會　四一、六五（男）　四六、六四（女）才
田舍　四五、三九　四七、八六

である。

又地方から引張り出されねばならぬ徵兵の割當數を一〇〇人として實際に合格した者の數を擧げて見ると

人口　二千人以下の小村　一一四人
同　二千人以上五千人の田舍町　九一
同　五千人以上二萬人の田舍町　八六
同　二萬人以上十萬人の都會　八三
同　十萬人以上の大都會　六五

又出產率は人口百萬人に對し（一九〇〇—一九〇二）

田舍　一八三、四一
大都市　一一七、七七

である。

斯くの如き有樣であるから市內に住居を持つて居る人は斯の點に十分注意しないと終に自己の子孫を絶やすと云ふ不幸に立ち到らねばならぬ住宅建築の改良、市街建築の改善と云ふ事は隨分研究されて居るが都會の人を田舍の人に劣らぬ樣に健康に保たせる樣な設備をすると云ふ事は却々六ケ敷しい問題であらう。陽光や氣換や

排水や土水に對する完全なる設備を考ゆると共に、この空氣の Refre shing に關しても研究されなければうそである。植物の力をかる事は藥品を使つた方法よりも遙かに經濟的で効多いものと信ずる。斯くの如く樹木は都市衛生の上から云つても無くてならぬものであるが、人口の增加と地價の騰貴とは市內に庭園を構ゆる事は勿論家屋の周圍の植込みでさへも容易に爲し能はぬ位に窮窟たらしめるに至つた。

又今日都市計畫の上から思云つても、廣大な面積を一人で領占すると云ふ事や雜然と種々異なつた植物を植ゑ込むと云ふ事も頗る都市としては迷惑に感ずる。何となれば之が爲に一般市民の住宅地として使用し得る割當面積を小にし系統的交通機關の布設に少なからぬ支障を與ゆるからである。從て茲に市內に於ける個人の占有し得べき庭園を制限し別に公衆の遊步し得べき公園を設け雜然たる各邸內又は邸外の植樹を取締つて一貫せる主義の下に特殊の樹木を選びて街道並に邸前に植込み市民の衛生と都市の裝飾とを完全せしむる設備に出ると云ふ事は焦眉の急務であらう。（續く）

◆都市設計は黨の衣類に等し◆

都市設計に殆むど必ず伴ふのは、郊外地又は接續町村に迄市域を擴張することで、是は人口增殖の結果必要を認むるに至つたのであるが、外に更に有力な動機が原因してゐる。都會地は其周圍の地域に對して、現代都市的の經營を必要とするものであることを自覺した結果である。例へば、子供は成長するに伴れて着物の身幅を廣くせればならぬが、第一に將來成長するのであるから、充分に「アゲ」を置いて其用意をするのが得策である。第二に衛生其他の事から考へて着類は凡べて寬裕に出來て、皮膚に風や光線を供給することを工夫すると同一理由である ——『都市的都市經營』より——



樣式の上にあれ

（下）

會員　村野藤吾

一、序　論
二、樣式再現は愚策のみ
三、科學の進歩と美的觀察の時代錯誤
四、國風問題と批判能力
五、無目的なる現代建築樣式の煩悶と其の解釋

四　國風問題と批判能力

超樣式に對する私の議論は叙上の三項に依つて曲りなりにも略其の意を盡されたと思ふ、然し、それは、見樣に依つては純然たる現在主義者としての立脚地に於て、既成樣式に對する一種の否定的態度とも謂われないことはない故に私は私の所論をもつと徹底させる爲めに、即ち超樣式論の根底をもつと鮮明するために、殘された問題につきて研究する必要がある。何となれば謂ふ迄もなく超樣式とは無樣式でなくて吾等が有する道德觀念の統一する建築智識が人生の目的、人間の自然的な欲求に對して判斷し識別し、助長して以て、吾等に取りて「不斷に新らしき樣式の創造」に對する研究にあるからである。以下の論文は、或る意味に於て超樣式論の全肯定的解釋とも見られないこともない。

超樣式論者の唯一の依據は道德的觀念の豐富なることは再三高調したる通りであるが、單に道德的觀念と云ふ丈けでは、あまりに抽象的な言葉である。故に私はもつと具体的に斯の問題の內容につきて研究する必要がある。

吾等の道德覺醒の前提には、必然的に、個人としての自覺に次で、社會的覺醒、次で國民としての自覺より世界人としての立場を考へ、茲に初めて吾等は一個の人間としての綜合的な而も極めて復雜な自己意識が生ずるものと信ずる第一期に於て吾等に關する一切の問題が展開され次で社會的に之れを養ひ、次で國人として思索し、最後に世界人として合体する處に道德性の全充があるのである。ともすれば、吾等は「アブノルマル」な「コスモポリタン」となり、ともすれば吾等は極端なエゴイストとなつて世界的にも亦社會的にも全く盲目となり、個性完成の對照を失ふことがある。

切論して、吾等は、道德性の發展には、どうしても何れの方向からか、以上の經驗を踏まなければならない。こは單なる推論ではなくて、事實——民族生理とか民族心理等の動かす可からざる條件——に立脚する全く「ナチュラル」な現象の具体化である。米國の某女流地理學者かの說に依れば、自然に忠實なることはやがて文化生活の豐富と正康とを齎らし、文化の發展と同時に人類は益々自然の恩惠に浴しなければならないことが眞實である限り（文明協會旅行地的環境と人生を讀む）

吾等の論旨は聖なる實在の具象を目的とし、確固たる事實上に安住せんとすることに外ならない。

私は、斯く順々に發展する道德觀念の經程は又、建築樣式の反面でなければならないと信ずるものである。以下論ずる處の樣式問題は、「吾人は日本人なり」てふ意識に立脚して「ナショナルスタイル」に關する問題に觸れんとする考へである。

概觀して我が國の樣式と及び樣式論は二樣に分類することが出來よう、一つは國粹論者及び

準國粹論者と、他は世界論者及び準世界論者である。私は假りに、前者を國家民族傳統主義者と見、後者を四海同胞人道主義者と呼ぼう、先年明治神宮懸賞に表はれたる作物を前者の化表と見ることが出來る。此の方は近來幾分其の勢力を失つた樣な觀はあるが、隱然たる傳統は今尙建築界に底統して居る。次に、最近殷んに論ぜらるゝ構造論及び青年建築家達の間に現はるゝ一般的思潮及び其の作物の一般的傾向は、後者に屬するものと見ることが出來る、而して國人としての意識を肯定する意味に於ては、双方異論なきが如きも、論ずる處、窮する處は自から相反するは蓋し當然の勢である、概して前者は古き建築家に後者は所謂新しき建築家のうちに表はるゝ傾向である、と見て差支ない。

如何なる國家と雖も外國文明の移入に依つて國民思想の一時大に動搖することは事實であつて、强き國民は之れを消化し、同化して、自得のものとするに反し、弱き國民は之れが爲めに滅されたることは、世界歷史の敎ふる所である而して此の間にありて、我が國民は今日まで幸にも强き國民であることを示したのであつた。例へば佛敎渡來及び夫れ以後に於ける國內の狀況や、明治維新の世界文物移入及び夫れ以後に於けるが如く、其の初頭一時大に動搖したる民心も、やがて我が民性は其の强さに一步を進めた以外に、一切の動搖は世界に雄飛する所以であつた、此の表面に現はれたる事實を摑んで、益々世界的に躍進せんとして居るのが、世界主義者の聲明で、此の事實より一步退いて、國家觀念の捧持を主張して、民性を重視し趣味に憧憬して、此の異狀なる近代的發展のうちに要約して居るのが傳統主義者と及び其の作物に見ゐる思想である。先者は益々海外文明を移入せんとし、其の據つて謂ふ處は、「日本人の作爲は到底日本人の外に出でざるが故に、如何に海外樣式を移入しても、そはやがて、日本人の作爲の圈內を出ざるのみか、日本をして益々躍進せしむるに外ならない」と云ふのである。後者は、之れに反して、海外文明の無制限なる移入はひ

いて我が國家の獨立權に危險なしとせず、否危險なりとするも、國家を異にして生れたる樣式である以上、之れを直ちに取つて用ふるは不合理なる事なしとせず、故に海外の進歩せる樣式をつとめて彼等の見る處の現代日本固有の趣味と、民性を一致せしめんが爲めに、つとめて國風に變容せんとして、其の據つて立つ處は傳統の勢力である。吾人は兩者の說に尊敬すべき幾多の重大なる眞理を敎へらるゝものである。

然るに、茲に、兩者の說に見ることの出來ない或る重大なる問題がある。それは即ち「批判能力」に對する論者の無反省なる點である。

惟ふに、現實的精神を注入せられ、覺醒せしめられなかつた私達の仲間の多くは、歷史、傳統、國家組織等の現實的、精神的、情意的、實的方面を觀ずして、徒らに官能生活の放縱なる空想と、理智主義的空想の、空中樓閣的建設に耽つて居るのである。かくて、當然の傾向として我國建築家中の一部の人達は當分安易なる建築界の狀態を樂觀して居る、享樂主義者とならうとして居るのである。彼等は曰く日本民族の一員たるよりも何某たることにより多くの誇りを感ずる。曰く、日本人たるよりも人間たることにより多くの權利及び義務を感ずるなどゝ云つて居るのである。人間の思想もこうなれば、個人から民族、又は、國家と云ふ現實的立脚地を飛び越えて、一躍人類へ飛翔しようとするのであつて、其の思想は全く抽象論的空想であり現實への手續順序に無頓着な、極端なる理想主義的空論である。かの佛敎文明によりて一時大に動搖したる我が國思想界も、やがて之れを消化体得したる、又基督敎の傳來によりて當時の國体擁護論者を裏切つてよく今日の文明を誘致したるが如く見ゆは、彼等建築的世界主義者の爲に萬丈の聲援をするものとして常に引用さるる實例なるが、深く彼等の思想の奥底に沈面して考ふる時に、彼等は實に大なる誤斷に陷つて居ることを知るのである。何となれば、佛敎文明渡來當時の世界思潮と、今日の狀態とは、其の文明及び思想の內容、狀況等に大なる差異が

ある、殊に當時の日本と、現今に於ける我國の國際的地位及び思想界の狀況とは、全く異なりたる事情のもとに置れてある。尙基督敎傳導に關しても未だ必らずしも我が國に適するものなりや否や、尙疑問のうちにあつて直ちに取つて以て不都合なしと斷ずるは噪急といふべきではあるまいか、殊に一部基督敎信者中に於てさへも國敎樹立を目下の急務なりと絕叫して居る位である。而して、樣式に關する理想派の人々の思想も、丁度之れと同樣の誤斷の上に築かれて居るのである。

要之彼等は過去の事實を推して之れを將來に迄論及し樣とすれども歷史家の敎ふる處に依れば我が國近代以前に於て移入されたる文明は或る固定せる動搖少なき文明であつた。然るに、現戰亂の影響に依り、今や、世界を擧げて一切の思想は混亂し、一切の文化は動搖しつゝある世界的革命が現出せられつゝあるではないか。如斯動搖し混亂せる思想は現に我が國にも移入され一般思想界や社會制度等文化的レボリユウションの既に逢着して居るが如きは、決して、過去の經驗を推して、之れを將來に迄斷定することを許されない事情があるものと信ずる、社會心理の不斷の衝動は決して人間の性情を動かさずには置かないのである（文明協會發行都市の兒童高田保馬著社會學的研究）如斯人間性情の變遷に——人類の現出し得る一切の文化の根本をなす——に無頓着に論ぜらる推論には一顧の價値なきものと思ふ。

思想の自由と交通の至便と、科學文明の「インターナショナライズ」と人道觀念の高潮とは相互ひに交錯して共に建築樣式上世界的共通のタノプを生じつゝあることは近代建築界の特長と見ゆるが、吾等は斯の點に深き注意を拂はなければならない。

國民性の自然に適合する人道觀念や思想や科學を探究することなしに主張せらるゝ人道主義や科學的普遍方則の探究に、研究者の素質や境遇が意義を有してゐることに無頓着なる科學思想の概念的認識の一形式に根底を有する、アプ

ノルマルな思想を矯正する爲めに深き考案を要すると思ふものである。

飜つて國粹論者を見れば吾等は勿論常に有意義なる幾多の說を與へらるゝのであるが、概觀して彼等の說は固陋である。思惟の自由と科學精神の發達にともなふ近代文化の異狀なる發展に沒反省に思惟せらるゝ其の憐れむべき過去への執着や、趣味性の偏狹が、石と煉瓦と鐵とコンクリートを以て事更らに唐破風や高欄や、軒の反りを作つて、之れ新日本の趣味性を具象したる新樣式なりと稱するが如き作物の可否を論ずることの徒勞は今日其のあとを絶たれたる如き蓋し當然の趣勢と云ふべきである。

惟ふに初等敎育の目的が人間靈智の覺醒、自我の開放にあるが如く、海外文明の移入に依りて敎育せられ開發せられたる日本は、從來の如く、永久に精神にも亦物質的にも歐米の生徒であつてはならない。何人と雖も海外文明を模し海外文明に追從することが必らずしも文明の進歩であると思惟するものは恐らくあるまい。我が建築界も海外樣式を移入して以來已に數十年を經、此の間に失れたる犧牲や、此の間に得たる經驗は必らずしも少しとせず、然るに今尙築界の混亂は依然として、樣式の送迎は昨是今非の浮薄極る言動を繼續して居る狀態である。主義開放と云ひ、又正義の開放と云ひ、乃至樣式の開放と云ふも、夫れ等は夫れ自身が、他に對して批判能力を有することに根蒂をおくものであつて、先に論じたる如く、正義も人道も乃至樣式上の一切の問題も共に、民族性理や民族心理と云ふが如き或る不可避な條件の認容に依りて、全體としての世界を光輝し、合流する處に其意義を有するもので、正義人道に憧憬する吾等は、當然にも民族自決に其の根底を置くことに合理性を見出すものである。

何時迄も他を模倣し、他に追從するものに世界に對して全體と融合すべき自義の主張もなければ、自己を他己の上に生かす、デザインの確信もあるまい。即ち批判の必要であるとは此の故である。私は先に今日の文化現象が科學に其

の根據を有することを主要なる要素とする以上而して吾等が科學の上に立脚して建築上の畫策をなす以上、過去、現在、未來に於ける一切の決定せる建築樣式に據依する事の出來ない。否其の必要なきことを述べた、それは全樣式の撥無ではなくて、チグレクトである。かゝる思想の當然の結果として、樣式上の現象は無常であらねばならぬ、而しそれは、現代日本に於ける樣式上の不斷なる昨是今非の浮動ではないて必要夫れ自身を科學と人道とを以て人生に即して整頓する所の常に新らしき樣式の創造である、それは一貫せる眞理の隨時なる「アダプテーション」であり、現實の全充であらねばならぬ。

兎に角私は如何なる海外建築樣式と雖もそれを自國に移入することにつきて現象に對する共鳴は別問題として、其の根本に於て、其の「インスチンクト」に於て一つの大なる疑念を挿むものである。而してこは吾等の肉体細胞や、日本人の血統が遺傳法則や生活上の一切の條件を對外的結婚に據る混血や機能の改造をしない限り、此の疑問を一掃することは出來ないのである、即ち批判に對する國人の思考は此の間當然起らなければならない問題であつて、苟も全世界が、全々國境を撤廢しない限り、而して、各々自身の文化を持することが正しい限り、自己保存に對する人類の正當なる欲求であらねばならない。

然らば批判能力は如何にして養ふ可きか、それは自國文化の窮盡と、自國民性の洞察に據らなければならない、而して廣く日本樣式を開展せしめて、是を世界に光被せしめなければならない、此の意味に於て世界文化、謂ふ所の世界各國の建築に對する批判と、自國文化謂ふ所の自國建築の開展とを志す民族主義、日本主義は、日本人としての現實的運命から最も自然の主張であらねばならぬ。それは鐵と、技術と、組織と、算數と、一切の科學とを有する國民が其の意志を主張し得る現實的世界の必然的要求である。それは一切の科學批判に對す哲學を有するところの國民のみが思惟し得る權利ではな

いか。

但し謂ふ所の日本的建築がごんなものであるかは私にも不明であるが、それは恐らく今日以後發展する、經濟と、交通と、科學と、藝術とに對する我が建築家の正當なる研鑽と忠實なる究明と、而して據つて以て得べき批判能力の自由なる創作のみが決し得る問題であらう。

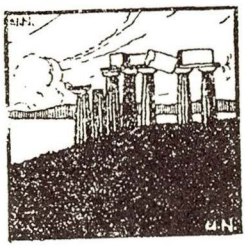
吾人は、より世界的なれと云ふ意味に於て世界主義者や、理想派の人々と共鳴し、より國民的なれと云ふ意味に於て國粹論者や、傳統派の人々と合体する。「但しアブノルマル」な「コスモポリタニズム」と固陋なる「ナショナリズム」との二つの邪道に陷らない爲めに、そして、吾等の國家的觀念と、世界的觀念の上に、より健全なる擴充を與ふることを得るのは、獨り批判能力のみが有する特權である。

未曾有の講和會議に於て、我が人種案も、世界的正義の最高なる權威者に依りて無視せられ文化の最高權威を誇る紳士國に依りて一蹴された、かくて正義の假面は女夜叉の如く、吾等の前に、尙恐ろしき暴戻が横つて居るのである。吾等の行手に立ち塞る一切の沒義道なる障害は白人文明の假面と、白人正義の自己擁護のみである。

他に隷屬して居る民族には、科學も、藝術も、哲學も、發達すべき機會は與へられない。本國人の贅澤費を作るために苦役せらるゝ領土的亡國民と、異邦人の侮蔑に答へることの出來ない文化的亡國民には、永久に科學的研究の餘裕はないのである。

かゝる一切の悲痛なる運命より脫出せんが爲めに、而して個体存在の理由の奥に秘められたるものゝ窮盡に依りて、自己が他己のうちに調和進展せんが爲めには、唯に建築問題と謂はず一切の自主的文化を有するより外はない、廣く民衆のうちに文化を進展せしむるより外はない只一人の天才よりも平易な民衆の覺醒を希望せずには居られない、而してこは即ち謂ふ所の批判能力を有する國民のみが有する光榮ではないか。

（八、七、十五、）



都市と住宅

□都市住宅問題に就て

大阪税關長　松本脩談

都市住宅問題に就ては、單り衛生、保安、美觀、といふような問題許でなく、都市人口の集中膨脹の結果として、住宅の供給其ものも近來適切な實際問題と成つて來た、是は、既に、東京や大阪市抔で、缺乏に由る處の所謂住宅難の聲昂く、其當然な結果として、中流以下の人達が借家料負擔の割合が生活費に比較的多くの部分を占むるような狀態になつて來た、是も確に都市問題として研究に値すべき事柄であらうと思ふ。大阪市が近來低利資金の融通を得て、一層大規模に貸屋の經營を爲すの計畫あるかの如くであるが、之等は勿論機宜に適した都市施設の一つである。要するに、都市住宅に就て調節を爲すことが刻下の問題である。仍で、是れに就ての研究上參考までに、自分の思ひ付いた儘を左に述べてみよう。

▲差配局の設置　衛生的にして借家料の低廉なる家屋を供給することは、勿論都市住宅問題としての一要項であるけれども、更に一面に於ては、都市家屋の實狀を常に明にして之が統計を拵へ置き、之に據りて空家の種類、場所、賃貸關係事項等を一見知り得るように成し置き、斯くて其需給の關係を調節すると共に、進では、建物資金の問題、市區改正に對する問題、其他交通問題等をも調査研究せしむることゝしたらば可いと思ふ。

▲**補助金の交付**　細民長屋や公益的建造物の建築に對して、白耳義や佛蘭西扱は獨逸邊りで遣つてゐるような、登記料の免除、徴收料の半減稅金の免除、低利資金の融通等の間接奬勵保護の方法も可いが、或程度まで其都市より補助金を與ふることも一方法である。勿論是に關聯して攻究すべき種々の問題殊に市財政問題もあるが其處は別に攻究を爲すことゝして、先づ斯ういふ原則を採ることゝしたい。

▲**空家其他の利用**　空家や無用の建物に對しては、成るべく住宅として利用せしむべく相當な補助金を交付し、或程度まで強制的に住宅殊に下級民の小住宅たらしむるよう法制を設くることも亦一策であらう。尤も、是にも關聯せる諸種の問題があり、就中其位置、所有者の事情等に就て幾多の條件を考慮すべきは勿論である。

▲**建築材料の調節**　是に就ては、公共團體の力を以て相當の管理を爲す必要があると惟ふ。云ふまでもなく、奈何に住宅建築の相當な勵奬法を施すとも、其材料に對する調節が並び行はれない場合には、到底充分な効果が擧らないのも其理由の一とつである。平たく云はゞ、恰も米價調節に對する玄米の調節が先きであるに等しい。殊に、其材料の供給順序を、最も住宅難を歎ちある階級に供給すべき家屋の建築に對しては、其材料の先取權といほうか又先買權といほうか兎も角其供給を先きにするような方法を設けて貰ひ度い。

▲**公益住宅會社**　有力なる雇主其他より成り立つ公益住宅會社を組織し、都市は之に對して相當な後援を與へ、又都市其ものと前記の人とが相寄つて夫れ等の會社を設立すること、恰も國庫が金融機關の株主たり又は滿鐵の如く半公半民といふような組織にしても思ひ付きであるが兎も角、營利の觀念から離れた處の斯ういふ公益的な機關を設くることも、時勢に順應した方法ではあるまいか。

▲**材料の供給**　前に述べた建築材料の調節と同一理由に基き、國又は公共團體等の所有し在る木材其他の材料を相當の條件を以て廉價に供給

すること、殊に、其用途を指定して官有林木を特價で拂下げ、其運輸に就ても相當な便法を設くることは出來得ない事であらうか。

▲**公有土地の利用**　右に關聯して、廉價に建築地所を獲せしむる爲に、公有の土地を利用せしむるの途を講ずる必要はなからうか。

▲**建築從業者の調節**　大工、左官、其他住宅建築に就事する勞働者の供給に就ても、國又は都市は其事業又は公設の緩急を稽へて、之が調節を爲すことも必要である。

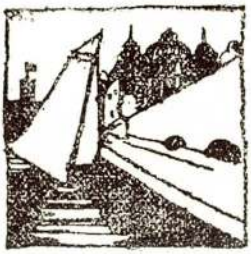
▲**公正家賃令**（Fair Rents Act）　西洋にも例のある公正家賃令の主義は、此際研究の要があらうと思ふ。斯の法令に依り公正家賃局なるものが設けられ、奈何なる家主も、又奈何なる借家人も家賃の滯てゐない者は、同局へ出願して、貸借せる住家の公正な家賃を決定して貰ふことが出來得る組織になつてゐる。

▲**標準家屋**　住宅の建築に關する技術上の研究が非常に大切であることは云ふまでもない。都市で最も經濟的な衛生的な、而して安全な建築型式即ち模範家屋とか又は標準家屋とかいふようなものを建てゝ、之を基準とするような仕組みも必要である。

▲**被使用者に住宅供給**　多數の勞働者を使ふてゐる雇主會社抔で、夫れ等の人達に前項のような長屋を建てゝ遣ることは、何よりも必要である。是によりてのみ勞働者の趣味品性を向上せしむることを得ると共に、其職務に對する安定を期することが出來得る。故に、長屋の構造は斯る人達自ら其屋内を脩飾する考が出るように其住宅に對する趣味と愛着を深からしむるような用意の下に建てなくてはならぬ。

以上別記せる外種々な事項が考慮の内に在るけれども、先づ之等が差當り問題とすべき事項であらうと思ふが、其他の事や又以上の細綱に就ては異日機會あらばお話することゝしよう。

日盛や蟬は眠りて瀧の音　　蕪村



京都古建築觀【十二】

特別賛助員　伊藤清造

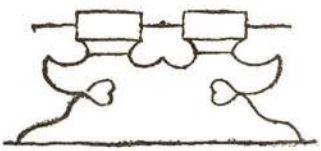
十七、智恩院（其二）

三門

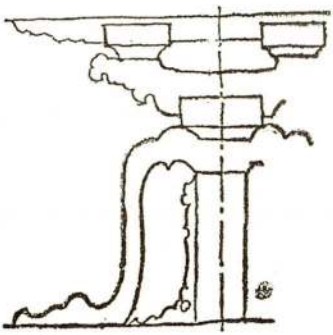
梁行六間半、桁行十四間半、所謂五間三戸の大樓門であつて、元和五年德川家康の造立に係り、明治三十五年七月に特別保護建造物となつてゐる。

樣式は全然禪宗樣であつて、詰組は扇椎木となつてゐる。樓上の勾欄は。禪宗樣逆蓮頭の親柱を用ひてゐる。內部は鏡天井で、龍や天人樂器を盡き、十六羅漢を安置してゐる。內部全體は殘らず極彩色を以て裝飾されてゐる。

所謂山門の月見として古來有名であるこの月夜の景色は古松欝々として神秘を包む邊蒼然として聳ゆる甍の線形に或種の眺めはあるにしても、吾人は不幸にして大なる或ものに接することは出來得ない。德川時代から喧しく云はれた



智恩院山門樓上板蟇股



不退門表門本蟇股

櫻の馬場の花見の朝も、吾人は未だ斯の三門に

大なる美の潜むでゐたことを知らない。前回に十數段の石段のあることは、或方面の見方から其尊大と其崇高とを思はす上に於て有利な策ではあらうが、一方美觀の上から見るならば、餘りよい策ではないように思はれる。勿論斯る高い所に造られることを前提して、是に相應しい設計をしたならば、決してそんな事もないのであらうが、斯の山門に於てこの細心の設計を看取することが出來得ない。

吾人は、退いて門の背後に廻り其同じ地盤に立つて見入つた時、正面の不調和な感を幾分和げられるものゝ、尙切實な表現に觸れることは出來得ないのである。

吾人は、一日圓山の枝垂れ櫻の横を通ふてあの美しい氣持のよい石橋を渡り、露の乾かぬ芝生の上を彷徨た朝、亭々たる老樹の影に屹然として立つた智恩院山門母屋の妻飾りの暗い蔭と滑かな屋蓋の勾配を見入つたとき、吾人は智恩院山門の美的價値は此處に潜むでゐるではなからうかと強く強く感じたのである。心持ちのよい朝の清らかな空氣、濕潤した圓山の靜な景色深い神秘を包む古松の群、參百年の古建築は無言の儘突つ立つてゐる。吾人は、山門の美實に此處に在りと思ふた。

內部の細綱に就て考へてみる。寸分の空隙もなく塗り潰された內部の數多き模樣を吾人は遺さず忠實に研究するの特權を得て、可成り深く研究することが出來た、模樣の全部は凡て東福寺三門の內部に於ける模樣を通じて、支那明朝の系統を有してゐることは明である。勿論、多少の日本化や獨創の點はあるにしても、凡て之を直寫したものといふて可いっ併し、吾人は、不幸にして斯の裝飾力を東福寺三門の夫れより數等下に評價せねばならないのである。南禪寺の門は寬永五年に作られたもので、智恩院三門と九年程後れてゐるけれども、吾人は南禪寺三門の裝飾文樣を其姿態と同じく優れるものと信じてゐる。著しく亂雜に思はれる智恩院三門の文樣に比べて、南禪寺の方はやゝ纏つたものとして見ることが出來得る。文樣一とつ一とつの

composition 等を見るならば、這が明朝の系統を有つたものだけに見るべきもの多いけれども其細部に應用せらるゝや、殆むど文様の性質も何も考へずして滅多矢鱈に畫いたものとより他に考へ得られない迄に亂雜である。吾人は、各部各部に就て見て其同じ模様であるものが異つた筆觸で表はれてゐることや、柱と肛梁或は肘木と斗拱等の接觸する部分に於て文様の不自然な連絡をなしてゐる等より稽へ、極めて多數の人が集り分業的に各部の文様を畫いた實際を想像し、延いて次の事柄をも假想することが出來得るのである。

織豊の後を承けて天下の諸臣に號令した德川が、其經綸するや極めて地味なものであつた。家康は彼が特有な手段の陰險を以て、着々として幕府の基礎を固め、德川永世の根據を作つたのであつた。而して、彼れの命に苟も背く者はないまでに權勢を擅にしたが、彼れは、政治上決して華美廣大を裝はず、深く隱した大經綸を徐に實現しようとしたのであるけれども、夫れが佛寺等の建立になると、そこに無限の財力を傾けたことは、彼の日光廟を始め、智恩院や增上寺等の經營に徹しても明である。今智恩院山門を作るに方りて、必ず彼れが財と彼れが勢を以つて多くの工匠を使役したものと想はれる。而して、可成り短い年月に於て、量に於ては莫大なアノ三門を竣工したのであるから、各部の文様の如き、多くの畫工が各先を爭ふて其早きことを競ふたのではなからうか。彼の鳳凰堂の裝飾が十年の日子を費して（若も前述鳳凰堂條下での推定が事實であるならば）寸厘の些末まで粗略にせなかつたのに較べると、蓋し、雲泥の差といふべきである。

是は、一つに社會狀態や經濟狀態等に大なる原因を有つてゐるにしても、社會狀態は奈何とも出來得ないが、經濟的環境に在りては、斯の德川臺命の下に苦しかつた理由がない。吾人の推定にして誤りがないならば、恐らく、德川が其勢力を以て大伽藍を一朝にして建立せしめ、以て天下に誇らうとした結果ではないであらう

か。三百年の下、吾人をして斯の感を催さしめた徳川は、果して爾く功を急ぎ、徳川藝術廃頽の因を強からしめたのであらうか。

經藏

方五間寶形造り重層本瓦葺の堂である。元和二年徳川秀忠の建立したもので、明治三十三年に特別保護建造物の指定を受けてゐる。内部は極彩色で裝飾され、宋版一切經を藏してゐる。細部は優れたものではないが、全体の姿態が特に佳く出來てゐる。

周り共一間宛柱を離して開け放しとしてゐる爲に、堂には強い陰影が生じてゐる、初層と上層との折れ合ひも稍佳く出來てゐる爲に安定の感を與へてゐるけれ共、徳川期建築の常として表現には極めて貧弱である。

十八、西本願寺（其一）

概說

京都市内堀川通七條北に在る淨土眞宗の本山である。初め文永九年（西紀一千二百七十二年）に親鸞上人の女覺信尼が勅許を得て上人の廟堂を東山大谷に建て、文永十一年には、龜山天皇の勅願所として本願寺といふ號を賜ふた。

其後、寛正六年正月、延暦寺の衆徒に堂宇を破壞され、文明元年に、三井寺の衆徒に賴むで大津近松に見眞大師の像を安置し、文明十二年には、山城の山科に、天文元年には攝津の難波に移り、其後も、紀伊の鷺の森、和泉の貝塚、攝津の中之島、天滿等を流浪して、終ひに、天文十七年（西紀一千五百五十年）足利義輝の時代に、京都に於ける今の地に移つたのである。

建築

今まで炎燒に罹つたことがない爲に、古建築の數々が遺されてゐる。多くのものは伏見桃山城から移建されたもので、尙聚樂第から移建された飛雲閣と共に凡て桃山期の建築物である。

飛雲閣

本願寺滴翠園中に建てられた三層閣書院造り柿葺の桃山期古建築物である。是は、初め、豐臣秀吉が、天正十一年に聚樂第内へ造つたもの

を寛永年間に此處へ移建したものである。

立面は非常に自由なもので、入母屋、切妻、軒唐破風等を自由に用ひ、細部や大体の姿態に於て斯の時代の精神が克く表現されてゐる。初層は『招賢殿』といつて、上段の間を有し、襖は狩野永德雪中柳の圖を表はしてゐる。斯の上段の間に於ける窓の開き方は面白く、極めて自由に奇抜に出來てゐる。下段の間は永德の瀟洒八景の圖を畫いてゐる。此の處から直ぐに『滄浪池』といふ池に船を出すことが出來るので、此處を『船入の間』と稱むでゐるが、其意匠は却々優れたものである。此處には軒唐破風を附けてゐるが、其懸魚の意匠は異つてゐるので面白い斯書院には大燈窓を附け、屋蓋は入母屋となつてゐる。

中層は二間あつて、上段には山樂の葡萄に木鼠の圖がある。杉戸に畫かれた山樂の三十六歌仙の圖は殆むど剝落して、其輪廓丈けを存してゐる。天井は格天井であつて、格緣には透し彫り金具を張つてゐる。

上層は『摘星樓』と稱むでゐる事が既に詩興を横溢せしめてゐる。天井には青色の紙を張つてゐるが、實に下らないものである。斯の飛雲閣は、明治三十年に特建となつて、明治四十四年二月に修繕を竣つてゐるが、まさか斯の修繕の際に張つたものでもなからうと思はれる。

翠葉滴る滴翠園、細波靜かに動く蒼浪池、其中に作られた飛雲閣ではなくて、蓋世の英雄豊太閤をして逸樂に耽らしめた聚樂第中に作られた飛雲の臺を懷ひ、嘗て豊公遊樂の秋を偲むで此處に立つとき、英雄の雅懷と、切實に親みのある英雄の半面が強く響いて來るのである。

三寶院の書院や飛雲閣の雅趣を解し、又、桃山城や大阪城を築ける放膽を表はした豊公は、實に空前の天才であつた。天才秀吉去つて茲に四百年に垂むとし、尙彼れが半面又半面を京都の其處此處に偲び得るのは、吾人の享有する特權であると思ふ。

□　□　□



本邦森林の伐材寸法概要（大正七年三月調）

會員　谷民藏

序言

我建築協會は斯界の爲めに委員會を組織し各部所を定め之が研究に怏掌され、炎熱百度の浪花津に熱汗を拭ひながら努力されつゝあり。更に第七部委員會は建築經濟上の分擔にして昨今は殊に複雜纏綿せる木材の「マーケット」を協定されんとしつゝあるが、此の歷史的惡習慣を今纔に改善して時代錯誤を一掃せんとする勇氣や寔に敬服に値するものである。

抑も我國木材の寸法は山勢、地形或は河川の狀態に依つて其形態が自ら多種多岐に涉り、無益の勞を費しつゝある事は世人の了知さるゝ處である、見よ伐木造材の長と雖も其地方に依つては著しく相違せるものもある。之が長短の理由を詮議するは別項に於てし今參考迄に各地方別に其概要を摘錄せば左の如くである、若し一片の參考資料ともなれば編者の滿足不過之也。

□本邦木材の寸法規程□

＝青森大林區署管（北海道國有林同上）＝

A長級　半間　三、五　二間半　一七、〇
一間　七、〇　三間　二一、〇
一間半　一〇、五　以上之れに準ず
二間　一四、〇

B徑級は寸を單位とし其末口に松て樹皮を控除したる最短直徑を測定し各末口斷面に之れを

記入せり、但し寸位未滿は四捨五入とす。

C材積算出は末口直徑に實驗上より得たる左の公差率を加算して中央直徑を推定し其の直徑の自乘に圓積率（、七八五四）と長さを乘じて計算し十立方尺を以て一石とす。

長さ	直徑公差率
自六　尺—一八尺	尺一
自一九尺—二七尺	尺二
自二八　以上	尺三

延寸は運搬の方法及び其距離に依り多少の差異あれども並通は二間半ものにて二寸、二間半もの以上は五寸を附す、但し丸太は十四尺を二間とし十二尺目を狹部一方指寸止めとす、大阪商人間にて木口二方指五分付取引を爲す。

柚挽もの並に出來合品の寸法は追て別項に記載す、北海材にて大阪小商人は以下の如く小彫を爲す、寸法兩指（二方指）五分付にて之れは有り丈けと稱す。

＝青森地方民材＝

丸太材

A常用する長さの寸間は以下の如し

一間　材は實際七、〇以上　二間半材實際は七、〇
一間半材は同　一〇、〇同　三　間同　同　二、〇
二　間材は同　三、〇同

B單位は石を用ひ斗升合に及び一石は一尺角長さ十尺即ち十立方尺とす、又才を用ふる場合には一寸角長さ十三尺を以て一才とす。

C檢尺は末口の皮を剝き短き直徑を測り之れを自乘して圓積率を用ひず長さを乘じ石又は才を算出す。

D柚角は凡て丸太材に同じ、但し東京送のものは十四立方尺を以て尺〆一本とす。

＝北海道地方＝

A常用材の寸間（丸太材角材共）長九、一〇、一一尺を一間半とし一二、一三、一四を但し之れは小賣に限る。二間とす

B長級　押角類の長さ六尺以上二尺毎に造材を爲し八尺、十尺、十二尺、十四尺、十六尺等あり。

C松丸太、松押角類は長十二尺以上毎に尺延に造材す。

D檢尺は根元、末口兩端を測り寸止とし丸太は狹き方一方挾み寸止とす、但し外皮內法にて測るものとす（圓積率七五四掛る）

E名古屋に於ける北海材は二間もの十二尺とし材の兩指し五分付とす。

F北海道の官行材は主として石積を以て標準單位とし其方法は靑森官行材と同一なり。

＝秋田地方＝

切丸太

A常用する長さの寸間は以下の如し

長級　一間材は　七、〇以上

二間材は　一四、〇同

B單位は主として才を用ひ一才角長さ七尺即ち〇七立方尺を一才とし或は靑森と同じく石を用ふ（石を出す場合は圓積率を乘す）

C材料計算は末口の長短徑を乘して（圓積率を用ひず）之れに長さを乘じ（一四尺を單位とす）、〇七立方尺を以て除したる才數に據るものなり、寸法　杉丸太を蜜柑割にしたる割材

A常用する長さの寸法以下の如し

大本木は扇形の法（背を稱す）を一尺五寸兩邊を一尺一寸長さ六尺五寸以上七尺を普通とす。本木は法を一尺二寸五分と兩邊を一尺一寸に取り長さは前に等しく二半木は弦を凡そ一尺五分兩邊八寸ものなり。

B單位は大本木、本木、二半木、四半木、各一挺を以て單位とす。

C本木一挺の材積を七十二才とし二半木は其二分の一とす四半木は又其二半木の二分の一の材積とし大本木は九十才とす、即ち十八進を單位とせり。

＝奥羽地方＝

俗に秋田、能代物の代名詞を以て殆ど說明を要せず、製出主要材は栂、松、樅類は殊に乏しく杉材は其主要にて七八分を占む。

□東京材木商組合規程□

東京の材木市場に於ける各木材の寸檢は一定し難し、即ち、各地方關東は勿論北は三陸北海道西は尾州、紀州、大和田に產出する木材の集散

地なれば從つて東京材木問屋の用ふる檢寸材積計算方法は其原産地にて襲用せるものに準じて取扱ふを常とす其常用する規程は左の如し、本次木材は尾州、參州、遠州等より輸入する角材丸太材を云ふ、角材と云ふは元口と末口とが同寸なるものを云ふ。

A一間材　實長　七、〇尺以上(頭巾目操内の寸法以下之れに準ず)

一丈材　同　一〇、五　同　本丈　實長　三、五尺以上
二間材　同　一五、〇　同　二間半　同　一八、〇　同
三間材　同　二一、〇　同　三間半　同　二四、〇　同
四間材　同　二七、〇　同

B單位は尺〆を用ふ

一間材は太さを掛合して二除す　二間半材は　太さを掛合して　一、二五乘す

一丈は　同　〇、六五を乘す　三間は　同　一、五　同
本丈は　同　〇、七五　同　三間半は　同　一、七五同
二間は　同　一、〇　同　四間は　同二、〇　同

C角材は本元末共同一の太さなるものとす。

D丸太材は末口より一尺五寸目の所を曲場即ち檢尺の位置と定む、其所の末口直徑を自乘し圓積率を用ひずして尺〆を算出す。

太さを檢尺する曲場は材料の常用する寸間の範圍内とす、例へば二間材が長さに於て一尺延ありて一丈六尺あるも曲場は一丈五尺の内に爲すものとす　(一說に伊勢、名古屋より東の産出材は長さ六尺一間の割合にして一間に各一二寸の延尺を有す特別指定したる場合は何尺何寸にても任意産材するものなり)

地形用杭木松生丸太は長正六尺を以て一間と定む(之れは本國各地共均一のものなりと云ふ)

‖川邊材‖

之れは常州、野州、武州地方より千住川、六郷川を經て搬出する角丸材を云ふ。

A常用する材の寸檢以下の如し

長級一丈　は實長一〇、五以上　二間半材　實長一六、〇以上
二　間は　同　一三、〇同　三　間は　同　一八、五同

B單位は尺〆を用ひ其算出方法は並本木に同じ

C材料の元口より三尺目迄の間を太さの曲場とし太さは寸止とし八分は一寸に切上げ以下を切捨とす(之れを二分切用捨と稱す)

D丸太材の材積算出方法は並本木に等し、挽角板子材の類に凡て前項の規定に據らず實際寸法

を測り十二尺立方を以て一尺〆と爲す。

＝尾州の民有林＝

長級一間もの　八、〇以　外　本丈は　一三、より
小　二一　間　一三、—一三、五同
二間もの　一六、〇同
大　二一　間　一六、—一七　同
三　間　二三、〇　同
三州遠州地方産大丸太　二間　一三、〇
同　小丸太　同　三、〇
天龍川搬出材　檢尺は寸止め尾州材に準ず
本丈は一割引　東京にては二間とす

注意　尾州官材は本誌第一輯第十二號に詳細に記載せるを以て本項には省略す

＝飛彈地方＝

丸太及び角材
A常用材の長さ寸間以下の如し
呼稱　間太物は實長　七、〇　丈物は實長　一二、五
一本物（或は二間物）は實長　一五、〇
B單位は長さ二間（一五、〇）一尺角の尺〆單位による。
C材積調査方は丸太及び角材の二間材は長さ一丈五尺とし末端一尺を除きたる處を檢尺し直徑は丸太は自乘角材は幅厚を乘じ之れに長さを乘じ十五尺立方を一尺〆として計算す。
丈物、間太物は前項に準じ末端一尺を除きて檢尺し尺〆を算出す。
計數は一丈物は〇、五を一間物は〇、五を乘じて尺〆を算出す。
伊勢の南部、飛彈、中越、美濃地方に於て小物の一間は六尺五寸、東京、金澤、富山地方に於ては一間を小物の時六尺二三寸とす。
右の如くにして寸檢の方法は一定せず。

□大阪材木組合規約□

大阪市場木材商に於ける材積調査方法を見るに吉野、高野、新宮、土佐、日向等各地方より集合し來るを以て一定なるを得ず。
A先づ常用の長さは概要以下の如し。
吉野材は二間材　三、五尺以上

新宮材は同　一四、〇一丈材は一〇、五以上とす
同　一間材　七、〇同

B單位は尺〆を以てし寸檢は東京市場に同じ。

C太さ寸檢は吉野材及び新宮材(丸太)は中間にて長短二方を計り寸法は四捨五入とす。

D新宮角材は根元より三尺の處にて太さを測り四捨五入とす。

E名古屋以西に於て凡ての材木（杭松丸太材を除く）は長さ六尺五寸を以て一間の割合なるも一間ものに限り六尺二三寸よりなきもの多し。

F大阪附近に於て産出する丸太及び押角材類は二間ものにて十三尺乃至十三尺五寸、三間は十九尺五寸乃至二十尺五寸位なり。

中國山陰道の代表地　丹波の松、杉、栗、欅材等寸檢は杉、檜に限り五分付周指とする事あり角材は殆ど寸止とす

石洲、雲洲。丹波等石洲の松、杉、多く特に松材は其産額の過半を占む雲洲松、杉、梅同上

寸法其他共日向材に同じ肩數を以て賣買す。

山陽道方面には特産材なし之れが一定の商習慣なき爲め又一定の寸檢等もなきなり。

═大阪大林區署═

A長級　半間　三、五尺　二間半　一七、〇
一間　七、〇　三　間　二〇、〇
一間半　九、〇　三間半　二三、〇
丈　一〇、〇　四　間　二六、〇
二間　一四、〇　以上之れに準ず

B中央最狹部一方指五分落し(五分付とも云ふ)圓圍率「一、七八五四」長さを乘じ十立方尺を以て一石とし尺〆は十四尺を以て換算す、但し大阪は關西市場の中樞地なれば各種多樣の材木入場の爲め一定の標準を付し難し之が爲め各産出地の稱呼に依り賣買約定前に寸檢の方法を協定するを要す。

而し以上は先づ大阪一定の標準なりと見て大差なからん。

丸太木口の積は二方指寸止めのもの多し。

品位は上等は無節又は一方小節直材
中等は二方小節　同
下等又は並材は四方小節又は入皮、裂れ其他傷ものなり、即ち才數本位

檻木も又五分付を八尺物は六掛とす。

＝伊勢田邊地方＝

A丸太及び角材　常用する長さの寸法

長級　一間材　實際　七、〇

二間材　同　一四、〇

三間材　同　二一、〇

B單位は片を用う十才（一寸角長さに二間「十四尺」を一才とす）を一片とす。

C檢尺法は目計孔科として凡て凡そ一尺五寸の延を付し角材は其末口目計孔より四尺目丸太は末口目計孔内の處を檢尺す。而して其丸太材は圓積率を用ひず末口自乘の法に依る。

＝大和地方＝（伊勢地方も又同じ）

A丸太及び角材　常用する長さは

長級　一間材は實際の長さ　七、〇尺以上

二間材は　同　一四、〇同

三間同　同　二一、〇同

B單位は才を用ひ一才は一寸角長さ二間（一四、〇）とす。

丸太材は末口直徑を檢尺し之れを自乘して圓積率を用ひずして尺〆を算出す。

C角材は末口より三尺五寸の處の檢尺にて材積を算出す。

D三間以上の長材は二間毎に一寸の延を有するものとす。

＝紀伊新宮港附近より産出すべきもの＝

角材、丸太材共

主材　栂、樅、杉、檜、松

A一般常用材の長さ

長級　一間材　實長　六、五尺以上　三間材は　實長　一九、〇以上二〇、五内外

一丈材　同　一〇、〇同　三間半　同　三、〇　同

本丈材　同　一二、五同

二間材　同　一四、〇内外

二間半材同　一七、〇以上

B單位は尺〆を用ひ其尺〆算出の方法は一丈材本丈材を除くの外は本木材と同じ、而して本丈材は太さを掛け合せ一、三にて除す。

C並本木角は材料の元口より三尺目を曲場となし太さを檢尺する習慣にして其太さは寸止とし寸以下は五捨六入として計算す。（之れを四分切

用捨と云ふ）

D丸太材は末口直徑を自乘して圓積率を用ひずして尺〆を算出す。

E造材は概ね土佐造なりと雖も吉野に近き處には吉野造となす。

當地は實に大坂を離ること僅かに四十哩昔時より交通頻る殷なる爲め販賣本位とし需用家の注文又は販路の方向に依り其形を異にする故に名古屋東京方面には尾州材の形となし大阪には高野材の形を供へ曲材を直材に造形し加工を施したるものあれば甚だ安心の出來ぬものなり。

F寸檢は普通土佐に倣ひ五分止めなるも尾州形に造材したるものは矢張り寸止として取引する事あり。

G採算は才數本位とす、和歌山市に出すものに限り次の如き床取引を爲すものあり（但し吉野山杉檜丸太に限る）

一床に對する木數及び其才數

一寸より四寸迄六四本　尺より凡尺六半迄　六本（九号〇才）　三寸より六寸迄　三四本　約二尺　四本（一、六〇〇才）　五寸五分より凡九寸迄　一三（五六五才）

細小より三寸迄（自一三〇至一七〇）　六寸より尺迄　一〇（七三〇才）

高野材　主材　檜、杉、樅、栂

長級　一間は六、五　二間は一五、〇尺　三間は三一、〇尺

大阪にて取引は兩指五分止とす（但し一間もの少なし）

當山林は枘面なし長さは紀州材と等しく一定せず、大阪大林區署の管内にして國有林材としては大阪入場のものに同じ。

吉野地方　主材　杉、檜、栂（洞川産）

丸太材は一間は六、九　二間は一三、五―一四、〇内外とす

二間半　一六、五　三間は二〇、〇

角材の寸檢又兩指五分付き和歌山へ大部分を出材す床取引盛なり。

當所の採木は必ず目操を附す長さは其目操の内法を云ふ、但し目操なきものは約七八寸の延寸あり、民有林大部分を占め居る爲め所造材一定したるものなし。

當山は押角もの稀なり、杉特檜丸の産地なり

＝高知地方（土佐）＝民材

産出材の重なるもの椹、栂、松、杉、檜、欅

丸太及び角材に常用する長さの寸間

A長級　半間　實長三、五以下切捨　二間もの　實長一四、五―一五、〇

一間　同　七、五―八、〇　二間半　同一九、〇―二〇、〇

一丈　同　一三、〇　三　間　同　三三、〇

以上は枘面内の寸法にて枘面は太さに依り多少の相違あるも普通は三寸乃至五寸あり。

B單位尺〆及び才を用ふ尺〆は一尺角二間を以て一本とし一方は其百分の一を以てす二間として或ものを算出するときは一四を單位と定む。

C大さは兩指し五分付き（丸太も同斷）目斗孔なしを普通とす。

D角材は多く中央を檢尺し丸太材は末口を檢尺す。

E丸太材は末口の自乘に依り圓積率を用ひずして材積を算出す。

F押角を造るに末口尺ものにして八寸乃至八寸五分の角材を爲すを以て日向材に比し頗る角持ち惡きものなり。

檻木五分付き八尺物は六掛とす。

官行材は丸太は末口兩指二間材なれば末より一間中央に戻り末口檢尺の各一寸宛を加へ圓積率を乘じて長を掛け十立方尺を以て一石と定む以下之れに準ず。

等級は上材は片節以上、中材は一方無節以上、下材は四方節、疵物

＝日向産材＝主材　松、栂、椹、杉、欅、桑

A長級　半間は三、五　二間は一、五〇（木口枘面を有せず）端數の長さは總て切捨なり。

B寸檢は丸角材とも兩指寸止とす。

造材は紀州材に比し充分（十二分）の餘裕あり即ち末口一尺の丸太を以て八寸乃至八寸五分の押角を造るが如し。

C採算　二十五才を以て一肩と稱し之れを單位として相場を定む、但し大阪に入市の場合は才數本位とし厘位を以て止む。

D常盤木に限り八尺物を二間の六掛とす、寸法は厚さに限り五分付と定む、而して才數を以て算出出來難きものは一箇の單位を以て取引を爲

す。

＝鹿兒島地方＝

A丸太及び角材　常用する長さの寸間

長級　一間もの　實長　七、〇（但し日向産は松押角類は二間ものは14—15.5　一間ものは7.—7.8　一間半17.—18.5　三間ものは21.以上23.0　一丈ものは10.5—11.5稀には12.ものあり）

二間もの　同　一四、〇

二間半もの同　一七、五

二間半　一八、〇　、三五　間　三五、〇　、五

三間　二一、〇　、五　六　間　四三、〇　、五

B丸太の才積は末口直徑を測定し長さ六尺に付き直徑一寸を增加するものとす而して中央直徑を推定したる上中央直徑を底下して丸太正長を高さとせる圓柱材積を計算す、但し單位は尺〆十二尺立方を以てす。

＝鴨綠江材＝（安東縣採木公司）

A長級　一連は八尺　八尺もの十一本を一符と稱す、五寸の延あり、二連は十六尺、十六尺もの五本五分を一符と稱す、二尺五寸の延あり、單價の標準は一寸角一本を幾分何步（錢）と云ふ又一符何程と云ふ、取引は一般「テール」を以て評價し一テールは大約我國の一圓二十五錢なり又我日本人の便ならしむる爲め

B長十二尺ものあり正寸十四尺七八寸尚ほ「メグリ」外一尺の延寸あり、松小丸太ものにて二間もの末口二寸五分元口三寸五、七分、延尺十七尺八寸あり、三間（同）二十二尺八寸あり、四間（四寸五分位）二十八尺八寸あり。

□阿里山作業所の規程□

濶葉樹の寸檢法

A長級　正寸長さ　延寸　長級　正寸長さ　延寸

一間　七、—八、　、三　三間半　二五、〇　、五

一丈　一〇、〇　、三　四　間　二八、〇　、五

二間　一四、〇　、三　四間半　三一、〇　、五

C丸太材は大抵二連三連もの多し。

更に專業者の標準寸法(單位)を聞くに製材の長挽立材(大阪市場)概要左の如し。

2.5=$\frac{1}{5}$	9.0=.75	18.－21=1.5	4.5=〃	11.0=.9	但し杉材は13. 77=8.正12.5
3.0=$\frac{1}{4}$	9.5=〃	21.5－23.5=1.75	5.0－.375	11.5=.95	普通は丸太立材14.0 } さす
3.5=〃	10.0=〃	24.=28=2.	5.5=$\frac{1}{2}$	12.0	杉 同 13.0 }
4.0=$\frac{1}{3}$	10.5=.8	以下これに準ず	6.0=〃	14.0迄=1.00	7=$\frac{13.1}{77}$
			7.0=〃	14.5=1.10	尚ほ檢尺中端數の長さは單價にて
			7.5=.6	15.0=1.25	多少の加減するを普通とす
			8.0=.65	17.5迄=〃	押物は13.乃至16.を二間として取扱
			8.5=.7		ふものとす

絶好の消夏法

百雷も啻ならざる大轟音と共に一秒時間に二十八萬立方尺、一秒時間に五十萬噸の水を落下せしむるといふ世界一二を爭ふ大瀑布は、實に、米國**ナイヤガラ**の瀑である。蓋し、**ナイヤガラ**といふ名稱も米國の原土人の語で「**雷鳴の水**」といふ意である。先づ米國の地圖を披いて觀て、直ぐに人の眼の付くのは合衆國と加奈陀との間に横る五大湖である。其湖は、西から東に向けて數ふれば、スペリオル、ミシガン、ヒューロン、エリー、オンタリオで、最大のスペリオル湖は實に**北海道**大、最小のオンタリオ湖でも尚我四國大であるから、五湖合せると、其面積は我本州に當るような大きなものである。湖水の水は皆東に流れて、最東のオンタリオの水は終にセントローレンス河と成つて**太西洋**に注いでゐる。**ナイヤガラ**の瀑は、下から近づくにしても、又裏面から見るにしても、白沫と霧とは之を避くることが出來得ないから、必ず合羽を着るの必要がある。……



調査

□大火罹災家屋に關する調査(A)

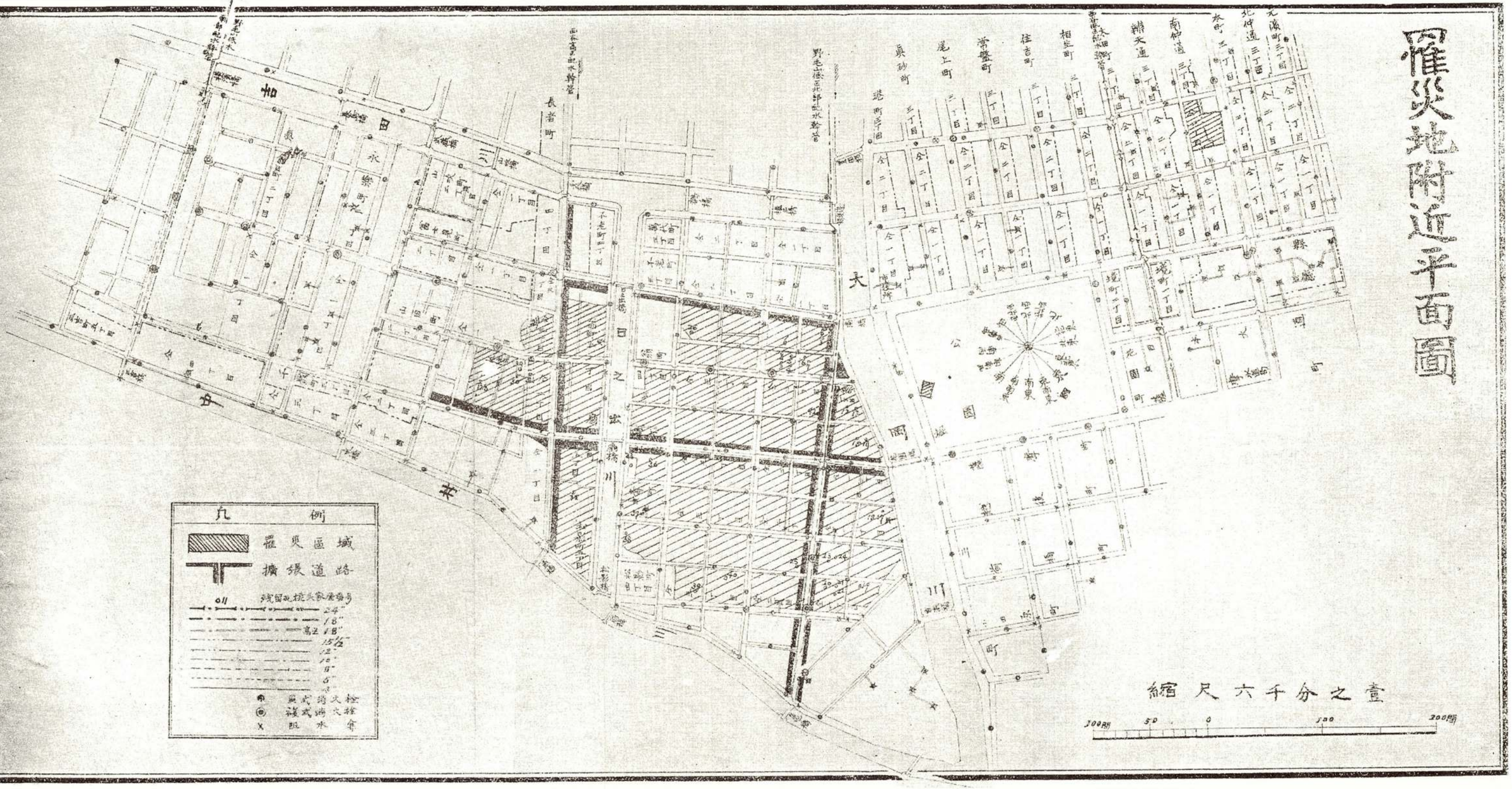
(甲)報告

□壹□ 火災の原因

横濱市に於ける去る四月二十八日の大火は、一朝にして三千有餘の家屋と六萬餘坪の地積を甞め盡して、其荒涼慘憺の狀、蓋し罕覩の一大酸鼻事たり。當時我協會は、都市計畫の見地より、又、防火的構築の研究より斯の慘事に對して逸速く調査に着手する處ありしが、偶々横濱市區改正局は、本協會に『横濱市罹災地家屋構造及給水狀態調査報告書』なるものを寄せられたり。乘つて覽るに、其調査頗る細密にして、將來防火政策上以て規範とするに足るものあるを惟ふ、亦本會調査の蛇足を加ふるを須ひざるなり。仍て、左に其報告書を揭載し、以て讀者の參照に資することゝせり＝一記者

事、豫審に屬するを以て、未だ斷定し難しと雖も、千歲町一丁目十二番地車夫大井川與太郎妻某なる者、七輪に火を起し隣家にて談話中、火の子飛散して附近に在る紙張障子に燃へ附き、本人漸く氣付きし際は、既に屋根より火焰を吹き居りたりと。本人は其事實を否認して、湯屋の煙突よりの飛火なりと稱し居り、其信偽まだ明ならず。何れにしても、其附近は柿葺屋根極めて多く、低級なる陋屋櫛比し、路面狹隘、加ふるに、四月二十三日以來降雨なく、屋根材料は彌が上にも乾燥し、彼の大風速を以て煽り立てしかば、延燒力の威大なりしこと亦怪むに足らざるなり。

罹災地附近平面圖

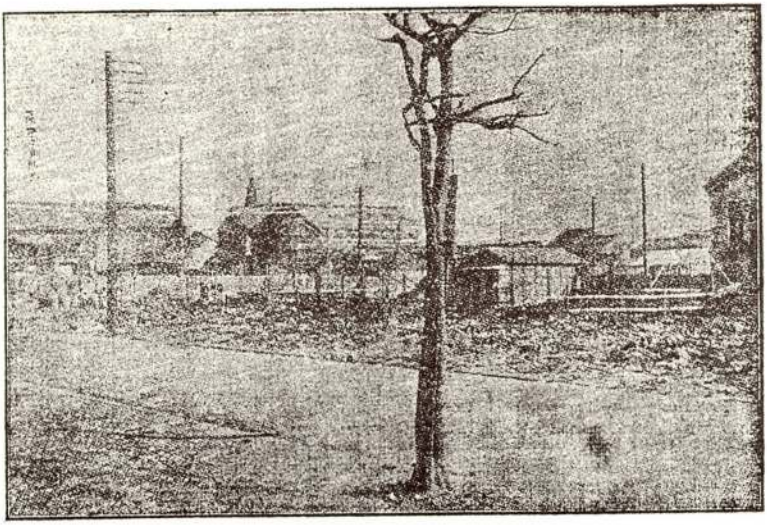

凡例
罹災區域
擴張道路
殘留及新設消火栓
新設消火栓
複式消火栓
防水門
縮尺
壹之分千六尺
300間 50 0 100 200間
長者町
常盤町
相生町
南仲通
北仲通
公園
日之出橋川

□貳□ 當日の風速と延燒の狀況

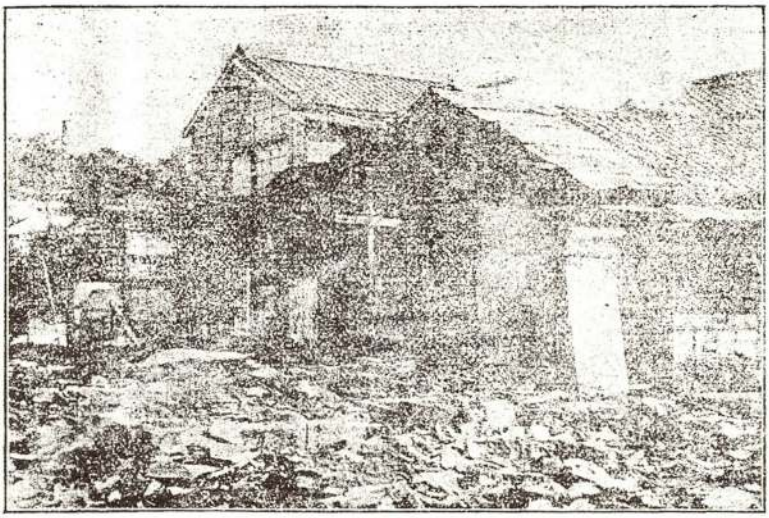
當日、神奈川縣測候所の觀測に據れば、

時間	風向	風速
正午	南南西	九、米突五
午後一時	同	十一、一
同二時	同	十四、一
同三時	同	十二、七
同四時	南	十二、八（滿潮午後四時廿分）
同五時	西南西	六、四
同六時	西南西	一〇、八
同七時	同	四、九
同八時	北	四、七
同九時	北北東	七、〇

風位右の如くなりしと雖も、火災の現場にては周圍の狀況に依り風位に大變化を來すを常とするものなるも、實際出火の際の風位は南南西に



翁町三丁目附近



防火破壞

して、次で南より西南西に變じ北に轉ぜしが如し。

最初南々西の風に煽られたる火は、六間幅の道路と、廿九號の防火壁に妨げられたるの觀ありしも、忽ち隘路を隔てゝ陋家に飛火し、次第に翁町五丁目に延燒し、日出川河岸に達して一時防止せられむとせしが、午後二時に至り、風速愈々加はりて十四米突一に及び、衛生試驗所及市消毒所一時に類燒の厄に罹り、其火焰は遂に十五間の河幅を突破して壽警察署及壽小學校の大建築物を襲ひ、愈其勢力を振ひて、恰も無人の境を行くが如く、次で、約十町を隔てる南仲通り民家の物干臺に飛火し、爲に、消防隊の一部を割くの止むを得ざるに至り、增々暴威を逞ふして、午後五時には大岡川岸に達し、風向西南西に轉ずると共に、松影町一丁目に延燒し午後五時半に至りて警視廳自動車喞筒の來援す

るあり、滿潮を利用して瀑の如く潮水を注ぎしかば、大川の河幅と相俟つて午後八時三十分には類燒の憂なきまでに火勢を阻止し、午後十時に及むで漸く鎭火するに至れり。此の時間約六時四十五分間とす。今、左に其罹災戶數等を擧ぐれば、

▲燒失戶數　三千八十四戶

▲半燒戶數　四十三戶

▲燒失棟數　住家一千三百八十二棟―內半燒十六棟
　　非住家　百七十四棟―內半數七棟

▲燒失坪數　六萬三千三百坪

▲家屋建坪　約三萬二千坪

即ち一分間に八十坪を延燒したる計算となる

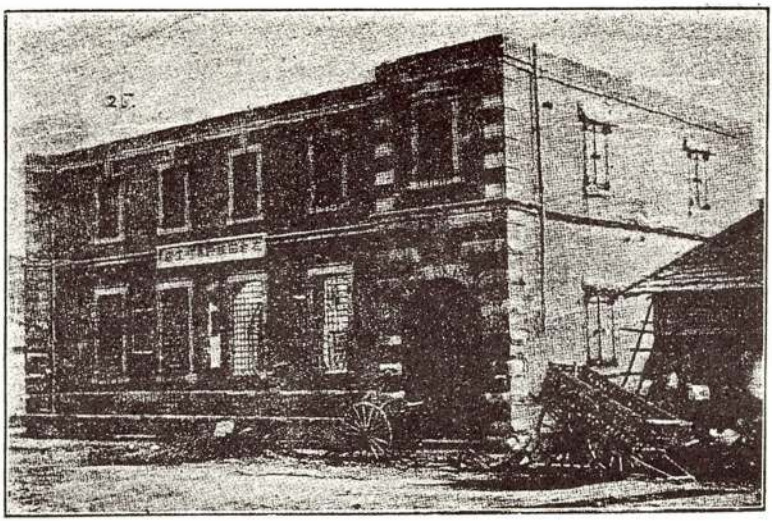
▲其他本町に於て　住家十四戶
　　非住家五棟

□參□ 消防設備

消防設備としては、自動車唧筒一臺、蒸汽唧筒三臺、及び十數臺の手押唧筒ありと雖も、自動車唧筒の外は、人力を以て運搬するものなれば急速の活動意の如くならず。加ふるに、南仲通に飛火したるを以て急に一部を割き赴援せしが故に、火勢愈猛烈を加へしめたり。斯る大火に際しては、只注水のみを以て之に臨むは木に椽て魚を求むるに等し。家屋破壞を最も敏速に遂行するに非れば其功を奏し難く、一瞬間に幾十萬圓の犧牲を拂ふに比すれば、防火線の家屋破壞は問題とするに足らず、將來斯の設備を必要とせむ。

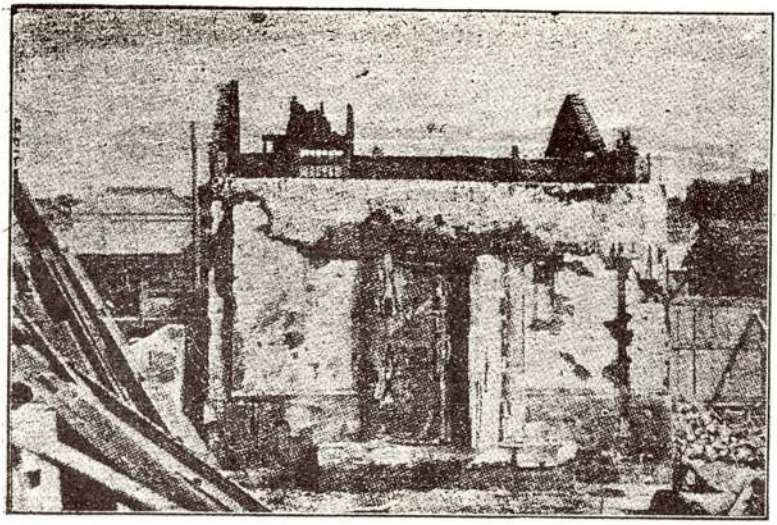
□四□ 殘留家屋燒失家屋調査表

番號	名稱	構造	火災結果	火災の影響	特種事項	原因	結論
1	倉庫	煉瓦 二階 1B 2B	安全	煉瓦表面龜裂多シ六ケ村石モ亦同シ	庇銅板製		目塗ノ頗ル有効ナリシヲ認ム
2	同	煉瓦 二階 1B 一階 2B	同	同上		入口扉不完全、半枚壁、棟、入口上等ニ龜裂ノ跡アリ	隣接地ニ煉瓦造家屋アリ、窓等ニ火焰ノ防止セラレタル形跡アルハ注意ス可シ
3	同	同 二階 5B 一階 1B	焼失	入口扉、亞鉛曳鐵板張リ破損燃焼		煉瓦半枚壁ノモルタル充塡不完全而モ上塗ナキト壁ニ龜裂アリ入口戸モ亦不完全ナリシトニ依ル	
4	同	石（漆喰上塗）	安全	ナキカ如シ	鐵扉	內部裏白戸ニ目塗ヲ施ス	鐵扉變形シタルモ前方ニ明キ地アリシハ有効ナリシガ如シ
5	同	石厚一尺上部漆喰塗	同	漆喰剝落其他同上	入口引戸		引戸モ目塗サヘ完全ナレバ能率多シ
6	同	土藏壁六寸屋根七寸	同	同	十二邊塗入口引戸		土藏トシテ從來ノ施工法ニ據リ親切ニ工事ヲ施シタル爲結果極メテ宜シ
7	同	煉瓦 外水及喰漆棕梠繩入	同	同庇墜落			外部ニ上塗ヲ施シタルハ煉瓦目地ノ不完全ヲ補ヒタル効アリ
8	同	煉瓦木漆喰塗窓骨	同	窓顚ル危險ナリシ			
9	同	土藏	同	入口戸前等ノ損害甚シ			
10	同	同	倒壞			不明	
11	同	煉瓦 5B	焼失			壁及漆喰塗ノ薄キ爲ナリ	半枚壁ノ信賴スルニ足ラザル好適例ナリ

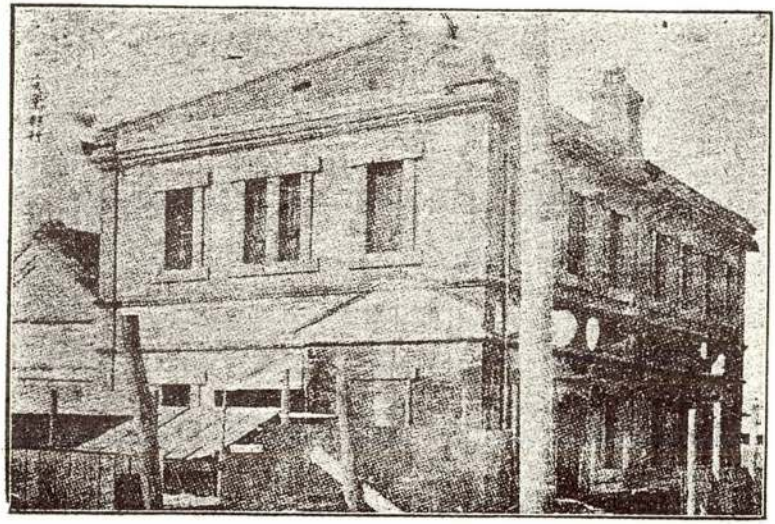


（照對ニ表本）　屋家留殘



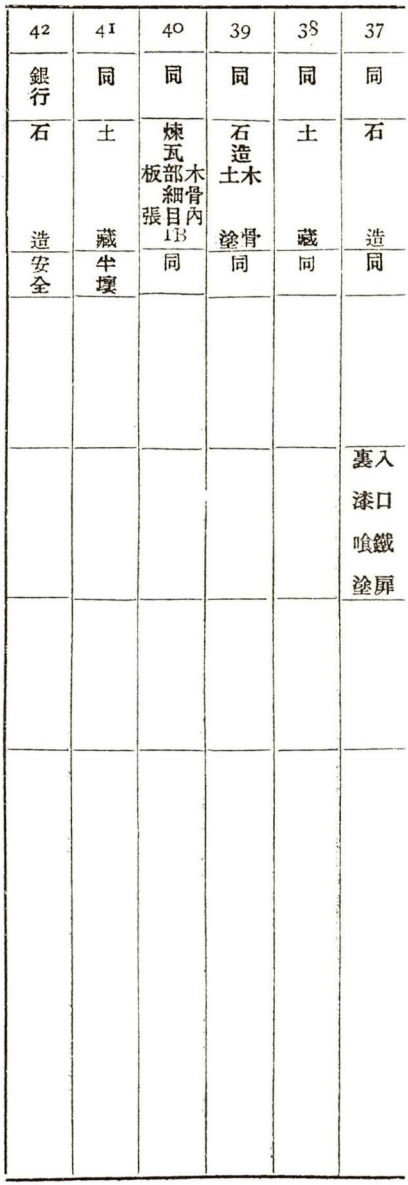


殘留家屋　（本表と對照）



12	倉庫	同										
			安全									
13	同	同	5B	燒失								十一號ト同ジ
14	同	土	藏	同								
15	同	石		安全								
16	同	石	五寸厚	上三寸	燒失							
17	事務所	煉瓦木骨窓1B			同	窓両開鐵扉アリ壁ハ木骨ト關係ナシ						屋根ノ構造惡カリシ爲ナラン、窓鐵扉ハ烈火ノ爲非常ニ變形セリ
18	倉庫	石			同	木製扉ヲ亞鉛引鐵板ニテ被覆ス						木製金屬被覆扉ガ信賴スルニ足ラザルヲ証ス
19	同	石			安全	扉鐵板内郡漆喰塗						鐵扉ニ内部漆喰塗アリシ爲熱ノ傳達少ク戸ノ屈曲少キハ注意スベシ
20	同	土	藏	同			質商					質商ノ土藏ハ概シテ防火ノ設備完全ス
21	同	同		同			同					同
22	同	煉瓦	同	窓造リ出シノ處眞木燃燒ス			同					木部被覆少キハ危險多キヲ証ス
23	同	石木骨	半壞燒失									
24	倉庫	石	倒壞									

25	銀行	煉瓦焼失							屋上空氣抜ヨリ火焔入リシモノノ如シ	煉瓦造二階建ニシテ窓ニハ鐵扉ヲ取付ケ其設備ハ準耐火構造ナリシモ屋根木造小屋ナリシト同空氣抜ニ防火設備ヲ缺キシ爲燒失セリ又倉庫扉鐵板ヨリ傳熱ノ結果内部裏白戸ノ引手金物ヲ熱シ室内部戸框ノ一部ヲ燃燒シ甚ダ危險ナリシテ認ム
26	倉庫及住宅	煉瓦ノ上ニ土五寸ノ上塗リ有トカ藏								前方道ヲ隔テ、外部亞鉛引鐵板張リノ半燒アリシハ幸ナリシ
27	倉庫	木骨煉瓦5B倒壞		茶碗庫						半枚壁ノ信賴スルニ足ラザル好適例ナリシ
28	同	煉瓦1B鐵筋コンクリート四寸厚安全	煉瓦及鐵筋コンクリート上塗少シク龜裂アリ							厚二分スキ一寸裏板一分ノ入口片開鐵扉アリシモ屈曲少シ廿五號ト同ク裏白戸ノ引手ノ損害アリ注意スベキ事項トス
29	住宅及倉庫	土藏造同								防火壁軒ヨリ高キコト約二尺煉瓦一枚積
30	倉庫	石造同								
31	同	同焼失		鐵扉						
32	同	同安全		質屋窓鐵扉二重						二重ノ鐵扉ハ一重ノモノヨリ屈曲極テ少ク効率大ナリ
33	同	同同								
34	同	石造土塗同								
35	同	石造同		出入口四重掛子						折釘ヲ取付ケアル木煉瓦ニ傳熱シ内部ヘ燃燒シタリシモ屋根ヲ剝シ消火シ安全ナルヲ得タリ所謂請負普請ナリト
36	同	石造土塗木骨同								



□五□ 前表說明と結論

▲煉瓦壁 半枚積は、モルタルの充塡頗る不完全なるを以て、煉瓦積の間隙より火焰を吹込みしと認むる箇處多々あり。且つ、壁の周圍燒失の後支持材無き爲倒壞の虞ありて極めて危險なり。只木骨煉瓦造にして壁内外より漆喰を厚く塗りたるものは稍有効に近く、燒失を免れたるものありと雖も、多くは地の利を得たるものと認むべきものなり。

一枚積煉瓦も、モルタルを完全に充塡すること難し。建物小にして外部化粧目地仕上を爲し、内部漆喰塗を充分爲せしものに完全なりしものあり。煉瓦は硬き物程表面龜裂多き樣なり。

▲石造壁 木骨の外部に厚五寸以上に房州石を積みしものに安全なりしもの多し。されど、種々の構造物を取付くる爲金屬を直接に柱に取付けたるが如きは最も注意を要する事項にして、之が爲木材を燒き災害を蒙れるものあり。石壁の表面に二寸内外の土及漆喰を塗れるものは、

防火の目的を達せり。

屋根、窓、入口の不完全なるものに耐火の功なきは勿論なり。

堅石、花崗石、青石類は破壊せざるもの稀なり。

▲土藏造　舊來の日本風に十數回の壁塗りを繰り返し、特に屋根土居塗に注意し、窓入口に土戸及裏白戸を附し、雙方共充分の目塗を施したるものは燒失を免れたり。此の內、鐵扉を用ひ非常に變形を爲せしにも拘はらず、裏白戸に目塗を施したる爲災を免れたるものあり。全く倒壞して其構造を知り難きものあり。

▲コンクリート造鐵筋コンクリート造　類例少きは頗る遺憾なり。只一箇處壁は一枚積煉瓦とし、屋根を鐵筋コンクリート構造とせし倉庫あり(寫眞第廿八號)煉瓦及鐵筋コンクリート上塗に少しく龜裂あり。扉は鐵扉にして表板厚二分スキ一寸裏板一分片開き屈曲頗る少し。然れども、火焰の爲に熱せられて裏白戸に傳熱し、其引手金物を赤熱して室內部戸框の一部を燃燒し甚だ危險なりし。

▲防火壁　寫眞第廿九號は防火壁に依りて完全に火勢遮斷の目的を達したる好適例とす。同家は防火壁軒より高き事約二尺に及ぶ。

亞鉛引鐵板を引壁に張り延燒を妨げたる例もあり。隣接家屋に接し、房州石を積みて防火壁と爲し、爲に類燒を免れたるものあり、以て頗る其有効なるを證するに足る。

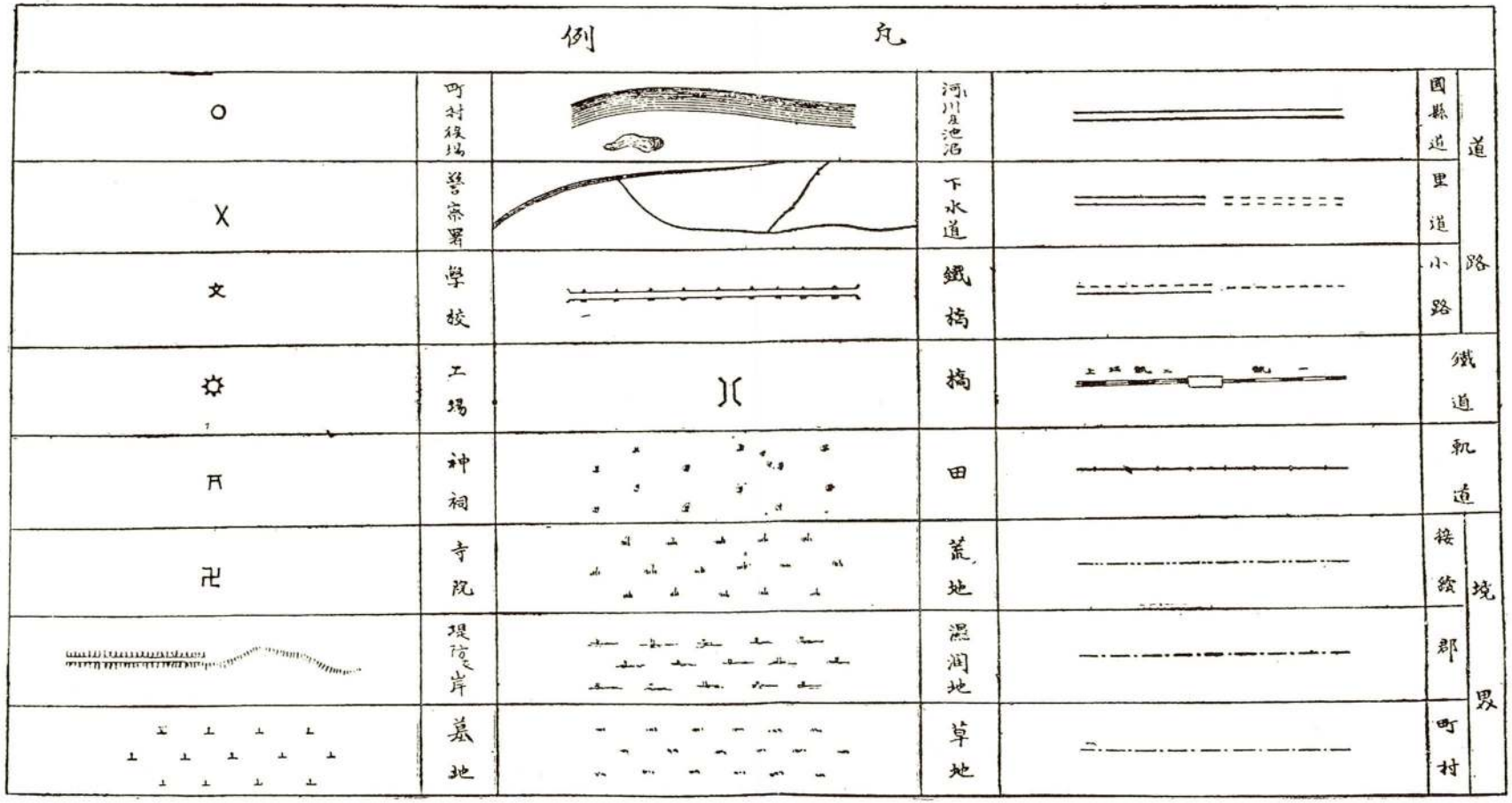
以上觀察の結果を綜合し、將來都市建築として奈何なる程度の家屋を建築せば可なりやと云ふに、罹災地域は將來商業地として指定せらるべき運命を有するが如くに考へらるゝに由り、少く共、市區改正道路に面する家屋は、耐火耐震構造ならざる可からずと雖も、止むを得ずんば一時耐火構造を以て滿足せざるべからず(續く)

西成郡豊崎町

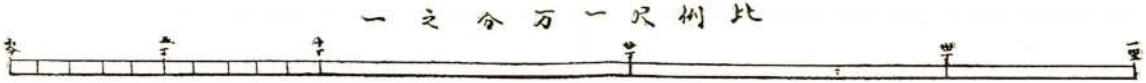


大阪市接續町村下水道略圖

凡例



比例尺一万分之一



大阪市接續町村下水道調査綱要（一）

大阪府發表

下水道の施設は、都市問題に於ける重要事項の一たるを喪はず。我大阪市の下水施設は殆むど觀るに足らざると同時に、其接續町村に於ける夫れは、亦一層不良の狀態に在り。大阪市自體の下水設備を完成せしむることは、素より刻下の緊急事たるも、現下大阪市膨脹の趨勢を稽へ、又、現在に於ても、市衛生上其他の禍源が、多くは其接續町村に於ける施設の不備に在るを憾はゞ、夫れ等の下水改良は尙一層の須要事なりと謂ふ可し而して、頃者、大阪府は『大阪市接續豊崎町外十三箇町村下水調査紀要』なるものを當協會に寄せられたり、乘つて覽るに、夫れ等の接續町村に於ける下水設備の極めて不良なる狀態及び之に起因する疾病死亡等の關係事項歷々看るべきものあり、我都市計畫其他の參考上寔に好箇の資料たり、仍て、左に之を掲載することゝせり。＝一記者

總說

大阪市接續町村に於ける衛生狀態は、各般に亘り、大阪市並に他郡町村に比して著く不良を示すは既知の事實なるが故に、之が改善の手段として、或は上水道を布設し、或は汚物掃除法を準用する等漸次其緒に就くと雖も、下水道は未だ全く舊態を革むるに到らずして農村時代より存在する縱橫無數の用惡水路は變じて下水道と成り、而も水路の疏通極めて不充分にして、到る處汚泥停滯し、有毒瓦斯の發生甚敷、且つ汚水は四方に浸淫して土地を汚染せしむ。而も人家及工場は、土地の卑濕下水の排泄奈何に顧慮せずして建築せられ、昨の耕地は今や既に市街の狀態に變じて人口愈々稠密を加ふ。斯る衛生狀態の不良は絶へず住民の健康を障碍し、其結果、普通病者の增加又は傳染病の發生等となるべく、之を統計に徵するも、既往五箇年間に於ける人口千に對する平均死亡率は、實に左の計數を示せり。

大阪市　二六・八九
堺　市　二三・二〇　に比して
市郡平均　一九・三三
鶴橋町　三七・九四
今宮町　三六・九六
津守町　三三・九九
鷺洲町　二八・〇七
中本町　二七・六九
豊崎町　二六・三八
中津町　二三・一六

を示し、又、傳染病の發生率は、人口千に付、

大阪市　一・五三
堺　市　一・五二　に對して
市郡平均　一・四七
中津町　四・八四
豊崎町　三・五五
鷺洲町　二・七五
鶴橋町　二・四〇

にして、其他、榎並、鯰江等の比較的衛生狀態の佳良なる町村を除き、悉く市郡平均率を超へ斯くの如く、市郡死亡數の比較に於て、市郡及他郡部よりも死亡率の高位を示すは稀有なる現象にして、衛生狀態の甚だ不良なるを立證すべく、且つ傳染病發生數甚だ多くして、大阪市の傳染病は、其禍根を此處に保有するにあらざるやを想定するに難からず。而して以上の如く死亡數及傳染病發生數の多きは、單に土地の不潔下水排泄の不完全のみに歸することを得ざるべきも、上下水道の完成は、衛生上根本問題の解決たり。而して、各町村は上水道布設の工を起して各戸に給水を普及せむと努めつゝあり。此の際更に下水道の改良を圖るは、衛生上最も喫緊の事に屬するを以て、大正三年十一月以降技師吉田格が現狀に就て調査せし下水道關係の調査記錄に據り、之を編纂して參考資料に供せんとす。

各說（I）

═豊崎町═

町の東及北部は、淀川堤防を以て圍繞せられ

西は中津町に界し、南は大阪市に接續す。戸數六千二百餘、人口三萬五千餘にして、南、北長柄、本庄、南濱の四字より成り、各字共日に月に工場及住家の建築せらるゝもの多く、從來の田園は忽ち變じて敷地と成り、人家櫛比して何等市と選ぶ處なし。

土地概ね低濕、勾配なく、下水溝は、舊灌漑用水路にして、各工場より流出する汚水及家用水は悉く之に連絡せり。

下水溝中、比較的勾配を有して其流下稍良好なるものは。南長柄三平會社西より南に流れて淀川に流出する幅約三尺兩側板杭止又は護岸の設けなき箇所ある二筋の下水溝、及び北長柄より町の北端を西に流れ、中津町に流出する幅約六尺の下水路のみにして、他は概して不潔を極む。就中、北長柄八幡神社西横手より第二尋常小學校敷地西境界を北に流るゝ幅約三尺の下水溝、及び長柄葬儀所と船岡街道との中間に在る下水溝（共に板杭止又は護岸の設なき箇所あり）は浚渫せざるのみならず、中斷したる箇所ありて、恒に汚水汚物停滯し、夏期に至れば惡臭を放てり。又、本庄妹尾製藥工場西より南に流れ、市内北區浮田町に入る幅約三間護岸の設なき大下水路及北端東海道官線東（前記中津町に流るゝ下水路の連絡）より南に流れ、北區本庄葉村町に入る幅三尺餘（板杭止又は護岸の設なき箇所あり）の下水溝は勾配なく常に汚水汚泥停滯す。又、降雨連續するときは、下水溢れて浸水附近の床下に及ぶことあり。其他、字南濱より西に梅花女學校北に入る廣狹不定護岸の設なき下水溝は畑中の溜池に連絡しあるも、全然流下せずして、汚水汚泥停滯不潔を極む。尚、以上の下水溝に連絡する家用水路其他の小支路に至りては、從つて其流通不良なること推して知るべき也。

既往十箇年間人口ト傳染病患者及死亡率調査表

年次	赤痢 患者	赤痢 死亡	コレラ 患者	コレラ 死亡	腸窒扶斯 患者	腸窒扶斯 死亡	パラチブス 患者	パラチブス 死亡	實扶的里亞 患者	實扶的里亞 死亡	疑似發疹窒扶斯 患者	疑似發疹窒扶斯 死亡	患者數	死亡數	人口	前年ニ對スル人口ニ對スル增加率	人口千人ニ對スル患者率	人口千人ニ對スル死亡率	患者百人ニ對スル死亡率
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
三八	三	二			三	二	一		二	一			二三	九	七、四六六	○・三三五	一・四三	○・五三五	三六・三六
三九	五	一			一三	六	二	一	四	一			二三	九	八、八三一	一・八一八	二・六〇四	一・〇一九	三九・一三
四〇	六	一			七	一			七	三			二	五	九、一六三	○・三七六	二・一八二	○・五四五	二五・〇〇
四一	四	一			一八	九	三	一	六	二			三一	一三	一、一五七	三・二六七	二・五四九	○・九八七	三八・七〇
四二	九	二			二				五	三			一六	五	一、二一、七八四	○・五二五	一・二五一	○・三九一	三一・二五
四三	二	一	二		一八	九	一		一五	八			四六	一五	二、一五、九五六	二・四八一	二・八八二	一・五六六	五・四三
四四	三		一二		五四	二三	七	七	一二	一			七五	二六	二、二九、三四四	二・〇・二九	三・八七八	一・三四三	三四・六六
四五	一四		三		五九	一四	二		一四	五			九三	二二	二、二一、六六三	二・〇・九三	四・二四六	〇・九二三	二二・八三
大正二	一				七〇	三六	四		一二	六			九一	四二	二、二六、二三三	二・〇・〇九	三・四六九	一・〇六〇	四六・一七
同三	二七	九			四六	一五	二		六	三			九一	三三	二、二八、四七五	〇・八五五	三・一九五	一・二三	三五・二六
合計	七四	一八	一四	九	二九一	一一四	二五	五	八二	三三	六		四九六	一八一	二、二六、二一、八一	—	三・〇・六〇	一・一一六	三六・四九



名譽賛助員　井上友一氏

日本建築協會名譽賛助員從二位勳二等法學博士井上友一氏は、大正八年六月十二日午前零時二十分遽然として幽界に皈せらる氏や、曾ては、我行政司直の府に在りて令名普く、後、東京府尹として治績頗る篤きものあり而して、自ら持すること謹嚴にして敦厚、人に接すること温乎璧の如く、罕に覩る人格の人たると共に、我邦自治行政學者としての權威たりき、我協會の既往及將來亦氏に俟つ處鮮からざるものあり、然るに、今や、昊天歳を藉さず、竟に、幽明處を距るに到る、痛惜焉ぞ禁へむ。本會は、茲に、氏の英照を具して、眷々哀悼の誠意を捧ぐるになむ。



時報

▲内務省の住宅改良案　内務省にては社會政策上都市住宅改良の急務を認め臨時國民經濟調査會の決議に係る左記小住宅改良案に依り今後民間の建築を助成することゝなれりと。

一、公共團體に對し相當の條件の下に住宅改良の用に供する土地の收用權を認むる事並に官公有地の讓渡貸附に就き便宜を計る事

二、住宅建築の用地買入其他必要なる場合に於ては公共團體の起債を認め及び低利資金の融通を計る事

三、住宅巡視員を設置して住宅改良の歩を進め特に密集生活の弊を防ぐに努めしむる事

四、公共團體又は公益團體に於て低廉宿泊所を設くることを奬勵する事

五、官公署等に於ては成るべく從業員の住宅を建築する事

六、住宅改良を目的とする公共團體、建築組合等を奬勵し一定の條件の下に之に保護を與ふる事

七、會社工場等に從業員の住宅を供給することを奬勵する事

八、住宅の所有を奬勵する爲相當の資格を有する者に一定の組織を設けて住宅建築資金の融通を圖る等保護の方法を講ずる事

九、長屋建築及び會社工場等の從業員住宅の建築に就ては認可制度を設くる事

十、衛生上又は保安上有害なりと認むる住宅の一部又は全部の修築を命じ其使用を停止又は禁止し並に其取壞しを命ずる權能を地方長官に與ふる事但し取壞しを命ずる場合に於ては時宜に依り公共團體の費用を以て補償を與ふる事

十一、衛生上又は保安上有害なりと認むる地區の改良に就て亦前項の例に依る事

十二、市外の小住宅所在地に對する交通機關の普及を圖り且其賃錢の割引を實行せしむる事

▲住宅建築奬勵進歩　前項の通り内務省は住宅建築奬勵に向つて大体の方針を決定せる外更に其方針は漸次具體的に進捗し大藏省と交渉中なりし低利資金五百萬圓融通の議も大體決定すべき見込なるが該資金は差當り六大都市に融

通し漸次他の都市に及ぼす方針なりと

▲都市衛生設備視察　大阪市に於ては都市計畫の根本的調査の進行に伴ひ衛生方面に在りても都市の衛生設備を完成する爲歐米に於ける大都市の夫等現狀を調査する目的を以て野田大阪市立衛生試驗所長は近く歐米各都市察視の途に上るべしと。

▲世界一の大都市　倫敦と紐育とは其人口數に於て久しく相拮抗し來りしが最近の統計に據れば紐育の人口八百四萬五千人、倫敦七百八十八萬七千人にして紐育市は約二十六萬の多數を以て世界一の大都市と成れり。

▲橫濱市下水計畫　橫濱市區改正局にては今回市多年の懸案たる下水道施設を斷行すべく其基礎工事を開始する事となれり其總經費約二千萬圓にして現在全市の道路國道及里道合計三十五萬圓八千三百六十五間の整理と相俟ち其地下には表面道路の奈何に依り幹線支線の下水道設備を施す筈なりと。

▲六大市市長會議　六大市々長會議は七月十日午前十時より東京市役所參事會室に於て開會されしが內務省提出の衣食住に關する十四箇條の協議事項に就て逐條協議の結果大體左の通り決定せり。

一、府縣の市部經濟事業にして市の事業に移すを可なりと認むるものゝ奈何に就ては交通、衛生等の警察權を市に移す事

二、將來市費の膨脹に就ては國庫の補助に俟つ事

三、都市計畫法第八條第四項に依る特別稅設置に關しては土地增加稅、土地改良稅、間口稅等を制定すると同時に通行稅を市の所得とする事

四、低利資金を得る方法としては郵便貯金簡易保險より借入るゝ事

五、市に於て經營するを適當と認むる收益事業の收支並に收益事業經營に關しては富籤を發行し且市營銀行を設立して積置貯金をなす事

六、市の事業として住宅を經營するか又は其機關を援助する事而して其目的を速成するの方法としては市自ら住宅を建設するを必要とする事

七、職業紹介、廉價宿泊所等の新設若くは擴張は刻下最も必要とする事

八、公設小賣市場の普及發達に關しては政府も助力を與ふるを必要とする事

九、市の事業として人事相談所を經營することは必要なるも庶民銀行公設質屋等は市營とする必要なき事

以上の外購買組合の普及發達、社會改良に關する機關として方面委員制度の設置細民生活狀況の調査、土地政策の實行、交通及火災の豫防、上下水道の敷設、公園の施設、市場墓地火葬場の公營等に就ても協議案通り決定せり。

▲東京の勞働長屋　岡警視總監を會長とせる勞働奬勵會では其資金豫定額五十萬圓中既に三十五萬圓纏りしかど之と同時に深川本村町に於ける御料地二千坪借用も許可されたるを以て同所に勞働者長屋を建設し尙職業紹介所保育場等漸次增設する筈にて先づ早速其建築に着手すべしと

▲大阪市電の收益　大阪市電の大正七年度收入は七百七十三萬七百五十五圓卅九錢一厘にして六年度の收入に超過すること五十七萬四百八十三圓十九錢に上り電車收入のみに見るときは前年度の五百八

十二萬七千百十五圓廿八錢に比し今期は百十四萬五千三百七十八圓十七錢の增收なり之に對する支出が運輸費、動力費、車輛費等を合して三百五十一萬八百三十二圓六十二錢九厘なり之を收入對支出歩合に見れば四割九分四厘に當れり。

▲特別消防規程實施　內務省にては過般來特別消防規程の制定に關して調査中なりしが竟に七月十七日を以て發布され神奈川縣は本年九月一日より實施其他は七月廿日より實施されたり本規程は東京大阪兩市と同樣京都、名古屋、神戸、橫濱等の大都市に於ける消防機關を完備せむとするものにして、其經費の如き之を府縣費及國庫連帶を以て給與し尙消防管區を隣接町村に及ぼすことゝなれり。

▲三大都市の人口　七月十七日內閣告示第十一號を以て大正七年十二月廿一日現在全國現住人口數を公布せるが總人口五千七百七十八萬四千九百三十五人（陸海軍部隊及艦船に在る軍人並に監獄に在る者は之を包含せず）而して東京市は二百三十三萬千八百六十人、京都市は六十六萬八千九百三十人、大阪市は百六十三萬三千三百三十八人なり。

▲建築作業活動寫眞　建築業協會關西支部は去る七月七日夜大阪市東區汎愛小學校に於て、戰時中亞米利加の急速建築に關する活動寫眞を主として斯業關係者に觀覽せしめしが、頗る有益な資材に富み、非常に盛會にてありき。

▲結核豫防施行令案　內務省に於て立案中なりし結核豫防法施行に關する勅令案は本月上旬を以て省議決定し更に中央衛生會總會に諮問中なりしが此の程同會の答申を得愈確定案と爲り近く法制局に廻附し遲くも八月下旬頃より實施の筈なるが該勅令案の內容を聞くに左の如し

一、結核豫防法第五條第一項の規定に依る制限又は禁止に依り損害を受けたる建物の所有者又は使用者にして補償金の交付を受けんとするものは制限又は禁止の日より六十日以內に地方長官に申請する事

二、右損害の限度は地方長官に於て三人以上の評價人の意見を徵して之を決する事

三、地方長官に於て前項金額を決したる時は之を所有者又は使用者に通知する事

四、結核豫防法第七條の規定に依る入所の費用は結核療養所を設置する公共團體の負擔とする事

五、結核豫防法第八條の規定に依る國庫補助は左の區分に依る

（一）結核療養所創設費擴張費及之に伴ふ初度調辦費は支出額の二分の一（二）其他の諸費は支出額の四分の一

六、結核豫防法第九條の規定に依る國庫補助額は左の區分に依る

（一）結核療養所創設費擴張費及之に伴ふ初度調辦費は支出額の四分の一乃至二分の一（二）其他の諸費は支出額の八分の一乃至四分の一

七、核結豫防法第十一條の規定に依り生活費の補給を受くべきものは左の各項の一に該當するものに限る

（一）從業禁止の處分を受けたるもの

（二）從業禁止又は入所の處分を受けたるものゝ直系尊族配偶者又は子にして現に是と同一の家に在るもの但養子又は家督相續人に限る（三）前號に揭ぐるものを除くの外從業禁止又は入所處分を受けたるものに依り其扶養を受くべきものにして從業禁止又は入所の處分を受けたる時より引續き是と同一の家に在るもの（四）前二號の外地方長官に於て特に必要と認めたるもの

八、生活費の補給を受けんとするものゝ申請に依り地方長官に於て其の許否を決定す

九、補償金額の決定に對し不服ある建物の所有者又は使用者は決定の通知を受けたる日より生活費補助の許可を拒まれたるもの又は生活費の補給を廢止若くは停止せられたるものは其の處分を受けたる日より六十日內に內務大臣に訴願する事を得



會報

會誌

一、前號は意外に發行が遲れましたが、印刷所の故障抔で寔に餘儀ない次第、茲に篤く御詫致します。

一、本號に掲げました處の「横濱大火罹災家屋に關する調査」及「大阪市接續町村下水道調査綱要」等は、聊か手前味噌ながら好絶の參考資料と存じます、數回に亘つて掲げる筈でありますから折角御承認あらむことを希望致します。

一、客月贈呈致しました會員名簿の正誤表を本誌と共に發送致します

交換雜誌

建築雜誌　第三三輯第三八九號（建築學會）
建築世界　第十三卷第七號（建築世界社）
住宅　第四卷第七號（住宅改良會）
鐵道協會雜誌　第二十卷第七號（鐵道協會）
工業之友　第一四七號（工手學校）
工業之大日本　第十六卷第七號（工業之大日本社）
鐵と鋼　第五輯第七號（日本鋼鐵協會）
建築新報社　第一卷第三號（建築新報社）
建築評論　第一卷第三號（建築評論社）

寄贈雜誌

工業評論
オートモビル
早瀬塗料商報
木材新聞
ペイント商報
大橋月報
造船鐵工時報
商工時論
通俗衛生
ガーデン

新入會員

一、左の諸氏は第廿四回例會後の通信決議に依り本會々員として入會せられたり

大隈　貞喜、普通贊助員より資格轉換）
福永佐和吉、中川　彌八、杉　原　茂
山崎　源逸

一、左記諸氏は理事會の承認に依り普通贊助員として入會せられたり

河杉　親一、江村　郊邨、橋本　喜藏
佐山　鑑六、新谷庄三郎、久米菊一郎

會員移動

一、日高胖氏は去る四月中無事歸朝せられたり。

一、光安梶之助氏は去る六月中無事歸朝せられたり。

一、田中豊太郎氏は此度東北大學建築課へ榮轉去る七月十一日上東せられたり

會合

第七部委員會（第八回）

日時　大正八年六月二十三日午後六時半―十時

會場　本協會事務所

出席者　田中（豊）、小笠原、須川、佐藤（彰）、松本、舟橋、内藤、波江谷、新海、瀬戸

記事

前回は雜作材の寸法に就て前回迄に議了せる分を例會の討議に附する樣理事會へ報告することに取り極め、尚建築請負業者及材木商等の意見を聽取して參考とすることに纏りしも、當委員中に請負業者並に木材商等の當業者あるを以て、其儘報告し、經驗者に諮問の可否は理事會の意見に一任することに決定し、（一）木材の品位を標示する名稱（二）品位分類規定の順序に依りて研究を爲し、右（一）に就て決定する處ありしも、時間の都合上（二）に就ては次回に於て研究することと成れり。

第廿五回例會

日時　大正八年六月二十六日午後六時半―九時半

會場　大阪商品陳列所

出席者　八尾、井上（與）、小笠原、舟橋

席者定數に充たざりしを以て、各自歡談の後散會せり

第一部委員會

日時　大正八年六月二十八日午後六時半―十時

會場　大阪市中央公會堂第五號室

出席者

渡邊（節）、波江、池田（寅）、野村、小林（悉）、瀬戸（文）、藤井、片岡、宗、橋本

記事　都市計畫施行條令に關して意見を交換し且つ重要事項に就き討議せり。

第七部委員會（第九回）

出席　瀬戸、須川、佐藤、内藤、谷、田谷本、淺井、片岡、葛野、瀬戸宗、池田（寅）、設樂、田中（豊）

松本（禹）、波江、片山（萬）、吉井、山崎（書記）、江村（編輯）

記事

當日は、新入會員の詮衡、第七部委員會決議經過報告等の要件ありしも、出

═注意═

馬塲善一君　高畑護君

大下守造君　清水德太郎君（以上普通賛助員）

南省吾君（會員）

右御住所不明に付御一報煩し度し

前回配付致候會員名簿中、終身賛助員木村篤三氏は木村音衛門氏の間違に付便宜訂正あり度し。

中、池谷

日時　七月七日午後六時半より第九回七部委員會を開く筈なりしが、當夜は東區汎愛尋常小學校に於て、建築業協會關西支部主催、米國に於ける建築作業狀況の活動寫眞を催せるを以て、其招待に依り、當夜の議事は之を取り止め、右寫眞を參觀せり。

理事會

日時　大正八年七月十一日午後六時—九時

會場　大阪倶樂部

出席者

片岡、日高、設樂、松本、舟橋、宗（以上現理事）瀨戸、波江（以上舊理事）

記事

一、本夕は新舊理事者の意見交換をなし左の諸項を決定せり。

一、第六部委員會の取扱ふべき事項は理事會之を處理すること

一、各部委員長は委員中より互選せしむる會則を重んじ現理事の就任せるものは辭任すること

一、次回例會には第七部委員會より提出せる成案を討議し且つ會員光安梶之助君の講演を乞ふこと

一、本會々計の整理につき意見を交換する處ありたり

第廿六回例會

日時　大正八年七月十八日午後六時半—十時

會場　大阪商品陳列所

出席者

清水（榮）、大林、竹中、宗、櫃藤、西田、大原（忠）、内藤（梁）、松本（禹）村野、佐藤（彰）、安部、呼子、阪井生野、木田（二）、内藤（益）、廣瀨、小寺、小笠原、原田、岡部、設樂、八尾、岡村、光安、青田、永田、永瀨、平塚、山脇、宮飼、森山、山崎柳下、山口、土居原、岡本、谷本、浦、福永、淺井、中川、小川、鈴木小松、内藤（太）、山崎（書記）、江村（編補）

記事

設樂理事挨拶に次いで、會員光安梶之助君は海外視察談を題し　先づ紐育其他に於ける交通機關の狀況より、事務所建築等に關して約二時に亘り頗る有益なる講談ありき、當夜は未だ全部を講了されざりしことゝて、次回に於て更に同氏の講演を聽くことゝなれり。

右了つて、議事に入り、佐藤（彰）氏より曩中は例會休止の提議あり、採決の結果來る八月の例會を休止することに決す。

宗主記より先般通信決議を以て可決せし新入會員五名に對する報告あり、尚從來各部委員中理事が其委員長となれるものあり、斯くの如きは違則の事と信ずるを以て其委員長たることを辭退す、仍て理事者以外より其補缺をされたき事、及び、第六部委員會は、其管掌が春秋二期其他に於ける會合を決するのみの機關なるも之が爲特に委員會を設くるの必要なし、斯る事項は理事會に於て取扱ふを適當とするが故に、該委員會を解散せる旨の報告あり。理事者は茲に當夜斯くの如く多數の參會ありたることを深謝す。

編輯たより

▲漸金三伏の暑さとなつて來ましたが、斯の最も男性的な時期が却つて一大活躍のときでありますまいか、各位の折角御自愛と一層の御活動を祈ります。

▲本號に掲げました處の渡邊、内田、吉村氏等の玉稿は編輯締切の都合上御校閲を經るの遑がありませなむだ、仍て萬一誤謬あらば勿論當方の責任なることをお斷り致して措きます。

▲卷頭大阪市全景の寫眞は、特別なる許可を得て撮影せるもの最も珍とするに足る處と信じますが今後も斯種貴重なる寫眞を選錄して本誌の卷頭を飾りたいと思ひます

▲本誌記事其他に就て御意見なり又御氣付の点がありましたならば、何卒御遠慮なく御注意をして頂き度うございます。

▲大阪市に於ける市營住宅增築問題は大分本物になつて來ました、是に就て編輯子も聊か其發表材料に苦心してゐますから、何れ遠からず本誌に紹介することゝなりましょう。

役員及職員

理事長　片岡安
理事　宗兵藏（主記）
　　野村一郎（編輯）
　　松本禹象（編輯）
　　日高胖（編輯）
　　舟橋喜一（主計）
編輯補　設樂貞雄
　　波江悌夫
　　佐藤四郎
　　江村郊郵
書記　小谷信藏
　　山崎萬壽夫

會員	一七四	會員（地方）	四二
名譽贊助員	六五	終身贊助員	三九
特別贊助員	八	普通贊助員	二三九
合計	五六七		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正八年七月二十日印刷
大正八年七月廿五日發行　（每月壹回　廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）

發行兼編輯人
兼印刷人　伊藤幸太郎
　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所
　大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　日本建築協會
　電話本局二二四一番
　振替口座大阪三九、九七五

巴里市衛生規則

（上）



巴里市衛生規則

（上）

千九百〇二年二月拾五日並ニ千九百〇三年四月七日附法律實施ニ付キ巴里市ノ衛生規則ヲ定メタル千九百〇四年六月廿二日附「ラ、セーヌ」縣知事ノ達「ラ、セーヌ」縣知事ハ公共ノ衛生ニ關スル千九百〇二年二月拾五日並ニ千九百〇三年四月七日附　法律及ビ千九百〇三年三月三十日ノ會議ニ於テ巴里市會ガ發表シタル意見並ニ「ラ、セーヌ」衛生會ノ意見ニ基キ左ノ通リ達スルモノナリ

第壹節　衛生法

第壹章　住宅ノ衛生法ト相關聯セル公道ノ衛生法

第一條　時ニ許可ヲ得タル場合ヲ除キ公道（町、廣場、埠頭、繫舟場、堤等）ノ如何ナル場所ニ於テモ時間及ビ其性質ノ如何ヲ問ハズ汚穢物ヲ溜置スルヿヲ禁ズ。又前記ノ場所ニ家屋ノ掃除ヨリ來ル塵芥ヲ放棄シ又ハ自四月一日至九月三十日期間ニアリテハ午前八時以後自十月一日至三月三十一日期間ニアリテハ午前九時以後左記ノ場所ニ於テ敷物、窓掛、布類ノ塵ヲ打拂フヿヲ得ズ

第二條　下水渠ノ備ヘタル公道ノ上ニ家庭用若クハ其他ニ使用シタル汚水ヲ棄ツベカラズ但家屋ノ前面、門、玄關、店ノ前面等ヲ洗滌スル爲メニ使用シタル水ハ此ノ限リニアラズ、此等ノ洗滌ニ用ヰタル汚水ハ直チニ之ヲ道路ノ溝ニ掃キ入ルベキモノトス、此種ノ洗滌ヲ行フニ方リ一且他ニ使用シタル汚水ヲ用ユルヿヲ得ザルモノトス

公道若クハ其隣接地ニ於テ實行スル工事ノ請負人ハ公道ニ於ケル其仕事場ノ附近及ビ其工事ノ爲メニ汚レタル總テノ場所ヲ清潔ニ爲スベキモノトス又彼等ハ溝ノ流通ヲ阻害スベカラズ

第三條　土地ノ採掘ヨリ生ズル土及ビ塵芥ハ必要ト認ムルトキハ之レニ消毒ヲ施シ必ラズ芥捨場ニ運搬スベキモノトス運搬ハ總テ公道ヲ汚スヿナク又通行人ノ妨害トナラザル條件ノ下ニ之レヲ行フベキモノトス又積込、積卸モ同一條件ノ下ニ之レヲ行フベキモノトス

第四條　住居ニ供スル家屋ノ持主ハ毎朝屋外ナラバ人道ノ上、屋内ナラバ入口ノ近傍ニ於ケル頗ル見易ク且外ヨリ達

スルコトヲ得ル場所ニ總テノ借家人若クハ居住人ノ家庭ヨリ生ズル塵芥ヲ容ルヽニ足ル容積ヲ有スル一箇又ハ數箇ノ共同芥箱ヲ備ヘ置クベキモノトス

其家主ガ芥取捨方ノ契約ヲ爲シタル私道内ニ存在スル家屋モ又芥取車ガ其私道ニ入込ムコトヲ能ハザル場合ヲ除キ前同樣ノ設備ヲ爲スベキモノトス若シ前記二條件ヲ欠キタル場合ニ於テハ私道ト公道ノ交接點ニ芥箱ヲ置クモノトス

芥箱ハ夏期（自四月一日至九月三十日）ニ於テハ午前六時半ニ開始シ同八時半ニ了リ冬期（自十月一日至三月三十一日）ニ於テハ午前七時ニ開始シ同九時ニ了ルベキ塵芥取捨ノ既定時刻ヨリ少クモ一時間前ニ之レヲ出シ置クベキモノトス

芥箱ハ芥取車ノ通過後三十分以内ニ屋内ニ取入ベキモノトス

第五條　共同芥箱ハ其形体及ビ構造ノ如何ニ係ハラズ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

各芥箱ノ容積ハ最大限百「リットル」ムト」以内トス其形圓形ナルモノハ直徑五十五「センチメートル」以内トス直角形又ハ隋圓形ナルトキハ幅五十「サンチメートル」長サ八拾「サンチメートル」以内トス高サハ其形体ノ如何ニ拘ハラズ長サ又ハ幅ノ寸法ノ最少ナルモノヲ超エルコトヲ得ザルモノトス

芥箱ハ屋内ニ於テハ蓋ヲ備ヘ之ヲ密閉シ置クモノトス又其上部ノ兩側ニ手ヲ附シ置クコトヲ要ス又芥箱ハ亞鉛引トナスカ、或ハ「ペンキ」塗リトナシ其外面ノ一側ニ明瞭ナル文字ニテ町名及番地ヲ明記スルコトヲ要ス芥箱ハ明箱トナリタル時臭氣ヲ發セザル樣其内部及ビ外部ヲ常ニ能ク手入シ清潔ニ保存スベキモノトス

共同芥箱ハ家主ノ注意ニ依リ午後九時ヨリ芥取捨ノ時刻迄借家人ノ使用ニ供ヘ置クベキモノトス

第六條　居住者ハ其家屋ニ備ヘ付アル共同芥箱以外ニ家庭ノ塵芥汚物ヲ棄ツベカラズ

共同芥箱ナキ場合又ハ共同芥箱アルモ一時不充分ナル時ハ共同芥箱ヲ置クベキ場所又ハ共同芥箱ノ傍ラニ私用ノ芥箱ヲ出シ置クベキモノトス

第七條　屑捨又ハ公道上ニ塵芥汚物ヲ取散ラスベカラズ然レドモ布ヲ敷キ其上ニテ屑ヲ選取ルコトヲ得ベシ選取了リタルトキハ直チニ再ビ塵芥ヲ芥箱ニ入レ置クコトヲ要ス

第八條　左ノ事項ハ之ヲ嚴禁ス

一、公道上ニ設ケタル下水渠ノ口及ビ檢査口ニ依リテ下水内ニ液体又ハ固形体ノ不淨物ヲ捨ツルコト

二、下水内ニ固形物、家庭ノ塵芥、液体又ハ固形体ノ不用物及ビ或ル材料ニシテ危險ナル水蒸氣若クハ燃燒スベキ瓦斯ヲ發生スベキモノ等ヲ投入スルコト

三、下水ニ達スル前三十度以上ノ溫度ヲ保テル溫湯ヲ流スコト

四、酸水ヲ流スコト此種ノ水ハ下水ニ流シ込ムニ先ダチ中和セシムルコトヲ要ス

第貳章　私道ノ衞生法

第壹項　總則　車道及ビ人道

第九條　私道ニシテ其極端ヲ閉塞セシモノト然ラザルモノトヲ問ハズ數軒ノ住

家ニ共通ノ入口トナルモノハ左ノ諸條ニ示シタル規定ニ準據スルニアラザレハ之ヲ設クルコトヲ得ザルモノトス

第十條　其車道及ビ人道ハ公道ノ車道及ビ人道ト同一若クハ同等ノ材料ヲ用ヒ公道ト同一ノ斷面圖ニ依リ之ヲ設ケ同一ノ條件ヲ充タスベキモノトス

人道ト車道トノ幅ノ割合ハ千八百四十六年四月拾五日附縣廳ノ達ヲ挿入シアル表ニ依リ總道幅ニ準シ之ヲ定ムルモノトス

第十一條　總テ不潔物ノ堆積ヲ防止スル爲メ私道ニ充分ナル點燈ヲ爲スベキモノトス

第十二條　道路ノ表面ハ常ニ手入ヲナシ清潔ニ保存スベキモノトス又毎日車道及ビ人道ヲ掃除シ且ツ溝ヲ洗滌スベシ

家主ハ暑熱ノ期間毎日少クモ午後一回宛私道ニ撒水セシムベキモノトス既ニ使用シタル汚水ハ之レヲ撒水ニ用ユベカラズ

第十三條　家主ハ私道ノ全部ニ生ズル結氷ヲ破壞セシムベキモノトス取除キタル結氷ハ車道ノ側ニ於テ溝ニ沿ヒ之ヲ堆積スルモノトス又雪搔ヲ爲サシムベキモノトス

私道ニ沿フテ設ケアル溝ノ流域ハ排水ヲ自由ナラシムル爲メ少クモ五十「センチメートル」ノ幅トナスベキモノトス

下水ノ檢査口洗滌水管及ビ下水ノ口等ノ栓上ニ氷雪ヲ置キ又ハ結氷セル雪及ビ結氷ヲ下水内ニ押シ込ムコトヲ禁ズ

公道ノ地面ニ私道及ビ私道ニ瀕セル家屋ヨリ出ヅル氷又ハ雪ヲ置クコトヲ得ズ

一個人又ハ巴里市ノ所有ニ屬スル私道ニ沿フテ位置ヲ占ムル地所ハ總テ皆ナ外部ヨリ其地所内ニ入リ込ミ汚物ヲ棄ツルコトヲ得ザル樣閉鎖スベキモノトス

私道ニ沿ヘル地所内ニ馬糞、廢物、糞尿又ハ汚物等ヲ溜置スルコトヲ嚴禁ス

第貳項　水道、雨水、汚水及ビ排泄物ノ排除

第十六條　住家ヲ有セル私道ハ總テ其關係セル家主ノ負擔ニテ必要ナル長サヲ有スル飲用水道ト洗滌用並ニ工業用水道ヲ備フベキモノトス

第十七條　地下排木渠ヲ有スル道路ニ出口ヲ有スル私道ニアリテハ家屋ノ雨水及ビ汚水ノ上蓋ヲ備ヘザル溝ニ依リテ排除スルコトヲ得ザルモノトス絶對ニ不可能ナル場合ヲ除キ此等ノ水ヲ受クルニ適當ナル漏水ノ恐レナキ地下溝ニ必要トスル長サ敷設スベキモノトス地下溝ハ充分ナル迫水ヲ流シ洗滌スルコトヲ要ス

第十八條　私道ニ沿ヘル家屋ハ總テ皆第三章第八項ニ定メタル條件ニ依リ設ケタル支溝ニ依リテ此地下溝ニ聯絡スベキモノトス

第參章　公道若クハ私道ニ於ケル住家ノ衛生

第壹項　建築ノ認可

第十九條　豫メ知事ノ認可ヲ經ルニアラザレバ家屋ノ新築又ハ模樣替ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十條　家屋ノ新築又ハ模樣替ヲ爲サントスル時ハ所轄官廳ニ全工事ノ寸法ヲ示シタル圖面(平面、截面、竪面)ニ署名調印シタルモノヲ添ヘ願出ヅベキモノトス

該圖面ハ二通提供シ又衛生規則ニ依リ

テ規定セラレタル衛生ニ關スル一切ノ設備ヲ明示スベキモノトス所轄官廳ハ願書及ビ附屬書類ニ對シ家主ニ受領證ヲ交付スベシ

受領証ニ依リ証明セラレタル受付ノ日附ヨリ廿日以内ニ願書ニ添ヘ差出シタル圖面ニ從ヒ工事認可狀ヲ家主ニ下付スルモノトス

前記廿日間ノ猶豫期日ヲ經過スルモ認可狀ノ下付ヲ受ケサル家主ハ此衛生規則ニ違犯セザル範圍内ニテ工事ヲ開始スルヲ得

第貳項　住居ニ充ツル部屋

總則

第二十一條　千九百〇二年八月十三日附告示ノ規定ハ本章第二、第三、第四項ニ挿入セル補則ニ抵觸セザル限リ其道端ノ閉塞セルモノト然ラザルモノトヲ問ハズ諸種ノ公道及ビ私道ニ之レヲ適用スルモノトス

第二十二條　私道ニ面セル晝間ノ住居又ハ夜間ノ住居若クハ料理場ニ充ツル室ニ於ケル「ヴュー、デイレクト」ノ最少限（「ヴューデイレクト」ノ最少限トハ住居スルヲ得ル室ノ壁ノ外面ト其反對ノ側ニアル壁ノ表面トノ間ニ含マレタル距離ヲ意味ス此距離ハ窓ノ中軸ニ立ツル垂直線ニ付水平ニ量ルモノナリ）ハ私道ニ沿フテ建築スル家屋ニ於テハ六「メートル」トス

第二十三條　晝間又ハ夜間ノ住居ニ用ユル室ノ爲メニ利用セラルヽ中庭及ビ單ニ料理場ノ爲メニ利用セラルヽ中庭ニアリテモ其面積及ビ「ヴューデイレクト」ノ兩規定ニ依ルベキモノトス

「ヴューデイレクト」ハ料理場ニアリテハ少クトモ二「メートル」其他ノ室ニアリテハ四「メートル」ノ幅ニ對スルモノタルヲ要ス

第二十四條　小キ中庭ニ依リ光線ヲ引キ空氣ノ流通ヲ謀リタル門衛ノ料理場ハ成規ノ煙突ノ外ニ截面最少限四『デシメートル』角ヲ有シ建物ノ最高部分ヨリ高キヿ一「メートル」ニ達スルシ通風管若クハ之レト同等ノ通風力ヲ有スル或ル他ノ設備ヲナスヿヲ要ス通風管ハ力メテ煙突ニ接近シ之ヲ設クベシ

第二十五條　中庭ニ面シ建設セル建物ノ高サ及凸出部ノ外劃線ハ各中庭ニ於テ下層ノ土間若クハ地下室ノ天井ノ板張ノ水準線ヲ測點トス

第二十六條　晝間若クハ夜間ノ住居ニ充ツル部屋又ハ料理場ニシテ道路又ハ成規ノ屋根ヲ有セザル中庭ニ面シ空氣ノ流通ヲ受ケ光線ノ射入ヲ受クルヿナク唯單ニ硝子天井ヲ以テ蔽ハレタル中庭ニ面スルモノニアリテハ該中庭ノ通風管ノ截面ハ千九百〇二年八月十三日附告示第十四條ノ規定ニ準スベキモノトス

第參項　穴藏及ビ地下室

第二十七條　穴藏ハ外氣ト交通スル最少限截面六「デシメートル」ヲ有スル各々少クモ高サ拾貳『センチメートル』ヲ有スル空氣拔ヲ充分多數ニ設ケ其通風ニ備フベキモノトス

猶又各壁ノ上部ニ穴ヲ設クルヿヲ要ス

第二十八條　穴藏ニ通ズル戸又ハ揚蓋ハ夜中ノ住居ニ充ツル室ノ内部ニ面シ之レヲ設クルヿヲ得ズ

第二十九條　如何ナル場合ト雖晝間若クハ夜間ノ住居トシテ穴藏ヲ使用スルヿ

ヲ得ズ

第三十條　地下室ヲ夜間ノ住居ニ充ツルヿヲ禁ズ

地下室ニシテ晝間ノ住居ニ充ツルモノハ左ノ條件ヲ具備スルヿヲ要ス

第一、四壁及ビ床ハ阻水的ノ構造トナスベキヿ

第二、各室ノ面積ハ少クモ拾貳「メートル」平方ヲ要ス、室ハ道路又ハ中庭ニ面シテ設ケタル窓ニ依リテ通風ト光線ノ射入ヲ爲サシメ且窓ノ大サハ少クモ其部屋ノ面積ノ拾分ノ一ニ相當スルヿヲ必要トス

第四項

第三十一條　穴藏ノ上及ビ平地ノ上ニ設ケタル下層ニ在ル室ノ床ハ必ラズ阻水的ノ構造トナスベキモノトス

第三十二條　下層ノ四壁ハ床ノ水準線迄阻水的ノモノタルヿヲ要ス此水準線ニ於テ四壁委クノ阻水的ニシテ且隔離的ナル一層ノ上塗ヲ施スヿヲ要ス

第三十三條　下層及家屋ノ最高層ヲ除キタル其他ノ各床ニ於テ晝間又ハ夜間ノ住居ニ用ユルヿヲ得ル室ノ床ハ最少限九「メートル」ノ面積ヲ有スルヿヲ要ス

部屋ハ各々煙出管ヲ備ヘ其室ノ床ノ面積ノ少クモ六分ノ一ニ相等スル廣サノ一ケ所又ハ數ケ所ノ窓ヲ道路又ハ中庭ニ面シテ設ケ空氣ノ流通及ビ光線ノ射入ニ備フベキモノトス

料理場ニ專用スル室ハ前記ノ廣サヨリ少ナキ積面トナスヿヲ得

特ニ門衛室ハ其面積拾貳「メートル」ヲ下ルヿヲ得ザルモノトス

第三十四條　建物ノ最高層ニ在ル晝間若クハ夜間ノ住居ニ使用シ得ル室ノ床ノ面積ハ最少限八「メートル」トス而シテ此面積ハ床ヨリ一「メートル」三十ノ所ニ於テ之レヲ量リ且室ノ立方積ハ貳拾「メートル」立方ヲ下ルヿヲ得ザルモノトス

室ハ各々煙出管ヲ備ヘ少クモ其室ノ面積ノ八分ノ一ニ相當スル廣サヲ有スル窓ヲ一ケ所又ハ數ケ所ニ設ケ通風ニ供スベキモノトス

屋根裏ノ段階ハ總テ外氣ノ變化ニ對シ住家ノ保護スル方法ニテ之レガ備設ヲナスベキモノトス

第三十五條　梯子段ヲ置キタル部分ニアリテハ其總テノ部分ニ適宜光線ヲ引キ空氣ノ流通ニ便ナル設備ヲナスベキモノトス

第三十六條　自由ニ開閉シ能ハザル窓又ハ嵌メ殺シ窓ハ決シテ空氣ヲ流通セシル窓ト見做スヿヲ得ズ

第三十七條　私用ノ馬屋及ビ其附屬物（中庭、馬糞置場等）ハ完全ニ手入シ且清潔ニ爲シ置クベキモノトス又其臭氣及ビ馬匹ノ發スル音響ニ依リ近隣ニ迷惑ヲ及ボフナスキ樣適切ナル設備ヲナスベキモノトス

馬屋ハ天井裏ヨリ計算シ其高サ少クモ二「メートル」八十トシ馬一頭ニ付キ最少限貳拾五「メートル」立方ノ空氣ヲ入ルヽニ足ルベキモノタルヿヲ要ス

充分光線ヲ引クニ必要ナル戸及ビ硝子入ノ明窓ノ外ニ大サ四「デシメートル」角ノ特別管ヲ以テ馬三頭毎ニ一箇ノ割合ニテ常設通風管ヲ備フベキモノトス

馬屋ノ壁、床並ニ馬糞置場ノ床ハ阻水的構造トナスベシ床ヲ適當ナル傾斜ヲ

與ヘ又溝ニ依テ尿、汚水、洗滌用汚水等ヲ家屋ノ總下水ニ通スル常設密閉塞ヲ備ヘタル排泄管ニ注入セシムルコトヲ要ス

馬糞ハ少クモ三日毎ニ午前九時前ニ之ヲ取去ルベキモノトス

明カニ近隣ノ妨害トナル場合ニ於テハ毎日之ヲ取去ルベキモノトス

馬屋ニ於テ夜間用ノ常設居住室ヲ設クルコトヲ得ズ

第五項　暖房、通風、點燈

第三十八條　ストーヴ、置ストーブ、暖房機（フエール）、料理用ストーブ、其他ノ暖房用機具ニ用ユル煙突ハ之レヲ他ノ煙突ト連絡セシムルコトヲ得ザルモノトス又其圍壁ヲ通ジテ瓦斯及ビ煙ノ漏レ出ツルコトナキ様之レヲ造ルベキモノトス其高サハ建物ノ最高部分ヨリ少クモ一「メートル」ヲ超ユルコトヲ要ス

第三十九條　住居ニ用ユル室ノ煙突ハ外部ヨリ空氣ヲ入レ、爲メニ充分大ナル截面ヲ有スル通風管ヲ備フベキモノトス此通風管ノ大サハ少クモ一「デシメートル」半平方トス

暖房用機具（ストーヴ、置ストーヴ、暖房機（カロリフエール）等）ハ室内ニ煙、埃及ビ其家屋及ビ隣家ニ於ケル居住者ノ健康ヲ害スベキ瓦斯等ノ少シモ漏レ出ツルコトナキ様ニ之ヲ造リ又ハ据付クベキモノトス

暖房機（カロリフエール）ノ空氣注入ハ道路、中庭、若クハ庭園ヨリ直接ニ空氣ヲ引クニアラザレバ之レヲナスコトヲ得ズ

第四十條　煙ヲ生ゼザル燃燒物又ハ瓦斯質ノ生成物ヲ用ユル火禁場ニシテ晝間又ハ夜間ノ住居ニ使用スル部屋ノ暖房ニ充ツルモノハ燃燒ヨリ生ズル生成物ヲ排出スベキ特別ノ管ヲ備フルカ又ハ成規ノ煙突ニ通スル管ヲ備フベキモノトス

第四十一條　臺所用ノ固定又ハ動カスコトヲ得ル料理用ストーヴハ燃燒材料ヨリ生ズル煙若クハ瓦斯ヲ排出スベキ特別ノ煙突ヲ備フベキモノトス

第四十二條　煙突ノ空氣吸收力ヲ左右スパキ辨ハ其煙突ノ穴ヲ全然閉塞スル構造ニテ之レヲ造ルベカラズ

第四十三條　或ル暖房用機具ヲ備ヘタル晝間又ハ夜間用ノ室及ビ總テ置ストーヴ、料理用ストーヴ及ビ暖房機（カロリフエール）等ヲ備ヘタル場所ハ空氣ヲ流通セシムベキモノトス

第四十四條　本項ニ揭ケタル規定ハ瓦斯專用暖房及ビ點燈ニ關スル千八百六十二年二月十八日及千八百六十八年四月一日附ノ達ニ揭ケタル規定及ビ火災ニ關スル千八百九十七年九月一日附警察令ノ規定及ビ煙突ニ關スル千八百九十七年十一月廿五日ノ達ニ之レヲ附加スルモノトス

第六項　飲料水ノ供給

第四十五條　晝間又ハ夜間用住居ニ充ツル建物ハ總テノ床ニ供給スル爲メニ適當ニ設ケタル導管ヲ以テ飲料水公配管ト之レヲ連絡スルコトヲ要ス

猶又建物ニ於テ洗滌用及ビ工業用水管ノ設ケアルトキハ此種ノ管ハ赤色ニ塗リテ區別シ飲料水管ト決シテ之レヲ連絡セシムコトヲ得ズ

第四十六條　食物ノ調理及ビ飲料ニ供スル水ハ飲料水ノ外使用スベカラズ

飲料水道栓ヲ雜用ニ供スル爲メ便所内ニ設クルコトヲ得ズ

不可抗力ノ場合ヲ除キ飲料水ハ家屋居住者ヲシテ自由ニ使用セシムベキモノトス

第四十七條　水口ハ排水管ト連絡シ且第六拾條ノ規定ニ依リ設置シタル排泄孔口ノ上ニアラザレバ之ヲ置クコトヲ得ザルモノトス

濕氣ニ對シ水口ノ附近ニ於ケル壁若クハ床板ノ保護スベキ豫防的設備ヲナスベキモノトス

第四十八條　飲料水道栓ハ上昇水道管ヨリ直接ニ水ノ供給ヲ受クベキモノトス必要上止ムコトヲ得ズ水溜ヲ經テ水口ニ水ヲ出サシムル方法ニ依リ水口ヲ設クルコトアル場合ニハ其水溜ノ設備及ヒ手入方ニ於テ水ヲシテ汚レ又ハ其他一切ノ變化ヲ蒙ムルコトナカラシメ又水溜ヲ明ケ之レガ掃除ヲ容易ナラシムル一切ノ豫防的設備ヲ爲スベキモノトス（備考）公共衛生ニ關スル千九百〇二年二月十五日ノ法律第一條ニ依リテ定メラレタル市衛生規則、市、町、村ニ適用スベキ雛形A

第廿七條飲料水溜ノ內側ハ水ノ爲メニ變化ヲ蒙ル恐レナキ材料ヲ以テ之レヲ造ルベキモノトス但亞鉛ヲ用ユベカラズ

其上部ハ埃液体其他一切ノ異物ヲシテ侵入スルコト能ハサラシムル樣之レヲ密閉スベシ

飲料水溜ハ日光ノ射入ヲ受クル場所ニ之レヲ置クベカラズ又家庭用汚水若クハ廢物ノ排泄管ノ附近ニ之レヲ置クコトヲ得ズ、其下部ニ洗滌用栓ヲ設クベシ

飲用水溜ハ常ニ清潔ニ之ヲ保管スベキモノトス

第四十九條　堀井戶ノ水ハ飲料品若クハ食物ヲ入ルベキ容器ヲ洗滌スルガ如キ食物ト間接ノ關係アルモノハ勿論食物ト關係アル一切ノ用途ニ之ヲ用ユルコトヲ得ズ

其他ノ用途ニ井水ヲ使用セントスル時ハ其使用前少クモ廿日前ニ「セース」縣知事ニ豫メ届出ズベキモノトス

第五項

第五十條　住居ニ用ユルコトヲ得ル建物ノ屋根ハ阻水的ノ材料ヲ以テ之ヲ造ルモノトス

第五十一條　屋根ノ低キ部分ニ於テ適當ナル大サニテ阻水的ノ雨溝及ヒ橫樋ヲ設ケ雨水ヲ受クルモノトス雨溝若クハ橫樋ノ傾斜ハ堅樋ヲ口ニ向ヒ停滯スルコトナク速カニ水ヲシテ流入セシムルニ足ルモノトスベシ此竪樋ノ孔口ニハ數多ノ小孔ヲ穿チタル蓋ヲ附スルモノトス

第五十二條　廢水ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ雨溝又ハ橫樋ノ中ニ之レヲ棄ツベカラズ犯カス者ハ違警罪ニ處セラルベシ

第五十三條　中庭又ハ小中庭ノ床ハ阻水的ノ材料ニテ之レヲ造リ雨水ヲ排泄孔口ニ導キ入ルヽ爲メ之レニ適當ナル傾斜ヲ附スベキモノトス

排泄孔口ハ永久的ノ密閉セル蓋ヲ附シ排泄管ト之レヲ連結スルモノトス

第五十四條　總テ便所ハ直接光線ヲ受ケ空氣ノ流通スル場所ニ之レヲ設クベキモノトス新ラタニ建築スル家屋ニアリテハ住居ニ用ユル部屋三室（料理場ヲ除キ）以上ノ各住家毎ニ其住家ノ大小ヲ問ハズ備フベキモノ左ノ如シ

第一便所壹ケ所

第二飲料水道栓ヲ備ヘタル流場一ケ所

及ビ屎尿水流場一ケ所

第五十五條　又一室又ハ二室ニ分カチ別々ニ貸付クル家ニアリテハ住居ニ用ユル部屋六室毎ニ便所一ケ所ト各床ガ一ケ所宛ノ水場ヲ前條ト同一條件ニテ設置スベキモノトス

第五十六條　團體ニテ使用スル家屋ニ於ケル便所ノ數ハ便所使用者ノ人數、使用者ノ家屋内ニ在ル時間、家屋内ニ於ケル各室ノ配置等ヲ斟酌シ家屋建築認可狀ニ於テ所轄官廳之レヲ定ムルモノトス

第五十七條　新タニ建築スル家屋ノ便所ニ於ケル固形及ビ液体物ハ縣廳ノ達ニ依リ示定セラレタル道路ニアル公設下水渠ニ直接之レヲ排泄スルモノトス

第五十八條　便器ハ室内ノ空氣ト下降排泄管内ノ空氣トノ間ニ流通ヲ防クベキ永久的ノ密閉塞ヲ形成スル機具ヲ備フベキモノトス便所ニ於テハ其便器ヲ完全ニ洗滌シ又汚物ヲ流出スルニ足ルベキ適水ヲ注入スベキ適當ナル設備ヲナスコトヲ要ス

千八百九十四年七月十日附ノ法律ヲ實施シ現存家屋ノ模様替ヲ爲サントスル時ハ千九百〇二年二月十五日附ノ法律第拾貳條以下ノ條項ニ依リテ定メタル規定ニ抵觸セザル限リハ本規則ノ規定ヲ適用スルモノトス

第五十九條　小便器ハ阻水的ノ材料ヲ以テ之レヲ造リ充分ニ追水ヲ流ス設備ヲナスカ或ハ又之レニ等シキ他ノ方法ニ依リテ消毒シ常ニ清淨ニ之レヲ保存スルコトヲ得ベキ設備ヲナスモノトス

第六十條　汚水ノ排泄孔口ハ（中庭、馬屋又ハ馬車置場、水口、流シ、水場、洗面所又ハ化粧室、風呂桶、大便所小便所等ノ排水口）ハ各々下降排水管又ハ排泄管ト連結スル前ニ永久的ノ密閉塞ヲ備フベキモノトス

前記ノ孔口及ビ大便所小便所ハ道路ニ向ヒ排出セシムルモノナレバ道路ノ水準線ヨリ低クキ位置ニ之レヲ設クルコトヲ得ザルモノトス

第六十一條　便所ノ汚物ヲ下降セシムル導管ハ雨水及ビ家庭用ノ汚水ヲ下降セシムルモノト全然之レヲ區別スルコトヲ要ス

此導管ハ共通排泄管ニ連聯セシムルモノトス

第六十二條　便所ノ下降管ハ其接處（ツギメ）ノ密着セルモノヲ用ユベシ又其直徑ハ必要ニ應ジ之レヲ定メベキモノナレドモ少クトモ拾「サンチメートル」以下タルコトヲ得ズ

此下降管ハ阻水的ノモノニシテ又通風ノ爲メ建物ノ最高部分ヲ超ユルコト少クモ一「メートル」ノ高サニ之レヲ延長スルコトヲ要ス

管ハ成ル可ク其全部ヲ露出セシムベキモノトス

第六十三條　雨水及ビ家庭用ノ汚水ヲ同時ニ受クル下降管モ亦前條ト同一ノ規則ニ準スベキモノニシテ通風ノ爲メ建物ノ最高部分以上ニ成ル可ク之レヲ延長スベキモノトス

單ニ雨水ノミヲ受クル下降管（竪樋）ハ之レヲ除外トス此管ハ雨溝又ハ横樋内ニアラザレバ其上部ノ孔口ヲ設クルコトヲ得ズ

第六十四條　排泄物（糞尿）及ビ屎水ハ阻水的ニシテ通風ノ設備ヲ有スル導管ヲ下降管ト連結シ途中ニ停滯セシムルコトナクシテ之レヲ公設下水渠ニ排泄セシムルモノトス此下降管ノ大サハ必要ニ應ジ之レヲ定メベキモノナレドモ公設下水渠ト連結スル箇所ニ於ケル大サハ直徑十二「センチメートル」ヲ下

ルヿヲ得ザルモノトス

第六十五條　排泄管ハ眞直ナル管ヲ可及的大ナル彎曲ヲ有スル管ニテ連結シタルモノニテ之レヲ造リ少クモ一「メートル」ニ付キ平均三「センチメートル」ノ傾斜ニテ之レヲ設置スベキモノトス

前記最終ノ條件ヲ實行スルヿ能ハザル特別ノ場合ニ於テハ所轄官廳ハ排水溜又ハ其他ノ排水法ヲ採用セシムルヿヲ得

第六十六條　排泄管ト下降管トノ連結ハ最少限五拾「センチメートル」ノ屈曲ヲ有スル彎曲管ヲ以テ之レヲナスカ或ハ又排泄管ト四十五度ノ角ヲ形成スル枝管ヲ以テ之レヲ連結スルモノトス

直徑ノ相違セル管ヲ相連結スル場合ニハ其必要ニ應ジ圓錐形、眞直形又ハ斜弓形ノ管ニテ之レヲ連結スベキモノトス

第六十七條　排泄管ハ抵抗力ヲ有シ阻水的ニシテ且腐敗セザル材料ヲ以テ造リタル表面滑ラカナル管ヲ漏水セザル方法ヲ用ヒテ連結シ之レヲ造ルモノトス

此連結點ハ其如何ナル部分ニ於テモ家屋ノ石工部内ニ包入スルヿヲ得ズ且出來得ル場所ニ於テハ至ル所外部ニ之レヲ露出セシムルヿヲ要ス又此導管ニ容易ニ近ヅキ得ベキ檢査孔ヲ充分多數ニ設ケ此檢査孔ノ動カスヿヲ得ル蓋ハ嚴重ニ密閉スルヿヲ得ル構造之レヲ造ルベキモノトス此導管ハ此導管ヨリ排泄ヲナス公道ニ於ケル地床ノ水準線ニ至ル迄其内部ニ水ヲ充滿セシムル結果生ズル所ノ内部ノ壓力ニ抵抗スル力ヲ有スルモノタルベシ

第六十八條　諸種ノ機具及ビ總テノ吸引並ニ排出導管ノ氷結ヲ避クル爲メニ必要ナル一切ノ方法ヲ採用スルヿヲ要ス

第六十九條　排泄導管内ニ便所、排泄孔口又ハ檢査口ヨリ固形物、食器及料理場ノ破片、料理場ノ塵芥、馬糞、液体物又ハ製造品ヨリ生ズル廢物等ニシテ導管ヲ閉塞シ空氣ヲ有毒ナラシメ可燃性又ハ危險ナル蒸氣若クハ瓦斯ヲ發生スベキモノヲ棄ツルヿヲ嚴禁ス

又私設排泄導管ニ依リテ酸氣ヲ帶ビタル水ヲ棄ツルヿヲ禁ズ、此種ノ水ハ豫メ中和セシメタル後導管ニ棄ツベキモノトス

熱湯ハ三十度以下ノ溫度ニ冷却スベキモノトス

第七十條　古ルキ家屋ヲ有スル家主ガ直接公設ト水渠ニ排出ヲナサントス欲スル時ハ豫メ其工事設計書ヲ所轄官廳ヘ差出スベキモノトス

此設計書ハ工事ノ寸法ヲ示セル圖面（平面、截面、竪面）及ビ水ノ分配排泄管ノ大サ及ビ其傾斜等ヲ說明シタルモノヲ含ム

當該官廳ヨリ認可ノ通知ナキ内ハ其受領証ニ証明シアル工事設計書提出ノ日ヨリ廿日後ニ工事ニ着手スルヿヲ得ベシ但此衛生規則ノ規定ニ抵觸セザル範圍内ニ於テ工事ヲナスベキモノトス

第七十一條　家屋ニ於ケル衛生上ノ設備ニ關スル改造又ハ增築（溝道、下降管、便所、水口等）ハ豫メ届出ヲ爲シタル上ニアラザレバ之レヲ實行スルヿヲ得ザルモノトス、此届書ハ當該官廳ニ差出シ之レニ實行スベキ改造工事ノ平面及ビ截圖面ヲ添付スベキモノトス

第七十二條　新築家屋又ハ古ルキ家屋ニ於ケル衛生上ノ設備ニ關スル工事（水ノ分配、廢水又ハ排泄物ノ排出）請負人ハ千八百三十八年七月廿日附ノ警視廳令第一條ノ規定ニ基キ豫メ工事ニ付届出ヲ爲スベキモノトス

廣告目次

イ、原安商會　一六
ロ、日本コルク株式會社　裏表紙裏
ハ、日本石綿盤株式會社　三一
ニ、ホーン株式會社大阪支店　一五
ホ、米國貿易會社　三〇
ヘ、東京電氣株式會社　（前）一
ト、大阪鐵筋混凝土工務所　裏表紙表
チ、大阪煖房商會　一八
リ、大阪窯業株式會社　二二
ヌ、大野式特許品營業所　一七
ル、川崎工場　七
ヲ、河津商店　三三
ワ、横河橋梁製作所　一八
カ、高石商會　二一
ヨ、高田商會　一九
タ、内外土木建築材料合資會社　三四
レ、村井工業所　二六
ソ、宇野澤組スティンド硝子製作所　三六
ツ、野澤幸三郎　二六
ネ、山本窯業商店　一二
ナ、山本商會　三五
ラ、松尾和助商店　裏表紙表
ム、建築事務所案内　四―七
ウ、建築請負業者案内　八―一二
ヰ、コルク工業合資會社　二七
ノ、榮進社　二三
オ、淺野スレート株式會社　二四
ク、淺海商店　二五
ヤ、銀座建築用品店　一四
マ、共同建材製作所　二九
ケ、明正社　（前）二
フ、材石材商案内　一三
コ、須賀商會　二八
エ、巢鴨製作所　三二